373
544

沖縄縣總務部統計課編

沖縄縣勢要覽

昭和十二年版

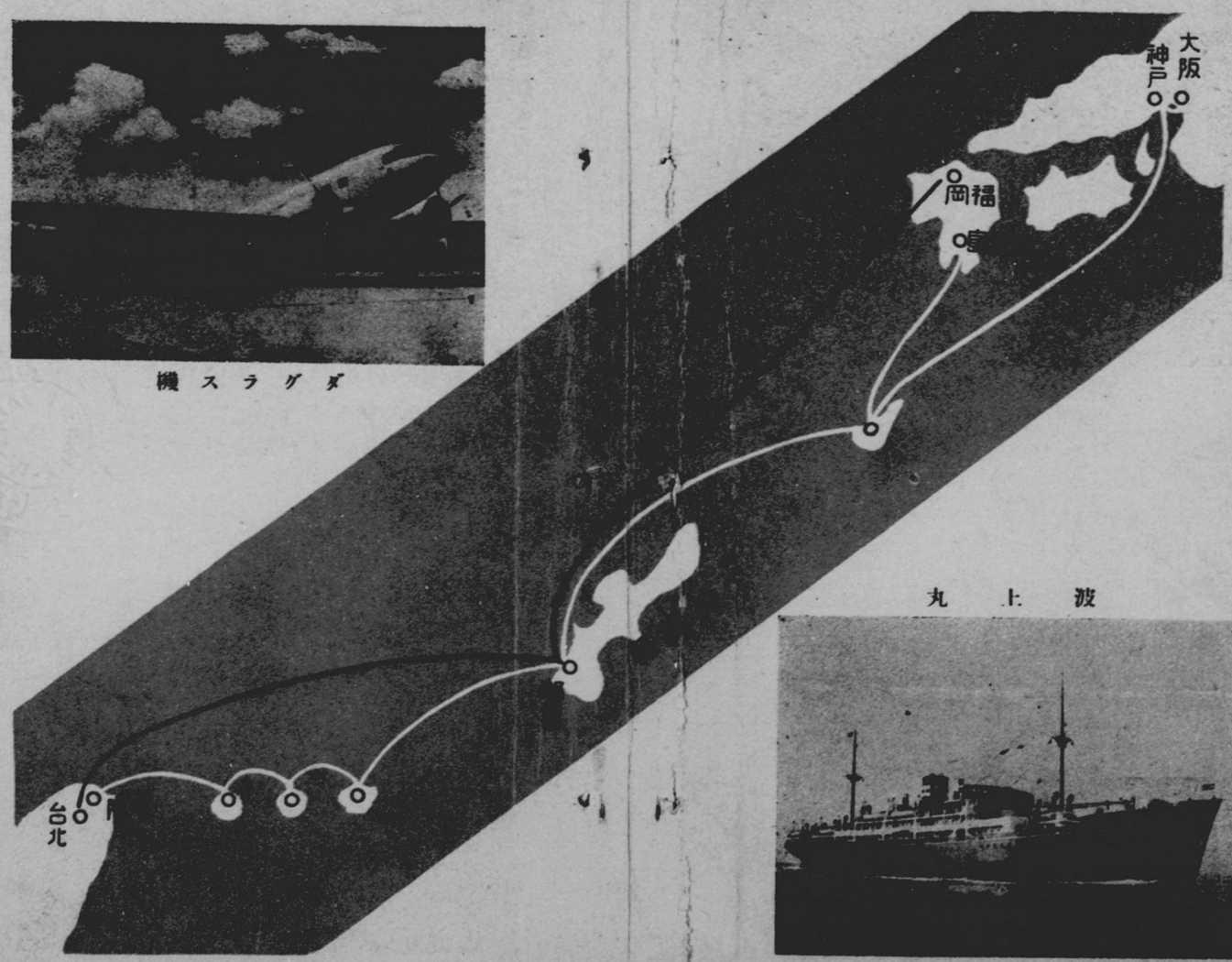
373
544

縣勢要覽

昭和十二年版

373
544

ダグラス機



波上丸

(上)沖繩縣廳

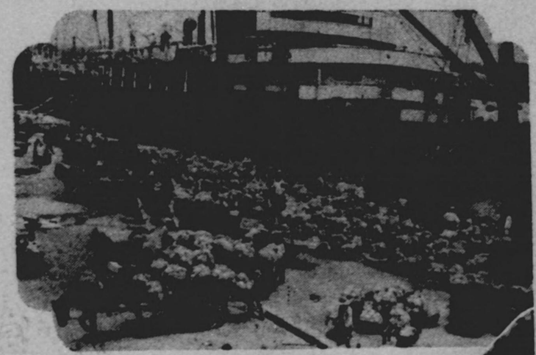
(中)首里城正殿

(下)尙侯爵邸別莊(識名園の一部)

我如古の一本松
（中頭郡宜野灣村）

爲朝公上陸地の記念碑
（國頭郡今歸仁村）

奇觀を呈せる鵬舌蘭の花
（中頭郡西原村）



那覇港に於ける甘藷移出狀況

沖縄製糖會社嘉手納工場

黑糖檢査狀況

開花せる甘藷（上）

甘蔗大莖種蔗園（中）

雅致に富む縣產陶磁器

373
544

凡例

一、本書は本縣の大勢を知るに便せんが爲主要なる事項に付記述したるものなり。

一、本書は昭和十年の事實を基礎としたるも特に必要と認めたるものは既往三年乃至五年の事實を併記し後出帽長を便覧するの便に供したり。

一、附錄として歴代長官、諸官衙其他、多數舊蹟、メートル法と尺貫換算表、電報及郵便料金早見表、縣内鐵道略圖表、縣廳組織一覧表等を集錄せり。

昭和十二年

沖縄縣總務部統計課

昭和十二年 帝國圖書館藏

沖繩縣勢要覽

目次

一、沿革……一
二、位置……二
三、地勢……三
四、廣袤及面積……四
五、氣象……五
六、土地……七
官民有地總覽……七
民有々租地……八
七、行政區劃……九
市町村數及字數……九
貴族院議員……一〇
衆議院議員……一〇
縣會議員……一〇
八、戶口……一一
人口靜態……一一
職業別現住戶口……一三
人口動態……一三
九、社寺……一四
神社及神職……一四
寺院及住職……一五
神道及教會……一五
一〇、兵事……一六
受檢壯丁成績……一七
應軍志願兵成績……一八

一一、社會事業……一九
救護法に依る救護……一九
少年救護院球陽學園……二〇
免囚保護沖繩自營會……二〇
恩賜財團濟生會救療患者……二一
軍事救護……二一
赤十字社……二一
愛國婦人會……二三
褒　賞……二三
養老受賞者……二三
一二、教　育……二三
小學校及學級……二三
學齢兒童……二四
學齢兒童不就學……二五
小學校兒童……二五
小學校入學及卒業兒童……二六
小學校教員……二七
小學校教員俸給調……二七
諸學校……二八
幼稚園……二九
青年學校……三〇
圖書館……三〇
公學費……三一
一三、生產總額……三三
郡市別生產總額……三三
一四、農　業……三四
農家戶數……三四
耕地所有別農家戶數……三六
耕地耕作別農家戶數……三六
耕地原野面積……三七
自作小作別耕地段別……三八
米……三九
麥……四〇
製糖用甘蔗……四一
食用農產物……四二
園藝農產物（蔬菜及花卉）……四三
同　（果實）……四四
工藝農產物……四五
葉　煙　草……四五
一五、蠶　絲　業……四六
養種及蠶繭……四七
桑　畑……四八
一六、畜產業……四九
家　畜……五一
牛　乳……五一
家　禽……五二
一七、林　業……五三
林野面積……五三
林野產物……五三
一八、鑛　業……五四
鑛產物……五五
石材及土石……五五
一九、水產業……五六
水產業者……五七
漁　船……五七

水產物……六六
二〇、工業……六九
糖業……六九
製糖戶數……六一
製糖……六三
漆器……六五
陶磁器……六六
酒類……六七
織物……六八
二一、蠶業……七〇
茶畑及製茶……七一
桑園莫蕃及花莖……七一
帽子……七二
二二、商業……七二
商工會議所……七三
工場……七三
會社……七四
二三、金融……七四
銀行……七五
無盡……七六
公設質屋……七六
私營質屋……七七
二四、產業組合……七七
產業組合數……七八
產業組合狀況……七八
道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會狀況……七九
二五、交通及運輸……七九
道路……八〇
乘合自動車……八〇
諸車……八〇
軌道……八一
航路……八二
船舶……八三
鐵道旅客及貨物……八四
縣外輸移出入貨物……八五
二六、通信……八六
郵便……八七
電信及電話……八八
二七、財政……八九
縣歲入……八九
縣歲出……九〇
市町村費支出狀況……九一
租稅負擔ノ狀況……九二
縣債……九三
市町村債……九三
二八、警察……九四
所數及電話設置數……九四
犯罪發生並檢舉件數……九五
被害屈出件數……九五
二九、衞生……九七
一方里ニ對スル醫師數並產婆、看護婦數……九七
傳染病……九七
種痘成績……九八
病院……九八
醫師其他……九八

上水道……九九
三〇、健康保險……九九
工場事業場數並被保險者數……一〇〇
療養給付狀況……一〇一
三一、海外渡航者……一〇一
海外渡航人員並送金額……一〇二
三二、電氣事業……一〇二
三三、縣下ノ言論界……一〇三
新聞紙一覽表……一〇四

附錄

名勝舊蹟
縣內各市町村の町字名
歷代長官
諸官衙學校其他
メ！トル法と尺貫法の換算表
電報及郵便料金摘要
內國電報料金早見表
那內鐵道時間表及料程
縣廳組織一覽

一、沿革

島尻、中頭、國頭三地方の名は古くより稱せられ琉球國主が統治し六百年前南北朝の頃より五百年前三時代迄一世紀間は中山、南山、北山に分裂して三王覇を爭ひ、南山は今の島尻郡の大部、北山は今の國頭郡宮古時中山王は首里、那覇及び眞和志南風原と中頭の全部を領有するに過ぎざりき。三山統一後を各間切（村）に領主あり、數地に割據し今より四百年前尙眞王時代に武器を撤廢し、更に中央集權を施行して諸大名を首里に集居せしめ、各間切に按司按と云ふ代官を派遣して之を治めしめ、三百年前（寛永十六年）より之を廢し人民より中地頭代を拔擢して行政を司らしめたり、然るに明治十二年三月二十七日琉球藩を廢して沖繩縣を置き、那覇西村內務省出張所（元薩藩奉行詰所）を假縣廳に當て廳舍改築の爲め同十三年十二月より東村なる薩大使館に移轉して廳務を開始し同十四年六月に至り新廳舍落成したるを以てこれに移轉し爾來四十年間此の地に在りしが其後大正九年現廳舍新築して之に移轉するに至れり、明治十三年縣內行政區劃を那覇、首里、島尻、中頭、國頭、伊平屋、久米宮古、八重山の九の地域に役所を設置し事務を處理せしめ明治二十九年四月勅令を以て郡區編成の件公布せられ那覇、首里に區制を施行せらる。島尻、中頭、國頭、宮古、八重山の五郡に分ち久米慶良間、伊平屋及び大東島は交通等の關係上島尻郡の所轄と爲る。

明治四十一年三月勅令第四五號を以ひ從來「間切」と唱せし地域を「村」と改稱し同年勅令第四六號を以て沖繩縣島嶼町村制（明治四十一年四月より實施）を施行せられ同四十二年四月一日より府縣制特例を布かる、同四十五年初めて衆議院議員選擧法施行、大正九年四月一日より府縣制特例撤廢せられ同時に他府縣同樣一般町村制施行せらる、續いて大正十年五月廿日那覇、首里兩市に初めて普通の市制を施行せられ、今日に至る。

二、位置

我が沖繩縣は東經百二十二度五十五分、北緯二十四度二分に起り、東經百三十一度十九分、北緯二十七度五十一分に亘る間に棋布せる大小六十有餘の島嶼より成り島嶼の最も大なるものを沖繩島と稱し、周圍百十餘里を本島と呼び、宮古、八重山の二大島を先島と唱へ其の他大小數十の島嶼之に附屬す。

縣廳所在地	那覇市美榮橋町	東經 一二七、四一 北緯 二六、一三
極東	島尻郡北大東島	東經 一三一、一九
極西	八重山郡與那國村西崎	東經 一二二、五五
極南	八重山郡竹富村字波照間	北緯 二四、〇二
極北	島尻郡鳥島	北緯 二七、五一

三、地勢

地形　東北より南西に延び蜿蜒として長蛇の洋上に浮ぶに似たり之を沖繩と云ひ流虬と呼び皆地形より出でし稱呼なりとの說を存ずるに至れるが如し、東は一帶太平洋に面して、北は鹿兒島縣に隣接し、南は一衣帶水の台灣と相呼應し、西は遙かに海を隔てゝ南支那の福建省と相對峙す、前述の如く大小數十の群島より成るを以て海岸線の延長は三百九十四里に及び且つ沿岸の屈曲多しと雖も珊瑚礁多き爲め良港に乏しく高岳峻嶺の聳ゆるものなく長河大川の流るゝものなきを以て水利灌漑の便を缺げる地方あり。

地質　本島の北半部慶良間島、石垣島は大古代の水成岩を地體とし鳥島、粟國島、久米島並に石垣島、西表島の北部は火成岩を地體とす。又沖繩本島の南半部宮古及び西表島の南部は近代の水成岩を地體とす而して本島北半部の古水成岩は粘板岩、砂岩、石灰岩を主とし、石垣島の火成岩には輝綠岩、閃綠岩、花崗岩等を見る、本島南部の新水成岩は第三紀に屬する泥岩、砂岩の播布最も多く、其の上に洪積期に屬する舊珊瑚礁を冠し沿岸低夷の地は沖積層又は新珊瑚礁よりなる、而して陸地に接する海中には現に新珊瑚礁の構成せらるゝを見る。

四、廣袤面積

本縣の廣袤は約東西二百十五里、南北百七里、面積は百五十四方里餘にして、全國中第四十三位に在り、佐賀縣、神奈川に近似す。

郡市別比較

郡市別	東西	南北	面積
	里町	里町	方里
那覇市	〇、二四	〇、二九	〇・三三
首里市	〇、二二	〇、一九	〇・一五九
島尻郡	二七、二五	九六、〇二	二六・二五九
中頭郡	八、二〇	六、二七	一八・六六〇
國頭郡	一四、二九	二二、二四	五一・七六二
宮古郡	二〇、一〇	九、二五	一六・二一〇
八重山郡	三五、〇九	一六、〇五	四一・三七
計	三五、二七	一〇七、三五	一五四、七八

五、氣象

本縣の氣候は所謂亞熱帶の常夏氣候にして加之海洋性の氣象を帶ぶるが故に、氣溫高くして暑氣の期間甚だ長きを以て特徴となせども、晝夜及び四季寒暖の差少き爲め盛夏七、八月の最高氣溫華氏九十五度九（攝氏三十五度五）にして未だ華氏百度の酷熱溫度に達したることなく却つて九州地方より暑氣の熾烈ならざるを覺ゆ。而して冬季は又特に溫暖にして二月の最低氣溫華氏四十度（攝氏四度九）を保ち氷點以下の溫度に降りたることなく嚴寒の候と雖も霜雪殆ど絶無にして氣候概して溫暖なり空氣は水蒸氣に富み多雨多濕にして陰曇の天氣多きを特徴とす、而して一日間の降雨四百二十七粍の多量に上り、或は一年間の過半は雨天にして其量二千粍を超過し、實に海内屈指の多雨地に屬す。就中五、六月の候殊に降雨多量なり、風は甚だ強く殊に颱風の襲來を以て知らる、而して夏秋の暴風雨は特に猛烈にして既往に於ける最強風は那覇秋速四十七米、八重山島七十米を示せり、然れども主風は夏季半歲は偏南風にして弱く、冬季半歲は偏北風にして稍強きを常とす。

那覇に於ける氣象を月別に示せば左の如し

那覇氣象

昭和十年

	氣壓(粍) 最高	氣壓(粍) 最低	氣壓(粍) 平均	氣溫(攝氏) 最高	氣溫(攝氏) 最低	氣溫(攝氏) 平均	濕度(%) 最小	濕度(%) 平均	降水量(粍) 廿四時間	降水量(粍) 總計
一月	七六九●八	七五四●四	七六三●五	一八●三	一三●六	一五●八	五●〇	七三●九	一五●一	七九●七
二月	七六八●七	七五六●六	七六三●一	一九●五	一四●三	一五●〇	五●〇	七五●三	一四六●七	一四六●七
三月	七六六●〇	七五一●四	七六一●〇	二〇●八	一五●六	一六●八	四●六	七八●八	一〇〇●八	二五六●四
四月	七六五●二	七五三●二	七五八●五	二二●四	一八●二	一六●一	四●〇	七九●五	二九八●五	二九八●五
五月	七六三●〇	七五一●五	七五七●三	二五●九	二〇●二	二〇●七	五●〇	八三●四	八一●二	二三五●〇
六月	七五九●二	七五〇●三	七五五●四	二七●三	二三●六	二三●〇	五●〇	七九●五	八一●二	二三五●〇
七月	七五九●七	七四五●六	七五三●七	二九●八	二五●六	二四●九	六●七	九〇●六	八六●二	八四●〇
八月	七六一●九	七四六●〇	七五三●六	三〇●二	二五●六	二七●三	六●三	八六●二	二八●四	二三●一
九月	七六二●〇	七三四●四	七五四●四	二六●一	二三●七	二五●九	五●〇	八四●〇	二八●一	九●一
十月	七六〇●六	七五三●九	七五九●八	二六●九	二一●一	二三●七	四●九	七七●〇	一四六●五	一〇二●八
十一月	七六〇●〇	七五六●九	七六二●〇	二四●三	一八●九	二一●四	五●二	七九●六	一二●九	七二●九
十二月	七七〇●〇	七五四●六	七六三●六	二〇●三	一五●八	一八●〇	五●二	七七●六	一三●九	九八●〇
計	七七〇●〇	七四四●四	七六一●八	二四●六	一三●六	二三●〇	四●六	八〇●七	一〇〇●八	二、二六九●四

六、土地

官有地は總面積の一割六分を占め、民有地は八割四分を占む、更に民有々租地の總反別を種目別に比較すれば田は五分、畑三割三分、宅地二分、山林三割九分、原野一割七分、其の他四分となる。

官民有地總覽

昭和十年十二月末

郡市別	總反別	官有地	民有地 有租地	民有地 免租地	有地	總反別百中	免租地一年期地	官有地	有租地	免租地一年期地
那覇市	三、四二反	六五反	二、八〇五反	五八反	七三反	一●九	八〇●六	一五●五	二●〇	
首里市	五、七五三	七	五、二三七	五〇九	—	〇●一	九一●〇	八●九	—	
島尻郡	三三五、四二九	四、八九六	三八、九二〇	一、一六二	四五一	一●五	九五●〇	三●三	〇●二	
中頭郡	二四六、七四五	二六九	二三七、四三八	八、七六一	二七七	〇●一	九六●二	三●六	〇●一	
國頭郡	七七七、〇四三	二三九、一三七	六一四、二六八	一三、三六四	二三四	一七●一	八一●一	一●八	〇●〇	
宮古郡	二三三、三九七	一四	二〇三、九六九	一六、七四八	二、六六六	〇	九一●三	七●五	一●二	
八重山郡	三七五、四九〇	二五一、三六五	三一〇、二三七	五、六六九	八、〇一九	四三●七	五三●九	一●〇	一●四	
計	二、一四七、三三八	三六五、九七三	一、六九二、八五四	三五、一六一	二、六〇一	一八●〇	七八●八	二●六	〇●六	

民有々租地

昭和十二年十二月末

	總反別	田		畑		宅地		山林		原野		其他	
		實數	割合	實數	割合	實數	割合	實數	割合	實數	割合	實數	割合
那覇市	二、八〇五反	七五反	二・七	七三三五反	一、六八七六〇反	一・一	三反	一・一	四四反	一・六	二四五反	八・七
首里市	五、三三七	一	〇・一	三、五七三六八	一、一六六三・三	二五二	四・八	二一三	四・〇	三二	〇・六
島尻郡	三八、九二〇	一六、〇〇八	五・〇	一四三、一九二四四	三、三二〇・九	七、五六〇三四	三・三	六三、六五五二〇	六・二六五	二・〇
中頭郡	二五七、四三八	二三、七九二	五・八	一三九、一七五	五八、五六六・一	四五、八七二九	二・三	二五五、四八六二〇	〇・四	〇・四
國頭郡	六一四、二六八	三六、〇〇四	四・二	九八、七五六・一	七、八七〇・一	四〇七、七八五六	一・四	七三、一五六一一	九・九	七一七	〇・一
宮古郡	二〇三、九六九	二、八〇六	一・四	一二九、五七三	六三・五	五、〇一七	二・五	一一、九六六	五・八	四九、九七九三四	四・五	四、六〇九	二・三
八重山郡	三一〇、二五七	二〇、一〇四	六・五	三八、六一五	二一・四	二、六五三	〇・九	一二一、〇五九	三五・八	八二、六六三二六	六・五五	一四三	二七・八
計	一、六九二、八四五	七八、七六〇	四・六	五五五、六〇五	三二・五	二、七四三、八〇五	二・五	六六四、五四四五	三八・七	二九、一七四	一六・四	六七、九五五	四・一

七、行政區劃

本縣の行政區劃は二市五郡に分割せられ町村は五四にして内町四、村五〇を有し字は五〇四あり、其の他島尻管内に於て南大東、北大東、沖大東あり之を總稱して大東島と呼び沖繩本島を東に距る約二百二十海里の洋上に位す。南、北大東島は砂糖を產し、沖大東島（ラサ島）は燐鑛を產す。大東島の行政事務は縣より屬官を派遣し處理せしむ。

市町村數及字數

昭和十年十二月末

	市	町	村	計	字
那覇市	二			二	
首里市					
島尻郡					
中頭郡					
國頭郡					
宮古郡					
八重山郡					
計	二	四	五〇	五六	二〇四

貴族院議員

	人員	有權者數	納稅額	一人當納稅額
昭和七年	一	一〇〇	四六、八二六円	四六、八二六円
大正十四年		九六	七四、七三〇	七四、七三〇

衆議院議員

	定員	有權者數	投票數	棄權率
昭和七年	五	一四一、一七四	八八、四七五	三七・三
同十年	五	一三七、三二三	九一、二五九	三三・五三
同五年	五	一三三、五八七	九〇、三一八	三二・五九

縣會議員

	定員	有權者數	投票數	棄權率
昭和七年	三〇	一三五、四六四	八五、六三九	三七・七五
同十年	三〇	一三九、八六八	八四、三〇八	四五・五六
大正十四年	三〇	六六、七四六	五三、六一二	二〇・二六

八、戶口

昭和十年國勢調査に依れば本縣の世帶は一二六、四三二戸、人口五九二、四九四人にして全國總世帶數の九分四厘、人口の八分八厘に當る。之を五ヶ年前の昭和五年國勢調査に依る人口五七七、五〇九人に比すれば二分六厘の增加となる。

昭和十年四月一日現在の現住戶數を職業別より見るに農業が最も多數を占め、總戶數の七割一分二厘に當り、次は工業の六分四厘、商業の五分七厘、其他は五分以下となる。

人口靜態

昭和十年國勢調査　昭和五年國勢調査　增減（△減）

	世帶數	人口 男	人口 女	人口 計	世帶數	人口	世帶數	人口
那覇市	一五、二四一	二九、五二七	三五、六八一	六五、一〇八	一四、三〇二	六〇、五三五	九三九	四、六七三
首里市	四、七二一	九、〇八七	一〇、二二八	一九、三〇五	四、七四六	二〇、一一九	一七五	八一四
島尻郡	三、六一四	七三、八〇五	八〇、七九七	一五四、六〇二	三、二五九	一五一、三三一	三五五	三、二七一
中頭郡	三、三四二	六九、二四九	七七、三六九	一四六、六八八	三〇、六一〇	一四三、五七八	七三一	三、〇四〇
國頭郡	三、三五三	五〇、七一七	五六、一七六	一〇六、八九三	三、八九五	一〇七、一三八	五八八	二三五
宮古郡	二、二七一	三一、六三九	三四、一三三	六五、七六一	二、五七五	六二、三六七	三三	四、三九四
八重山郡	六、九四〇	一七、二四二	一六、八六五	三四、一〇七	六、八七七	五三、四五二	六九六	六五六
計	一二六、四三二	二六一、二六六	三二一、二二八	五九二、四九四	一二三、二七四	五七七、五〇九	三、一六八	一四、九八五

職業別現住戸口

昭和十年四月一日

	戸數	本業ニ屬スル人口		
		男	女	計
農業	八、〇七七	二〇、九六〇	二三七、六九七	四三八、六七七
農業	七五、二七四	四八、三五三	五六〇	一、〇五三
畜産業	七、六九八	二三、〇三三	三〇〇	三三、三三三
林業	七、五三三	三、八六	三、五五	七、二〇
計	八六、八三三	二〇、九六〇	二三七、六九七	四三八、六七七
水産業	三、八五九	一〇、八六七	一〇、八六七	二一、三七四
鑛業	一、一〇一	一、一七九	一、〇三五	二、二〇八
工業	七、七五五	一四、八六七	一七、〇五一	三一、九一八
商業	六、八八三	一四、一〇四	一五、四七二	二九、五六六
交通業	五、〇九九	八、〇五八	九、二五六	一七、三五四
公務自由業	四、五九八	二、二三一	二、〇二八	四、二五九
其他有職者	一、三五八	一、四三五	八九一	二、三二六
家事使用人				
無業	五、〇〇八	一〇、八六七	一〇、八六七	二一、三七四
合計	三、八〇〇	二九、六六八	二六、六九〇	五六、三五八

人口動態

十二月末日現在

	婚姻	離婚	出生	死亡	死産	出生死亡ノ差
昭和十年	五、六九八	八〇七	一六、四一三	九、五六五	一	六、八四八
同九年	五、七一七	八〇四	一五、四九四	九、二八二	四	六、二二二
同八年	五、〇四六	七三六	一四、九九三	九、四四一	三	五、五五二
同七年	四、六六七	七〇九	一四、七一六	九、一七七	四	五、五三九
同六年	四、四八〇	七一三	一四、一七六	九、七二七	四	四、四三九

九、社寺

本縣に於ける神社は官幣小社波上宮（祭神本宮は伊弉冊尊、相殿に事解尊男、速玉男尊を奉祀し明治二十三年官幣小社に列せらる。同宮には古來神寶と傳へ來れる顯德三年の銘ある銅鐘あり、明治四十年國寶と指定せられ）縣社沖縄神社（祭神國祖舜天王、尙圓王、尙敬王、尙泰侯を主神とし源爲朝を配祀し大正十五年十月縣社に昇格す）の二社を始め無格社（沖宮、識名宮、八幡宮、天久宮、普天間宮、金武宮、末吉宮）の七社と外に本縣固有の神祇たる聞得大君殿及ノロ殿内と稱する禮拜所二百二十七ヶ所とを合せ二百三十六社あり。

神社及神職

	官幣小社		縣社		無格社		拜所		計	
	神社	神職	神社	神職	神社	神職	社	神職	神社	神職
昭和十年	一	三	一	七	三	三七	三六	二五	二五	二〇
同九年	一	三	一	七	三	三七	三六	二五	二五	二〇
同八年	一	三	一	七	三	三七	三六	二五	二五	二〇

十二月末日現在

寺院及住職

	眞言宗		臨濟宗		眞宗		日蓮宗		天台宗		計	
	寺院	住職	寺院	住職	寺院	住職	寺院	住職	寺院	住職	寺院	住職
昭和十年	五	八	一五	一四	一六	七	七	二	四	三	三	一
同九年	五	八	一五	一四	一六	七	七	二	四	三	三	一
同八年	五	八	一五	一四	一六	七	七	二	四	三	三	一

十二月末日現在

神道及教會

	金光教		天理教		基督教		計	
	教務所	信徒	教務所	信徒	教務所	信徒	教務所	信徒
昭和十年	一	三〇八	三〇	二、四三九	一八	一、五七三	五九	四、二〇〇
同九年	一	三〇八	三〇	二、四三九	一八	一、五七三	五九	四、二〇〇
同八年	一	三〇八	三〇	三、一五二	三	一、六六八	四三	五、一二七

十二月末日現在

一〇、兵事

明治二十三年始めて本縣より陸軍教導團志願者を出し明治二十七八年戰役に從軍し殊勳者尠からざりしを以て同二十九年陸軍六週間現役兵條例施行せられ其後一般縣民に對し軍事思想普及の結果逐年軍籍に志願するもの續出するに至り明治三十一年一般徴兵令施行せらる。明治三十七、八年戰役に從軍したるもの三、八六二名、大正三、四年戰役に從軍したるもの三七一名、大正九年出征したるもの五五六名、其他濟南、滿洲事變等にも多數出征し右從軍者の內功五級金鵄勳章拜受の殊勳者多數を出し其他戰死者遺族廢兵に對し特別賜金を下賜せらるゝ等一般に皇恩の優渥なるに感銘し、又大正三年一月第六師團より支隊を派遣し各種の演習を擧行せるを始めとし大正八年以來本縣に於て動務演習召集を施行するに至り一層軍事思想の向上を見るに至れり。

昭和十年度に於ける徴兵檢査受檢人員は五、二四三名にして、內甲種合格者一、三五八名、第一乙種五四五名、第二乙種九三八名、丙種一、六八五名、丁種七一六名、戊種一名なり。

昭和十一年一月十日海軍兵として一〇〇名佐世保海兵團に入營し八三九名は一月十日九州各隊へ入營尙特務兵三二七名、近衛步兵一六名入營す。海軍志願兵應募者は年々增加の傾向にして昭和十年度受檢者は一六九名にして內一二名合格入團す。

受檢壯丁成績　昭和十年度

	甲種	第一乙種	第二乙種	丙種	丁種	戊種
那覇市	二三	四七	九三	一五七	四六	—
首里市	六一	二七	四四	七七	三四	—
島尻郡	三五二	一二八	三二〇	四七〇	一七四	—
中頭郡	三四二	一三三	三三三	四〇九	二一〇	—
國頭郡	二七六	九四	一九七	三六九	一三七	—
宮古郡	一四一	六九	九七	一三二	八八	一
八重山郡	七四	四八	五四	七二	二七	—
計	一、三五八	五〇四	九八八	一、六八五	七一六	一
昭和九年度	一、五三〇	六七二	一、三九	二、〇七七	九八八	七
同　八年度	一、三八二	六二四	一、〇八七	一、八四二	九三二	三

海軍志願兵成績

昭和十年度

	水兵	掌電信兵	航空兵	機關兵	軍樂兵	看護兵	主計兵
那覇市		一					
首里市							
島尻郡	一			三			
中頭郡	一						
國頭郡	一			一			
宮古郡							
八重山郡	一						
計	四	一		五			二
昭和九年度	九	一		四		二	

一一、社會事業

社會事業に關する事務は以前地方課に於て取扱ひたりしが時勢の推移と民衆の自覺とは一層社會的施設事業の普及發達を痛感し大正十五年七月學務部に社會課を新設し專ら社會事業に關する事務を管掌することゝなれり。尙補助機關として方面委員制度を設け市町村に百四十六名を設置し、救濟事業福利事業、教化事業、兒童保護事業等の施設に一層の力を盡しつつあり。

救護法に依る救護

△印は併救者

	生活扶助		醫療扶助		産業扶助		計		埋葬
	居宅	收容	居宅	收容	居宅	收容	居宅	收容	
昭和十年度	一、〇三九		△四三				△一、〇八九		六六
同九年度	九〇九		四四	一	二	二	九八	三	五三
同八年度	八六四		三		二		九〇三		五三

行旅病人及行旅死亡人

	行旅病人				行旅死亡人			
	救護セルモノ	救護ヲ勝セシモノ	死亡者	年度末現在救護費	病死	變死	計	取扱費
昭和八年度	三〇〇	二六六	一三三	四四七六	六六	二二	八八	六八
同九年度	三〇〇	二六六	一三三	四四七六	六六	二二	八八	六八
同十年度	三〇〇	二六六	一三三	四四七六	六六	二二	八八	六八

少年救護院球陽學園

	職員		生徒			
	年內總員	年內退員	死亡	年度末現在	收入	支出	基金
昭和八年度	九	一	一	一	一八	一八	八、七五五円
同九年度	九	一	一	一	二一	二一	八、七五五円
同十年度	九	一八	一	一	二一	二一	八、七五五円

免囚保護沖繩自營會

	職員	收容保護	間接保護	一時的保護	食費旅費等給與額	經費	收入	支出	基金
昭和八年度	一七	四八	一五九	二七三	八三	五九五円	二、〇六八	一、七八七	一、三五三円
同九年度	六	四四	一五九	二七三	八三	五九五円	二、〇六八	一、七八七	一、三五三円
同十年度	六	四四	一五九	二七三	八三	五九五円	二、〇六八	一、七八七	一、三五三円

恩賜財團濟生會救療患者

	轉歸				治療中	
	新患者	全快	輕快	廢療	計	延人員	實人員	延人員
昭和八年度	一、六三三	一、五七六	一五〇	一	一、六三三	一三、一九七	一、六三三	一三、一九七
同九年度	一、七三三	一、五三四	一八〇	六	一、七三〇	一四、九二四	一、七〇〇	一四、九二四
同十年度	二、三三	二、三六	二八〇	一	二、六四	九、二四〇	二、七〇〇	九、四五〇

軍事救護

	戶數	人員	金額
昭和八年度	四七三	一、〇八〇	三〇、二四五
同九年度	一九七	二、七八	二、五三四
同十年度	三八七	八四三	一六、〇九五

赤十字社

	特別社員	正社員	賛助社員	計
昭和八年度	三	五、二八三	五、一五一	五、四八五
同九年度	三	五、一六六	五、一九九	五、八三九
同十年度	三	四、八五九	四、五九二	四、八三九

愛國婦人會

	特別會員	通常會員	賛助員	計
昭和八年度		三、六三六	二	四、〇〇〇
同九年度	五二五	三、五五三	二	四、〇八〇
同十年度	四八五	三、三三八	二	三、五五五

褒賞

	人命ヲ救助セシ者	公益ヲ興セシ者	其他	計
昭和八年度	二九			二九
同九年度	八四	一七		一〇一
同十年度			一五六	一五六

養老受賞者（滿九十歳）

	市部 男	市部 女	市部 計	郡部 男	郡部 女	郡部 計	合計
昭和八年度	一	一	一	一	一	一	一
同九年度	一	一五	一五	一	七	七	一二
同十年度	一	九	九	九	六	六	一五

昭和十年度の學齡兒童男六一、二二七名、女五八、五六一名、合計一一九、七八八名で就學歩合は就學始期に達したるもの百人中平均九九・一〇と云ふ好成績なり。

學齡兒童

昭和十年度

	就學義務既達者								就學義務未達者	合計	就學義務既達者百中就學
	就學			不就學							
	男			男							
	女	計		女	計						
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男 女 計	
那覇市	五、〇一六	四、八六七	九、八八三	二四	一、四二〇	一、四四二	一、四二〇	一、四四二	一、六二、八六八	一、三三、六〇八	九九・三五
首里市	一、六二一	一、三三三	三、一四四	一五六	一、三二二	一、三二二	三、〇四一	三、〇四一	三、〇四一	三、〇四一	九九・三一
島尻郡	一三、一九二	一二、六七五	二五、八六七	一五五	一八六	一八七	二六、二四三	二六、二四三	二六、二四三	二六、二四三	九九・七〇
中頭郡	一三、九〇三	一二、三四〇	二五、二四三	一八七	一四〇	一六七	二〇、七九六	二〇、七九六	二〇、七九六	二〇、七九六	九八・三五
國頭郡	一〇、七一五	一〇、〇八一	二〇、七九六	二二	二二	二二	一一、六七九	一一、六七九	一一、六七九	一一、六七九	九九・七〇
宮古郡	五、九七四	五、七〇五	一一、六七九	二四	二二	二四	五、八九四	五、八九四	五、八九四	五、八九四	九九・九六
八重山郡	三、一〇六	二、七八八	五、八九四	一五五	一六六	一六六	二、一〇二	二、一〇二	二、一〇二	二、一〇二	九九・一八
計	五二、〇一六	四八、八六七	一〇一、八八三	二四	一、四二〇	一、四四二	一、四二〇	一、四四二	一六、二七三	一二、九、四七二	九九・一〇
同昭和九年度	五二、三四三	四九、九七七	一〇二、二二〇	二四	一、四二〇	一、四四二	一、四二〇	一、四四二	一五、一二六	一二、九、四七二	九九・一〇
同昭和十年度	五二、一二六	四九、八九一	一〇二、〇二七	二四	一、四二〇	一、四四二	一、四二〇	一、四四二	一五、七二一	一二、八、六二〇	九九・一六

學齡兒童不就學

昭和十年度

	免除			猶豫			尋常一年			高等			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
那覇市				二四		二四	四、四二七	四、二九一	八、七二八	七一〇	一、九四	二、〇一四	五、一五七	四、七八五	九、九四二
首里市				一五六	一六	一七二	一、四〇二	一、三一九	二、七二一	一、九三七	一、四三八	三、〇三四	一、五九六	一、四三八	三、〇三四
島尻郡				八五〇	一七五	二五五	三、二五五	二、八七七	六、〇二二	一、九三七	二、〇四〇	三、九七七	一四、一九三	二、〇四〇	一六、二七三
中頭郡				一六六	二四	一八六	二、一二六	一、〇七一五	三、二九七	一、六七八	一、〇四三	二、七二一	三、七九四	二、一一六	五、九一〇
國頭郡				二七八	一七九	三七七	二、二六六	一、〇八〇	三、三四六	一、九二九	一、〇四〇	二、九六九	四、一八七	二、一二〇	六、三〇七
宮古郡				一五二	一六六	二五二	一、一八八	一、〇七七	二、二六五	一、〇四〇	一、〇四〇	二、〇八〇	二、二二八	二、一二七	四、三五五
八重山郡				一五五	一六六	二五五	一、一二六	一、〇七一	二、二九七	一、〇四〇	一、〇四〇	二、〇八〇	二、二二八	二、一二七	四、三五五
計				二四	二四	四八	一四、四二七	一二、二二五	二六、六五二	五、一五七	四、七六五	九、九四二	三〇、〇二四	二四、六一二	五四、六三六
同昭和九年度	二七六	四六	三二八	一六	一六	三二	一四、四二七	一二、二二五	二六、六五二	五、一五七	四、七六五	九、九四二	三〇、〇二四	二四、六一二	五四、六三六
同昭和十年度	四一六	四九九	八八五	一九	二四	四三	一四、四二七	一二、二二五	二六、六五二	五、一五七	四、七六五	九、九四二	三〇、〇二四	二四、六一二	五四、六三六

小學校兒童（本表ニハ師範學校附屬小學校ヲ含ム）昭和十一年三月一日

小學校入學及卒業兒童（本表ニ八師範學校附屬小學校ヲ含ム）　昭和十年度

	入學 尋常 男	入學 尋常 女	入學 高等 男	入學 高等 女	入學 計	卒業 尋常 男	卒業 尋常 女	卒業 高等 男	卒業 高等 女	卒業 計
那覇市	六九〇	八〇七	四二九	三五三	一、一七一	六三六	二三三	一九五	八六	一、一五九
首里市	二五九	二二七	一一五	八六	七三一	二〇七	一九五	三九	二六	五五四
尻高郡	二、三〇四	二、一五一	一、二六四	七三三	六、四五四	六九七	七二二	七三	四〇	一、四〇一
頭古郡	一、九二三	一、八二七	一、一二四	七三三	五、六五五	二、三八九	一、七二二	一、二二	一、〇二二	五、一二一
中頭郡	九八一	九二一	六三三	四二五	二、一八九	一、一二四	一、一二一	一、一二一	一、〇二二	四、一二一
島尻郡	五五七	五〇五	二八五	二八五	一、〇六二	一、〇二四	一、〇二四	一、〇二四	一、〇二四	四、〇二四
計	八、六〇五	八、〇六四	四、五九九	三、四七六	二、〇五三	一、〇二〇	一、〇二〇	一、〇二〇	一、〇二〇	五、一二〇
宮古郡	四九〇	八〇七	三五三	二、四七六	一、〇二〇	一、七二八	一、三八〇	一、〇五六	一、〇五六	二、一九四
八重山郡	二、七二四	二、一五一	一、二六四	一、二四九	五三二	六四九	六、一七五	二、二九九	二、八九〇	一、一七五
計	四九、一五一	四九、二五二	四四、三二四	四四、四七五	七、七三四	四一四	三、二九九	五、三四六	四九、八九七	七、七三四
同昭和八年度	四九、三七七	四九、三七七	四四、四七五	四四、四七五	七、三三三	四、七五二	五三、七二〇	五三、七二〇	四九、三七七	七、三三三
那覇市	九、三二〇円	一、六六五円	二、八二円	三〇七円						計
首里市	二、三三五	二六一	五〇二	三九八						尋常 高等
尻高郡	三、四五二									尋常 高等
頭古郡										尋常 高等
中頭郡										尋常 高等
島尻郡										尋常 高等
計										尋常 高等
宮古郡										尋常 高等
八重山郡										尋常 高等
計										尋常 高等
同昭和八年度										尋常 高等

小學校教員本科正教員　專科正教員　准教員　代用教員

	本科正教員 尋常	本科正教員 高等	專科正教員 尋常	專科正教員 高等	准教員 尋常	准教員 高等	代用教員 尋常	代用教員 高等	計 尋常	計 高等
那覇市	一、七二	二	九	五					一、八一	二、一七
首里市	五五	八	一	一					五五	六二
尻高郡	四五〇	六六	二一	三八					四七六	七九七
頭古郡	三八二	八八二	二九	四					三六六	九四
中頭郡	一八三	二五八	二五	一八					一九〇	二六一
島尻郡	一〇三	二五七	二三	一八					一一一	二六一
計	一、一七二	一、一五五	一、〇二二	一、〇二二					一、〇二二	二、〇二二
宮古郡	一七二	一七二	一一	一一					一一	二二
八重山郡	一、一四三	一、一四三	一、一四三	一、一四三					一、一四三	二、二四三
計	一、一七四	一、一七四	一、一七四	一、一七四					一、一七四	二、二七四
同昭和八年度	一、七一三	一、七一三	一、七一三	一、七一三					一、七一三	二、七一三
那覇市	三、三〇円	三、四五二	五〇二	三五八					九、三二七円	二、八二〇円
首里市	二、三三五	二、二六一	二八一	二六一					二、三三五	二、二六一
尻高郡									一、六六五円	一、九七二円
頭古郡									二六一	二六一
中頭郡									二八五	二八五
島尻郡									二六一	二六一
計									二、三三五	二、三三五
宮古郡									二、三三五	二、三三五
八重山郡									二、三三五	二、三三五
計									二、三三五	二、三三五
同昭和八年度	二、二二〇	二、二二〇	二、二二〇	二、二二〇					二、二二〇	二、二二〇

昭和十一年三月一日

小學校教員俸給調（本表ニ八師範學校附屬小學校ヲ含ム）　昭和十一年三月一日

	尋常	高等	計
那覇市	三三、二四六	三、四五二	三五、二九八
首里市	二、三三五	二、二六一	四、五九六
尻高郡			
頭古郡			
中頭郡			
島尻郡			
計			
宮古郡			
八重山郡			
計			
同昭和八年度			

| | | |

青年學校

昭和十年四月一日青教學校令に依り從來の實業補習學校、青年訓練所は廢止せられると同時に青年學校新設せらる。學校數一三九校にして未だ單獨の學校なく殆んど各小學校に附設せらる而して教員數男一六名女一二名計二八名指導員九一名にして他は總て兼任教員を當て生徒は尋常小學校卒業者並高等小學校卒業者にして其の總數男一五、四三三名女二、六二八名計一八、〇六一名にして通年又は期間制を採りて教授に當て男女青年の教養指導啓發に努め其の成績逐年向上す。質實剛健にして生徒の士氣大いに揚り良風美俗の風作興し國家觀念明徴にして社會奉仕の信念厚く進取敢爲の風養はれ意氣旺盛なり。

	學校	學級	教員	指導員	入學者	生徒	退學者	卒業者
昭和十年度	一三九	五三〇	二八	九一	八、五二五	一八、〇六一	一、一二三	四、八六三

圖書館

圖書館は縣立一、私立三あり、內縣立圖書館は明治四十三年八月創設せられ藏書中和漢書二二、八三四冊、洋書七一八冊等ありて閉館日數三二三日、閲覧人員三〇、三六三名にして鄕土室の特設ありて鄕土に關する特殊の文獻の蒐集をなし鄕土研究の資に供せるを特色とす。私立圖書館三は教育部會の設置に係り藏書中和漢書四、五〇五冊洋書一九冊等ありて閉館日數八六三日閲覧人員二八、四五二

名あり

	館數	圖書冊數	閉館日數	閲覧人員
昭和十年度	四	二八、〇七六	一、一八六	五八、八一五

公學費

	縣		市町村		計	
	支出	收入	支出	收入	支出	收入
昭和十年度	円 七、二八、一九九	二七五、八二一	二七四、五六六円	一二三、三七九	一、六四四、四九八円	一、一二三、二二四
同九年度	七、六八、六四三	二九三、七七五	三〇四、三四一	一二四、五一五	一、六二七、九二五	一、一三二、五七五
同八年度	七、一六、三〇〇	二八〇、二四九	二八八、〇〇八	一二八、九〇四	一、六五六、九三九	一、三〇七、〇〇三
	二、六六一、二四七	一、五六九、二四四	二、六七二、二五六	一、五七〇、〇九六	二、六七七、二五三	一、五七〇、〇九六

一三、生産總額

本縣に於ける昭和十年の生産總額は五五、二二二、二四一圓にして全國に比すれば第四七位にあり。內農産は二二、九六二、一〇〇圓にして總額の四割二分を占め、工産之に亞ぎ二二、八四六、四五六圓にして總額四割一分に當り、次は畜産三、〇八五、九四二圓にして總額の六分に當り、其次は水産の二、二九四、九三六圓にして總額の四分、林産一、二三七、六三一圓で總額の四分、鑛産一、六九五、一七六圓にして總額の三分に當る。而して之を現住戶口に對比すれば一戶當り四五二圓七九錢一人當り九三圓四錢なり。

郡市別生産總額

昭和十年

	農産	畜産	林産	水産	鑛産	工産	計	現住戶數	現住人口	一戶當	一人當
那覇市	二七二、〇八二	六〇四、〇一三	—	二三四、九四四	一七、五八二	四、三〇、八七七	五五、四二六、五四〇	三、六五六	八六、四五六	一五、一〇	六四、〇一
首里市	二四八、五一八	一八九、二三三	八、六九五	二三九	九、一九五	二、〇四四、八七四	二、五〇〇、七五五	五、八〇一	一二七、五五九	四、三〇	一九、七〇
島尻郡	七、二七二、四一五	八五一、七一九	四六三、八八七	三九〇、五六一	一、二九四、二八七	六、七一五、三五四	一六、九八八、一四八	五、八〇一	一二三、〇七八	二、八一	一、四〇
中頭郡	六、一七七、七六六	四七二、七一〇	六〇五、五三二	一四四、四一〇	六五、五五八	五、五五九、四九二	一五、〇二五、四二六	四、二一〇、七三	八九、九〇		
國頭郡	四、五九九、八六六	六四八、〇一〇	七四四、七七三	四六三、〇七五	四一、六二九	一、四六三、九六二	七、九六一、一五五	三五五、八二	七二、〇二		
宮古郡	二、六六七、〇六四	一八三、八二三	三〇三、四五七	四六四、二一九	一五一、九〇〇二	四〇五、一六六	六、一七五、六二九	五三一、二四	九一、八〇		
八重山郡	一、七二四、四一九	一三六、三六五	一二一、二九八	六〇七、四七三	一二五、〇二五	三四六、七五三	三、〇四一、二四三	四四一、四八	八九、二五		
計	三三、九六二、一〇〇	三、〇八五、九四二	二、二三七、六三一	二、二四一、九九六	一、六五五、一七六、四九六	一、八二一、八七五、一八〇	三五、四二九、五五〇	一三、一四一、三五八	二五、七六一、三二一	七二、〇二	九五、〇四
昭和九年	三二、五一八、五六四	二、八三八、四三〇	一、七五二、一六五	二、三五八、三七四	一、八一、八七五	一九、七〇三、一八〇	五〇、五五二、五六八	一四、〇四〇、四七八	二、〇四〇、〇一		
同八年	三〇、八九〇、〇二〇	二、七九七、四九〇	一、六七四、九三一	二、三〇五、〇五六	九四一、五六八	二〇、八八四、七〇四	四九、四九五、七九四	一二、〇二一、七五	八四〇、八七		
同七年	一九、二七〇、一四五	二、三二五、四三九	一、七三五、二一四	二、〇九八、一六二	四八〇、八五九	一七、一四四、三一三	四四、〇四一、一三二	三五八、〇八	七四〇、六五		
同六年	二六、九〇三、五〇八	二、二九五、九九四	一、五六〇、〇三七	二、四七五、七八〇	五三二、八一七	一五、〇二一、三二五	五六、七八、四二一	三二一、四六	六七〇、二六		

一四、農業

本縣に於ける農業は未だ單純幼稚にして他府縣の如き集約的農業と其趣きを異にせる爲其生産額の如きは全國平均收量に比し甚だしく低位にあり。

稻作に於ては近時改良種の普及奬勵に依り著しき進展を見つゝありと雖も其他の食料作物の改良增殖に關しては殆ど放任せられたる結果縣民生活の樣式内容の變化に伴ひ食量に不足を告げしめ年々米に於て約六百万圓内外及び大豆は百萬圓内外を輸移入するの狀態なり、故に農産物品種の改善、耕地の擴張、自作農創設維持等農業施設の普及徹底を期し食料作物の生産增殖を促し其自給自足を圖ると共に本縣特産として有望なる移出青果の增殖を促進し農業經營の改善を圖りつゝあり。

農家戶數

昭和十年末に於ける農家戶數は九二、三三二戶にして總戶數の七割六分に當り、最近の趨勢に於ては逐年增加の傾向に在り、之を專業、兼業別に見れば專業農家八割一分、兼業農家一割九分の割合を示し全國平均に對比すれば專業農家二分、兼業農家一分に當る。

之を經營主體別に見れば自作六割五分、小作一割、自作兼小作二割五分となり全國平均に比すれば

自作三分、小作六厘、自作兼小作九分の割合なり。

更に廣狹に依り見れば五段未滿の小農五割五分(全國三分)の割合にして大部分を示し、五段以上一町未滿二割八分(全國一分)一町以上二町未滿一割一分(全國八分)二町以上は僅かに六分(全國九分)に過ぎず。

郡市別農家戶數　昭和十年末

	自作	小作	自作兼小作	計
同昭和九年				
那覇市	一、二二九	一、二五四	一三九五	一、四八六
首里市	一四、六六四	二、二二二	八、〇九〇	二四、八八五
島尻郡	一八、〇五二	一、六三二	七、八〇三	二八、〇六七
中頭郡	一三、五五六	二五四	四、七二六	一九、九二四
國頭郡	九、〇七九	八五九	八八六	一〇、二二九
宮古郡	二、九六〇		一、〇九二	四、九一二
八重山郡	六〇、〇三九	九、一六三	二三、二八〇	九二、四八二
計	六〇、一〇三	九、一六〇	二三、一六六	九二、三九二

耕地所有別農家戸數

昭和十年末

	五反未満	五反以上	一町以上	三町以上	五町以上	十町以上	五十町以上	百町以上	計
那覇市	一、三六五	一、〇三六	一、四九一	二、九九四	二、八七二	二、二四一	一、三八三	一、六二四	一、八三二
首里市	一、〇三六	一、六五六	二、四二六	二、八一二	二、〇五五	一、一三八	一、〇五一	一、〇四〇	一、〇五一
島尻郡	一、四一一	二、〇五五	二、八一八	二、二六一	一、四七七	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一
中頭郡	一、二二一	一、四七六	二、二九〇	二、二九九	一、〇四九	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一
國頭郡	一、三二三	一、〇四七	一、九二一	一、〇六一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一
宮古郡	一、四一七	一、〇四一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一
八重山郡	一、五六八	一、〇七六	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一
計	四、四四、六六七	四五、〇七六	二三、四九九	二、八七二	一、六六七	一、三八六	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一

耕地耕作別農家戸數

昭和十年末

	五反未満	五反以上	一町以上	三町以上	五町以上	十町以上	計
那覇市	一、四四七	一四七					一、四八八

耕地原野面積

昭和十年末

| | 耕地 | | | | |

自作小作別耕地段別

昭和十年末

市郡	自作地 田	自作地 畑	自作地 計	小作地 田	小作地 畑	小作地 計
同昭和八九年	段	段	段	段	段	段
宮古郡	一、三二四	一六四	一〇九	一四五	一、七九七	四三、〇三六
八重山郡	二、二五六	五、六三四	一四五	九八五	六、三六四	二五、一〇〇
計	三二、六七七	五〇、八〇五	八六九	六〇五	六三、二四三	七〇、〇三六
同昭和八九年	段	段	段	段	段	段
那覇市	二、二二	二、四九二	三五九	一、三九八	一、七九七	三、〇九六
首里市	八、八五四	一、七九九	一〇、七九九	四、一〇七	六六、六〇五	一、二五五
島尻郡	一七、二〇九	一八、六六	二、四九四	一、一〇七	一、九二一	一、二七四
中頭郡	一四、五九九	二、四九二	一六、五四六	九八八	一、〇三四	一、〇三四
國頭郡	高四、五二七	二九、六六三	四五、〇七八	一、三三	一、三三、〇三四	四五、二八九
宮古郡	五四、一三三	四五、〇三四	五四、一三三	五五、五五六	四五、九三四	五〇、一八九
計	五四、三〇九	三、一八九	五四、三〇九	四、九八八	三、〇三四	三、〇三四
同昭和八九年	段	段	段	段	段	段
那覇市	二、二四	二、四九二	三、二九九	二、四九四	二、四九四	三、二九九
首里市	八、八五四	一、七九九	一〇、七九九	一、三〇、〇四〇	一、三〇、〇四〇	二、三三、九一三
島尻郡	一七、二〇九	一八、六六	二、四九四	九〇、〇四〇	二、四九四	一、三〇、〇四〇
中頭郡	一四、五九九	二、四九二	一六、五四六	二、四四、七五三	二、四四、七五三	二、四四、七五三
國頭郡	高四、五二七	二九、六六三	四五、〇七八	五五、〇五六	五五、〇五六	五〇、〇五六
宮古郡	五四、一三三	四五、〇三四	五四、一三三	四、九八八	四、九八八	四、九八八
計	五四、三〇九	三、一八九	五四、三〇九	三、〇三四	三、〇三四	三、〇三四
同昭和八九年	段	段	段	段	段	段
那覇市	二、二四	二、四九二	三、二九九	一、三九八	一、三九八	二、四九四
首里市	八、八五四	一、七九九	一〇、七九九	一、一〇七	一、一〇七	八、八五四
島尻郡	一七、二〇九	一八、六六	二、四九四	四、一〇七	九、〇九八	九、〇九八
中頭郡	一四、五九九	二、四九二	一六、五四六	八、一〇七	二、四九六	八、八八七
國頭郡	高四、五二七	二九、六六三	四五、〇七八	八八、一〇七	二、四九六	一〇、〇三六
宮古郡	五四、一三三	四五、〇三四	五四、一三三	九、一二二	九、一二二	八、八八七
計	五四、三〇九	三、一八九	五四、三〇九	一、一〇七	一、一〇七	一、一〇七
同昭和八九年	段	段	段	段	段	段
那覇市	二、二四	二、四九二	三、二九九	一、三九八	一、三九八	二、四九四
首里市	八、八五四	一、七九九	一〇、七九九	一、一〇七	一、一〇七	八、八五四
島尻郡	一七、二〇九	一八、六六	二、四九四	四、一〇七	九、〇九八	九、〇九八
中頭郡	一四、五九九	二、四九二	一六、五四六	八、一〇七	二、四九六	八、八八七
國頭郡	高四、五二七	二九、六六三	四五、〇七八	八八、一〇七	二、四九六	一〇、〇三六
宮古郡	五四、一三三	四五、〇三四	五四、一三三	九、一二二	九、一二二	八、八八七
計	五四、三〇九	三、一八九	五四、三〇九	一、一〇七	一、一〇七	一、一〇七
同昭和八九年	段	段	段	段	段	段
那覇市	二、二四	二、四九二	三、二九九	一、三九八	一、三九八	二、四九四
首里市	八、八五四	一、七九九	一〇、七九九	一、一〇七	一、一〇七	八、八五四
島尻郡	一七、二〇九	一八、六六	二、四九四	四、一〇七	九、〇九八	九、〇九八
中頭郡	一四、五九九	二、四九二	一六、五四六	八、一〇七	二、四九六	八、八八七
國頭郡	高四、五二七	二九、六六三	四五、〇七八	八八、一〇七	二、四九六	一〇、〇三六
宮古郡	五四、一三三	四五、〇三四	五四、一三三	九、一二二	九、一二二	八、八八七
計	五四、三〇九	三、一八九	五四、三〇九	一、一〇七	一、一〇七	一、一〇七

米

本縣の稲作は二回作にして植付より收穫に到る期間第一期作は二月より七月迄、第二期作は七月より十二月頃迄なり、過去に於ける稲作は甚だ幼稚にして段當收量も僅に八、九斗に過ぎざりしが昭和四年台灣に於ける縣外種栽培の成功に鑑み、本縣に於ても台灣及他府縣種栽培の試驗を積極的に進むると同時に國頭郡羽地村八重山郡に稲作集團指導地を設け台灣より台中六五號の種籾を購入配付し、其耕作の指導をなしたるに其成績顯著にして寧ろ台灣に比し氣候適濕にして遙に耕作上の天惠豐富なる爲め、其後優良品種の普及と栽培法の改善により年々增産しつゝあり。

昭和十年に於ける作付段別は七九、五九八段、收穫高一二二、八六〇石、價額二、六〇九、三〇〇圓にして最近五ヶ年平均實收高八六、五六九石に比し凡割二分の增收を示す。

米

昭和十年

市郡	作付段別 水稲 陸稲 計	收穫高 水稲 陸稲 計	價額 水稲 陸稲 計
同昭和八九年	段	石	円
那覇市	二五、五〇二	一八、七八六	三九九、八〇〇
首里市	一三、〇七〇	一三、〇七〇	三三七、六〇二
島尻郡	二七、四五三	一五、五九〇	四七、七四一
中頭郡	一、六九六	一、三三二	二、六〇九、三〇〇
國頭郡	三〇、八七七	一八、七七	七九九、四二〇
宮古郡	七三、一二九	一三、九三五	一、七四四、八〇八
計	大、三〇六	一、二二、八六〇	二、一五八、五五一
同昭和八九年	段	石	円
那覇市	一、二九二	一、二二三	二、二六四、二五〇
首里市	四〇二	九四〇	二、二五八、五四〇
島尻郡	八八八	二、三三二	四、四一一、〇〇〇
中頭郡	二	三	二、二六八、五五一
國頭郡	七五六	八四一	一、七四四、八〇八
宮古郡	一	一	二、二六八、五五一
計	七、三九二	一、二二三、八六〇	一、二二三、八六〇
同昭和八九年	段	石	円
那覇市	一五、五〇二	一八、七七	三九九、八〇〇
首里市	一三、〇七〇	一三、〇七〇	三三七、六〇二
島尻郡	二七、四五三	一五、五九〇	四七、七四一
中頭郡	一、六九六	一、三三二	二、六〇九、三〇〇
國頭郡	三〇、八七七	一八、七七	七九九、四二〇
宮古郡	七三、一二九	一三、九三五	一、七四四、八〇八
計	大、三〇六	一、二二、八六〇	二、一五八、五五一
同昭和八九年	段	石	円
那覇市	一、二九二	一、二二三	二、二六四、二五〇
首里市	四〇二	九四〇	二、二五八、五四〇
島尻郡	八八八	二、三三二	四、四一一、〇〇〇
中頭郡	二	三	二、二六八、五五一
國頭郡	七五六	八四一	一、七四四、八〇八
宮古郡	一	一	二、二六八、五五一
計	七、三九二	一、二二三、八六〇	一、二二三、八六〇
同昭和八九年	段	石	円
那覇市	一五、五〇二	一八、七七	三九九、八〇〇
首里市	一三、〇七〇	一三、〇七〇	三三七、六〇二
島尻郡	二七、四五三	一五、五九〇	四七、七四一
中頭郡	一、六九六	一、三三二	二、六〇九、三〇〇
國頭郡	三〇、八七七	一八、七七	七九九、四二〇
宮古郡	七三、一二九	一三、九三五	一、七四四、八〇八
計	大、三〇六	一、二二、八六〇	二、一五八、五五一
同昭和八九年	段	石	円
那覇市	一、二九二	一、二二三	二、二六四、二五〇
首里市	四〇二	九四〇	二、二五八、五四〇
島尻郡	八八八	二、三三二	四、四一一、〇〇〇
中頭郡	二	三	二、二六八、五五一
國頭郡	七五六	八四一	一、七四四、八〇八
宮古郡	一	一	二、二六八、五五一
計	七、三九二	一、二二三、八六〇	一、二二三、八六〇

麥

昭和十年に於ける麥作は段別二四、三九〇段、收穫一三、三九一石、價額一八二、一五〇圓にして小麥最も多く最近五ヶ年平均收穫高一二、四五五石に比し八分の増收を示す。

麥

昭和十年

	大麥				裸麥				小麥				麥計			
	作付段別	收穫高	價額		作付段別	收穫高	價額		作付段別	收穫高	價額		作付段別	收穫高	價額	
	反	石	円		反	石	円		反	石	円		反	石	円	
那覇市																
首里市	二九、九	二六五	二、九六〇		四九、九	一〇三	二、八〇〇		一〇、四三	二、一七	一、〇五九		一三、三九一	三、四五三	一八、二一〇	
島尻郡	一、四九八	一、四九五	三、九八九		二、六七一	六、五九三	一、八六七		一、一七七	二、三五五	一、〇五九		四、一四八	一〇、〇二三	七、一七三	
中頭郡	二、三四一	一、七三三	四、四八八		一、一四四	二、七九八	一、〇八〇		七四三	一、四七〇	四九八		五、〇八七	一〇、九七〇	七、〇七一	
國頭郡	一、七四四	五〇二	七五五		一、七三三	三、六三三	一、四四一		一、五七七	二、九八八	一、〇八八		五、二四四	一〇、〇三三	七、〇七一	
宮古郡																
八重山郡	一、〇四四	二、九八〇	一、〇四四		一、〇四九	二、九八九	一、〇四四		八四九	一、七七七	七四一		三、八四八	七、五六六	三、〇七三	
計	六、二六六	一四、二七九	一〇、〇二二		一〇、八七七	二〇、一六六	七、一七九		四、一四一	八、一六六	三、一四一		二六、〇二三	五四、〇二三	一八、二一〇	
昭和九年	六、二六六	一四、二七九	一〇、〇二二		一〇、八七七	二〇、一六六	七、一七九		四、一四一	八、一六六	三、一四一		二六、〇二三	五四、〇二三	一八、二一〇	
同八年	六、二六六	一四、二七九	一〇、〇二二		一〇、八七七	二〇、一六六	七、一七九		四、一四一	八、一六六	三、一四一		二六、〇二三	五四、〇二三	一八、二一〇	

製糖用甘蔗　本縣に於ける糖業は產業中最も重要なる地位を占め蔗作面積は全耕地面積の約三割に當り甘蔗生產高十餘億斤に達す。近時大率種の普及に伴ひ漸次其栽培も集約化し好勢に向ひつゝあり從來本縣に於て栽培せられし在來種の甘蔗中。讀谷山種は暴風病蟲害に對し抵抗力あり最近迄作付面

積の大部分を占め永き歷史を有するものなるも大正十二、三年台灣より大蔗種を移入し栽培試驗の結果沖繩風土に適し尙收量その他含糖率に於て有利な條件を具備する爲め中間苗圃等により奬勵增殖し現在に於ては殆んど全蔗園に普及す。

製糖用甘蔗

昭和九年期

	作付段別	收穫高 自家製糖ノ分	收穫高 販賣ノ分	收穫高 計	價額
	反	斤	斤	斤	円
那覇市					
首里市	一〇二	六一三、九五〇	二〇八、一一〇	八二三、〇六〇	五、二四一
島尻郡	一、〇五九	九、三二三、二〇〇	一四、八七〇	九、五三八、〇七〇	三〇、八〇七
中頭郡	六〇、五二一	四八四、〇六四、七六一	一三九、三六一、五七〇	六二三、六二六、三三二	三、五四四、六〇八
國頭郡	五一、七九九	四〇五、七八八、一三八	九一、〇三三、八七〇	四九六、八一三、〇〇八	三、〇七三、〇二三
宮古郡	一五、七七〇	一〇五、九七〇、二三〇	二四、〇〇〇	一〇五、九四〇、二三〇	五二六、三九〇
八重山郡	二三、三九六	七二、六二四、七二一	七四、一六〇、四九八	一四六、七五五、二〇九	七三九、六六三
計	一二四、九九三	九、三七六、六〇〇	—	九、三七六、六〇〇	二七、六八八
昭和八年期	一二七、六〇六	一、〇八七、八三二、三六〇	二九三、〇〇二、九八八	一、三八二、八四〇、四九八	七、九六七、四二三
同七年期	一六四、一二三	一、〇八五、八三六、八一八	三〇九、九二八、二六〇	一、二一六、九九九、六九八	七、〇九三、〇四八
			三六〇、八六三、二五三	一、四四六、七〇二、〇七三	六、三八六、三七三

食用農產物　昭和十年の生產額は九、五九二、五三四圓にして前年に比し九九五、四四六圓の減少なるもこは主として單價の下落による。就中甘藷は縣民の主要なる食糧作物にして本縣の風土格適し四季を通して栽培し得られ其產額一五〇、二五八、三七八貫にして價額八、九五一、八三五圓なり

次に大豆は甘藷及甘藷の裏作にして土地を肥沃ならしむるのみならず農家の唯一の營養副食物たる豆腐の原料として必要なるものなるも年々百萬圓を移入し未だ自給自足に到らざる爲め指導團を設置し奬勵種の普及に努めつゝあり。

食用農產物

	昭和十年				同九年				同八年			
	作付段別	收穫高	價額	作付段別	收穫高	價額	作付段別	收穫高	價額	作付段別	收穫高	價額
	段	貫	円	段	貫	円	段	貫	円	段	貫	円
甘藷	二九六、一五六	一五〇、二五八、三七八	八、九五一、八三五	二九〇、八〇三	一三〇、二〇八、二二	九、九六八、六八〇	二一三、四三八	一二一、七五二、七四三	九、四一八、五六二	二、四一三、一三九	一、一二五、一二四	九、四一八、五六二
大豆	四四、九八一	三四、〇八四	四四六、四五三	四六、二五九	二七、九四五	四三六、〇一〇	四六、〇九八	二五、七三四	三八五、四四五	二、〇八六	一、一二五	三八五、四四五
粟	一五、一七九	六、七一〇	八〇、一〇〇	一七、〇〇七	六、八七四	八四、五一九	一六、八五二	六、二九七	七三、一九三	一、〇八一	一、一二五	七三、一九三
其他	二〇、三一四	—	一二四、一四六	二〇、三三	—	九八、七七一	二〇、六〇四	—	九〇、二八一	二、〇八六	—	九〇、二八一
計	三九六、六三〇	—	九、五九二、五四四	三七四、一九二	—	一〇、五六七、九八〇	三六四、九八二	—	九、九九七、二七九	三、一二九	—	九、九九七、二七九

園藝農產物（蔬菜及花卉）

	昭和十年				同九年				同八年			
	作付反別	收穫高	價額	作付反別	收穫高	價額	作付反別	收穫高	價額	作付反別	收穫高	價額
	反	石	円	反	石	円	反	石	円	反	石	円
豌豆	五、九七三	三、一六五	六一、七七七	五、三三八	二、九七二	五六、八五九	五、一八四	二、八八六	五三、二三九			
蠶豆	一〇、六四一	六、一六一	一〇一、八二三	九、八九一	六、三二一	一〇三、八九〇	一〇、〇七七	六、〇二五	九四、五七七			
胡瓜	八九一	一九二、六三六	二五、一一三	八七三	一七四、四四八	二〇、二二	八一〇	一五五、七五四	一八、六五五			
西瓜	一、七六三	三六三、九三四	五二、六八八	一、七九四	五六六、二五九	六二、九六五	一、四五二	五〇四、三七三	六五、四二七			
大根	五、五一〇	二、七九〇、一九七	二〇四、六二三	五、六五三	三、六〇四、二五六	二三三、五六九	五、四三〇	三、四八、二四〇	二五二、三九六			
花百合	四四九	三、三八、〇九二個	八三、三二八	三七七	三、三七三、一六〇個	九〇、九四一	三〇九	三、四三二、五四〇個	九八、一三八			
甘藍	一、九五九	一、三八九、五三三貫	九七、一三〇	一、九八四	一、四四四、三四七貫	一〇四、三七一	一、九九七	一、四七〇、七三五貫	一二三、六四九			
其他	一三、四九四	—	五三六、三一五	一三、〇五〇	—	五三四、八七三	一三、六七七	—	五五五、七九八			
計	三九、六八〇	—	一、一六二、七五三、八二九	三八、一二九	—	一、一〇七、八九七、九九六	三五、一三九	—	一、一二五、八九九			

同（果實）

	昭和十年			同九年			同八年		
	作付反別	收穫高	價額	作付反別	收穫高	價額	作付反別	收穫高	價額
ナツミカン	四三五本	一、〇三八貫	二七四円	四一本	一、九四貫	三八九円	一、〇八三本	一、四二九貫	三八九円
唐九年母	二、一一七	六、八四二	二、三四九	一、九四	六、三二三	一、八七九	一、四五	六、三六九	一、八七九
オートー	二三、六九三	七三、三七七	一五、一一七	二三、三六八	七二、七〇三	二、四一三	二三、三六六	七二、九四三	一、八七九
カープチー	三〇、五三四	一〇〇、〇六一	一九、〇八一	二八、八六六	九一、三五一	一七、一三一	二八、二二三	九九、七五一	一、四九九
シークワーサー	五三、三三八	一八六、一〇八	九、七〇三	四三、七六〇	一八二、六〇三	九、七二〇	四九、八一四	二〇一、三五一	一、四九九
パパヤ	四八、三三三	一二三、一〇四	八、九一一	三〇、七六七	一〇七、二七五	八、〇七九	三五、九五九	一一〇、〇三〇	一、四九九
バナナ	八四、〇三四	七五、六〇〇	二六、六九七	八〇、六二〇	七〇、六二四	二五、三五一	一一〇、〇三〇	八二、八二〇	一、四九九
其他	四七、〇八一	—	五、二四三	五五、八八五	—	五、三三一	二五、二四四	—	二、四九九
計	二八九、三六四	—	八七、六四四	二九四、一七二	—	八二、九八〇	二四四、一五〇	—	八八、一〇五

工業農產物

	昭和十年			同九年			同八年		
	作付反別	收穫高	價額	作付反別	收穫高	價額	作付反別	收穫高	價額
胡麻	一、一九八反	三四七石	六、八一五円	一、三〇九反	四一五石	八、二二〇円	一、二三〇反	三八七石	六、八四九円
蘭	一〇八	二八、七五四	一六、〇六七	九二	二二、〇七二	一二、六五七	八五	一八、三三三	八、七五九
七島蘭	一、五二四	三五三、九四一	五八、九九五	一、四八七	三五〇、二五五	五八、六五二	一、五二四	三五七、九六三	五六、六三〇
苧芭蕉	一、七一〇	一九、二五九	五〇、六一六	二、一一七	三三、二四六	六九、〇九一	一、六六四	二四、七四三	五七、九〇七
葉藍及藍	七四六	六四一、三二五	二九、三八八	六六六	五四七、八四〇	二三、八〇四	二四九	一五八、六五〇	六、一九九
山アロート	三七	一四四、五七三	一〇、〇〇五	二九五	一三三、七〇〇	九、〇〇五	二七三	一三三、二六四	八、六八二
其他	九〇	—	二、二九五	九九	—	三、一五五	八七	—	二、五七三
計	五、七〇三	—	一七四、一七一	六、〇四四	—	一八五、五七六	五、二一三	—	一四五、九八

葉煙草

	昭和十年	同九年	同八年
作付戶數	五〇五	五〇五	四九五
作付反別	二五五反	二四〇反	二〇一反

收穫高	價額	一反歩收穫高
三八、五七瓩	一四、五九四円	一六四瓩
四一、七七瓩	一五、三五〇円	一七四瓩
五八、二八六瓩	一四、一八七円	一八五瓩

一五、蠶絲業

本縣の蠶業は今より五百六十有余年の歴史を有し頗る優越なる天與の惠澤と有利なる經濟的諸要素を多分に保有するを以て養蠶業の發達は極めて可能性多きに拘らず農業經營方法他に偏せる爲め遲々として振はざること久しかりしが政府の助成を仰ぎてより急速なる發展の趨勢を辿り昭和五年には蠶業試驗場を設置し、昭和四年三月法律第十八號改正蠶絲業法により昭和五年一月一日より施行區域に編入せられたるを以て同法施行機關として蠶業取締所を設置し、夫々指導監督に當らしめ以て優良蠶品種の育成飼育の改善、優良蠶種の製造等斯業の改善發達に資すると共に指導桑園の設置、養蠶實行組合の設置、桑園整理改植奬勵、繭共同販賣所建設奬勵等に努めつゝあり。

蠶種及產繭

昭和十年

	蠶種製造高	養蠶實戸數	養蠶戸數 春蠶	養蠶戸數 夏秋蠶	養蠶戸數 計	收繭高 春蠶	收繭高 夏秋蠶	收繭高 計	價額 春蠶	價額 夏秋蠶	價額 計
那覇市	六、〇八五、三三四瓩	一、三三	二八	三三	六一	一八〇貫	二九〇貫	四七〇貫	九五八円	一、三〇三円	二、二六〇円
首里市	一六三、九三八	一二七	一二七	九八	二二五	一、七六九	二、一二一	三、八八〇	七、三三一	一〇、六六〇	一七、九九一
島尻郡	三、〇六七、六六四	一、八一八	一、六二〇	一、七一五	三、三三五	八、〇五〇	一〇、五〇八	一八、五五八	三一、三〇三	四九、二一〇	八〇、五二三
中頭郡	三五八、五三七	一、八〇五	一、五四六	一、五三九	三、〇八五	四、五七〇	五、三六六	九、九三六	一六、六〇二	二六、九一六	四三、五二八
國頭郡	三、六五二、五六五	二、一二七	一、九二七	一、八八二	三、八〇九	一〇、七四二	一二、八五九	二三、六〇一	四三、二八八	六〇、七五八	一〇四、〇四六
宮古郡	—	三七七	二九二	三七七	六六九	三、〇二四	四、〇七六	七、〇九〇	一三、〇一六	一九、三五一	三一、三六七
八重山郡	四四、七三三	一、五三三	一、四七七	一、三四九	二、八二六	一一、七三二	九、四二三	二一、一五五	三五、四四八	四一、三〇九	七六、七五七
計	一三、三三二、七六一	七、八一〇	七、〇〇七	六、九九三	一四、〇〇〇	四〇、〇三七瓩	四二、六三五瓩	八三、六九〇	一四六、九四六	一〇九、三五六	二五九、三〇二
昭和九年	一〇、〇三五、一八〇	七、五〇〇	六、五二三	六、二四六	一二、七六九	三、一、五七七	三五、六三九	六七、二一六	一二一、一九二	一二八、一〇九	二三九、四〇一
同 八年	九、五七七、〇八四	七、五八二	六、四一五	六、五五五	一二、九八〇	三五、九二七	三〇、八八四	六六、八二一	一三八、五七二	一二六、六〇三	二四五、一七五

桑畑　昭和十年六月末

	畑 本畑	畑 其ノ他	畑 計	桑畑 本畑	桑畑 其ノ他	桑畑 計
	反	反	反	反	反	反
那覇市	一〇	三	三			
首里・市	一、五六	一	一、五七	一	三四二	四、九七
島尻郡	九二	一〇七	一、〇二〇	二、〇八八	一、〇二〇	三、一〇八
中頭郡	四、八九	一四五	四、六六	一、一〇〇	四、六六	五、七六六
國頭郡	一、三八五	四三二	一、〇六三	二、八八〇	一、〇六三	三、九四三
宮古郡	二七四	三六	三一〇	八三三	五三三	一、三六六
八重山郡	三九八	三〇	一、〇二七	一、四六五	一、〇二七	二、四九二
計	三、六四三	七三五	四、三一三	八、八九九	四、三一三	一三、二一二
昭和九年	三、七一七	六七七	四、三〇七	八、六〇一	四、三〇七	一二、九〇八
同八年	三、九二六	九六三	二、六三三	七、五三二	二、六三三	一〇、一六五

一六、畜　産　業

本縣は氣候溫暖にして四季生草を絶つことなく加之甘藷及甘藷の栽培盛にして家畜の飼料豊富なる爲め農家の副業として最適し現在牛は三万餘頭、馬は四万四千餘頭を算し、豚、山羊は縣下到るところに飼養せられざるはなく現在豚は十二万八千餘頭、山羊は十五万四千餘頭を有し其の數全國に冠たり、然れども之が改良に對しては從來殆ど放任せられ徒に多數を容するのみにして質之に伴はざりし爲優良種を縣外先進地より移入し改良增殖に努めつゝあり、馬匹の畜牛に對し頭數多きは交通運輸の發達極めて遲々たるのみならず道路甚だ不備なるを以て荷客の往來運輸は主として馬に依らざるべからざる地方柳からず。加之に本縣農業の大宗たる甘蔗の運搬及蔗莖壓搾には專ら馬を使役する習慣あり、更に價額の低廉なる關係上中小農家と雖も容易に繫養し得るにある。

養豚の盛なるは一般飼養法極めて簡單にして甘藷及其の屑を主なる飼料とし他府縣に於けるが如き經濟的飼料の選擇に苦心するの要なく、尙豚肉の需要は極めて旺盛にして貴賤貧富の別なく冠婚葬祭には必ず食膳に供し老幼男女皆之を嗜好する關係上縣下到る所に飼養す。

山羊は体質强健にして疾病に犯さるゝことなく粗放的飼養管理に堪ゆるを特長とし飼料は甘藷、屑草及木葉を主とす。飼育目的は專ら食用に在り其の價格は頗る低廉なる上一種の藥餌として病後衰弱

の恢復体力の維持増進其の他特に精力を要する場合等に効ありとして一般に飼育さる。

鶏は其の總羽數約四十万羽を有するも九割は在來種にして其の產卵個數も一年五十個を算するに過ぎざるが如き狀態に在るを以て縣内の需要を充すを得ず、最近一ヶ年約七万圓の縣外移入を見たる爲種畜場に養鶏部を設け種卵及種畜の配付を行ひ改良増殖を圖りつゝあり。

畜産業

昭和十年

畜家	飼養戸數	年末現在頭數 成畜	年末現在頭數 仔畜	年末現在頭數 計	年内出產頭數	年内出產頭數 價額	年内死頭數	屠殺頭數	屠殺肉量	屠殺價額
牛	二三、八四九	二五、三〇七	四、七〇一	三〇、〇〇八	二、九八〇	八〇、五七三円	二六〇	三、五八三	一二六、一三三貫	二六一、七四一円
馬	三四、一〇四	三五、四八三	八、七〇三	四四、一六六	三、〇七三	二一八、三八九	一六八	一四〇	二、六四三	四、三五七
豚	八三、〇四四	六七、三〇一	六一、五三二	一二八、八三三	五五、九六三	九二、三九二	五、七〇八	三八、九五四	六〇〇、八八四	一、四七〇、四三三
山羊	五四、五一三	九八、四三三	五六、四八三	一五四、九一六	五八、六九四	六七、六四九	三、二五五	三八、八六八	八二、四五四	一三五、二六九
緬羊	一	二	一	二	一	一	四	一	一	一
計	一九九、五二一	二三六、五八八	一五一、四九五	三七、九三二	二〇、六三五	六五九、一〇五	九、五六五	八一、二四四	八〇三、二一四	一、八七一、八四五

畜家	飼育戸數	成禽 羽數	成禽 價額	雛 羽數	雛 價額	計 羽數	計 價額	產卵 個數	產卵 價額
牛乳搾乳戸數	一四五								
牛乳搾乳高	四〇七								
牛乳頭數	二、二八二石								
牛乳價額	二四、四六〇円								
鶏	七〇、一八五	二四六、三九四	一五九、五三九円	一二九、六一八	二七、三九一円	三七六、〇一二	一八六、九三〇円	九、七五七、一九八	三八、四五〇円
鶩	三、七八一	一一、八五三	一三、三九三	八、六三九	二、八八九	二〇、四九二	一五、八二二	三七三、五〇四	九、八七四
計	七五、九六六	二五八、二四七	一七一、九三二	一三八、二五七	三〇、二六〇	三五六、五四四	二〇二、二三二	一〇、一三〇、七〇三	三五八、三三四

一七、林業

林野總面積は十二萬六千九百町歩にして全面積の六割に當り、氣候溫暖多雨地にして樹木の成長率は他の府縣の一倍半に及び森林の造成上極めて有利の地位にあるに拘らず林相甚だしく衰頽荒廢せるは山林を濫伐稚殺之に伴はず補伐の均衡を失せるも一因にして尙頻々と暴風雨の襲來ありて其の都度甚大なる被害を被りしにも由る。

山林は農業經營上灌漑排水暴風雨等何れの方面よりも必要欠くべからざるものなるにより荒廢せる林相復舊の爲、久しく政府の助成を仰ぎ最も大なる公有林野開墾增植に努め又保安林防風林等の事業に力を注ぎつゝあり。

昭和十年（林野面積ハ三年毎）

林野面積	林野面積	保安林面積
國有		三三一、六七三反	六七九反
公有		六九二、六七四	三二、〇三〇
社寺		一七	—
私有		二四五、一六三	一〇、九六三
計		一、二六九、四六七	四三、六七二
昭和九年	（八年）	一、二六六、四六九	四三、八六八
同八年	（五年）（二年）	一、二六四、四七二	三二、九三三

林野産物	數量	價額
用材	一〇四、七三八石	一〇一、五九九円
薪炭材	六四、七九三棚	二五、一四四
竹材	三二、八八六束	七、四一八
樹實	一四一石	一、三〇三
樹皮	四七、二三二斤	七、九〇二
樹葉	一三二、一七六、三六八貫	一、八九一、三五七
其ノ他	—	一二三、九一九
計	—	二、三三七、六五二
昭和九年	—	一、七五二、一六五
同八年	—	一、六七四、九三二

一八、鑛業

本縣の鑛物としては八重郡西表島、ラサ島（沖大東島）の燐鑛、鳥島の硫黄等にして明治二十二年頃より大正五年頃迄國頭郡各地島尻郡渡嘉敷村に銅鑛の産出あるも今は中絶す。石炭は嘉永六年（今より八十四年）米使ペルリ提督一行が全島地質調査の際主任技師「アール、ジージョーンス」に依りて發見せられたるものなり。燐鑛は明治二十五年八月我軍能海門警派遣に依りて發見せらる、同島は石灰岩より成る珊瑚礁にして前世紀の海鳥糞堆積し其の中に含有する燐酸分が珊瑚礁の炭酸石灰と化合し生成せられたるものなり、次に硫黄は本縣最古の鑛物にして五百五六十年以來明朝に朝貢せし事實に徴しても推知せらる。所々に硫氣吼あり噴出せる煙を凝結せしめ之を採取す、古琉球時代より重要なる貿易品にして往時支那へ貢物とせり。

其の他鑛産物としては石垣、墓石、壁、豚舎等の石材あり、四、五年前より國頭郡本部村瀬底島及宮古島にトラバーチンを産出し貴衆兩院の建築材料として聲價を博せり。

鑛産物

	昭和十年			同九年			同八年		
	鑛區坪數	數量	價額	鑛區坪數	數量	價額	鑛區坪數	數量	價額
石炭	二、〇九九、七六四	一五、六九一 瓩	一、三四三、〇八四	一、三四三、〇八四	一〇、四二一 瓩	五九、六一七 円	六八一、五六四	八、七三 瓩	五九、六一〇 円
燐鑛	四〇四、五七六	九一、二四八	一、五八、三七三	四〇四、五七六	五六、五〇〇	六六、七六五	四〇四、五七六	三三、七四二	四一四、〇三四
黄鑛	七九、六四三	一三	八、九七六	七九、六四三	一三九	一〇、一四七	七九、六四三	一八六	一三、〇一〇
計	二、五八三、九八三	—	一、二六二、〇二七	一、八二七、二八三	—	六九六、五二九	一、二六五、六八三	—	四八六、六四四

石材及土石

	昭和十年			同九年			同八年		
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量
安山岩	一〇三、九四二 才	一二、四三五 円	一〇〇、五三〇 才	一二、一四四 円	一五八、六三四 才	二一、九三〇 円			
砂岩	六八二、〇九三	一二四、二七九	七七九、〇四二	一九、三一三	六五三、九九〇	一〇六、九六三			
石灰岩	二、〇八六、〇三七 瓩	一五、四五七	二、一二三、五九九 瓩	一五、七六四	二、〇四四、七三五 瓩	一四、八三〇			
トラバーチン	七九、五四六	二四、一六七	二八、三七七	二三、〇六五	二〇、八六五	二四、七四七			
其ノ他	—	—	—	三一五、〇六〇	—	二八六、四二四			
計	—	四三五、二四九	—	四八五、三四六	—	四四四、九四四			

一九、水　産　業

本縣は四面環海にして海岸線の延長三百五十里に亘り殊に黑潮近海を流過するを以て鰹、鮪、旗魚の好漁場たるのみならず、暖海性魚介の棲息多く漁業地として屈指の位置に在り、漁業の起源は古く數百年前既に相當の發達をなし、ことに藩政時代には支那貿易盛なりし故に鯛、鱶鰭、海參等の輸出も尠からざりしも地勢南方に僻在し交通不便の關係上其生産物はほとんど縣内需要に止まる有樣にて其發達は遲々たるを免れざりき、然るに明治三十四年以來鰹漁業の勃興にともなひ鰹節の生産年々增加するに至り本業の面目を一新するに至れり、而して鰹漁業は漸次遠洋に發達する傾向あるにともなひて指導船の建造、冷藏庫の建設、大型漁船の建造をなして指導施設を完備すると共に鰹節倉庫、貯水庫、冷藏運搬船、製氷工場等の設備をなし益々水産業の發展に努めつゝあり、

水産業者　本縣より多數の出稼漁業者を出し本邦内に於ては長崎、鹿兒島、宮崎、高知、伊豆七島、小笠原に居住するもの尠からず、其の他南洋、布哇、南米、シンガポール、爪哇等に活躍しつゝあり、昭和十年末に於ける現住漁業者を見るに本業七、六三一人、副業七、三七〇人なり。

漁船　昭和十年末に於ける發動機船一六九隻、動力を有せざるもの二、〇六一隻なり。

漁業　漁獲物の主なるものは鰹、鮪、旗魚等なるも製造物の主なるものは鰹節にして年産額七十餘萬圓を算し其の品質頗る良好にして先進地産に比し遜色なく中央市場に於ても需要極めて多き現狀なり。

水産業者	漁撈業	漁殖	製造	計
那覇市	四四四	四九	四九八	四九八
首里市	一	一	一	一
島尻郡	三、四四一	二七二	四、一二六	四、一二六
中頭郡	二、〇九五	二、三五二	二、三五二	二、三五二
國頭郡	二、五〇三	七四	二、八七七	二、八七七
宮古郡	二、六七〇	二三五	三、一〇五	三、一〇五
八重山郡	一、五六〇	四一八	二、〇四九	二、〇四九
計	一三、七二五	四四七四	一四、一七九	一四、一七九
同昭和九年	一三、二六〇	一、三五三	一四、五七三	一四、五七三
同昭和八年	一三、三三四	一、四四六	一四、四三七	一四、四三七

漁船	動力ヲ有スルモノ	動力ヲ有セザルモノ	計
昭和十年	一六九	二、〇六一	二、二三〇
同九年	一四六	二、一四〇	二、二八六
同八年	一四	一、九八九	二、一四三

昭和十年

	遠洋漁獲物	沿岸漁獲物	水産養殖	水産製造物
那覇市	九三、七四五円	七〇、三七〇円	四五六円	四五、三三三円
首里市	—	—	二三九	—
島尻郡	七二、六三三	一六〇、一八五	一〇、七五八	一一四、九三五
中頭郡	二、七五二	四四、〇三八	五、八四五	五、七一二
國頭郡	一四二、六三五	一〇二、〇一四	二、〇三四	一八四、一九五
宮古郡	一四〇、二〇五	一〇三、八六九	九、五四六	二〇九、九〇二
八重山郡	二四六、七九九	五一、〇四九	八〇〇	三〇八、八三五
計	六九八、七六六	三五一、三二五	二九、六六八	八七九、一〇二
昭和九年	六六六、八七一	六四〇、五四三	二三、四〇四	八六七、九三二
同八年	六四二、一五六	六三五、三〇六	三〇、七九四	八〇二、〇三〇

二〇、工業

本縣の工業は三百年以上の古き歴史を有し本縣特有の氣候風土に育まれ獨自の保護奬勵に依り發達せるものなり、何れも獨自の技術と特色を有し地方色豊かにして夙に其の名を知られたり。

昭和十年に於ける工産額は二二、八四六、四五六圓にして總生産額の四割一分に當る。工業は本縣の主要産業にして中にも砂糖は全縣下に生産され縣民の生活と密接なる關係を有し工産の五割八分を占む、其の他の主なるものは酒、織物、漆器、帽子陶磁器等なるも一般財界不況の打撃を受けて衰退の狀勢にあると一面交通不便の爲販路を阻害せられたるも近年は漸次交通機關も完備さるゝに從ひ逐年發展の趨勢を辿りつゝあり。尚奬勵並に指導として政府の助成金を得て、昭和二年に工業指導所を設置し試驗、研究、指導見本品製作徒弟の養成をなす側ら、織物改良の爲共同染色工場、漆器業改善の爲、共同素地工場、陶土調製工場を建設し、尚當業者へ補助金を交付する等相當の施設をなし奬勵に努めつゝあり。

糖業

沖縄縣下の糖業者は農家戸數の五割七分を占め砂糖の縣外移出價額は移出品總額の五割六分に當れり、本縣の經濟は糖業を其調として働き社の消長は縣民の生活と密接なる關係を有するものなり、砂

糖の生產組織は農工一体にして甘蔗栽培者は一面製糖業者にして縣下各町村に亘り四千余の小規模の簡式製糖場分立し其の製糖能率低く且多大の勞力を要するを以て自ら製糖額を牽制せらるゝの狀態なりしも分蜜糖工場設立せられてより農家の生產する甘蔗を製糖會社に販賣するの途開かれ勞力を節減しはゞ著しく糖業の發達を促進するに至れり。

昭和九年期の作付反別は一萬五千四百九十町歩にして耕地總反別の三割弱に當り、收穫高十三億八千三百萬斤にして內三分の二は簡式製糖に依る含蜜糖製造に供せられ殘余は分蜜糖の原料として製糖會社に販賣せらる。

糖業の指導奬勵に就いては大正元年國立糖業改良事務局廢止と共に其の設備を繼承して縣立糖業試驗場を設け甘蔗の栽培製糖等に關する一切の試驗研究をなさしめたりしも其の後同試驗場廢止せられ縣立農事試驗場に移管し又物產檢査所を設けて砂糖品質の向上を圖り其の粗製濫造を防止すると共に砂糖同業組合等に依り市場に於ける取引上の信用を維持するに努めつゝあり、而して糖業改良上根本施設として大正十五年度以降の產業助成費及昭和三年度以降の糖業奬勵費昭和八年度以降の振興事業費等の交付に依り優良甘蔗の普及上原苗圃、中間苗圃の設置、灌漑設備、改良共同製糖場の設置、野鼠驅除等の諸施設を行ひ其の効果を顯現しつゝあり。

製糖戶數

昭和九年期（昭和九年七月〜昭和十年六月一箇年）

	五挺未滿	五挺以上	十挺以上	二十挺以上	三十挺以上	四十挺以上
那覇市	六	一〇	八	五	二	—
首里市	九八	八七	一三	四九	二八	三
島尻郡	一、七二〇	二、五四三	三、七三〇	二、六三五	一、七四七	一、二五六
中頭郡	二、三五一	三、五八九	四、七一七	二、九二〇	一、七一四	八六〇
國頭郡	二、七二八	二、一六〇	一、八六四	八三六	三五〇	一三三
宮古郡	一、〇六六	一、一一三	九〇九	四四三	一七三	八六
八重山郡	五〇三	二三四	一一	七七	五	四
計	八、四七二	九、七五五	一二、四五二	六、九四五	四、〇一九	二、一五二
昭和九年	九、七一九	九、九三七	一二、九七一	六、八一二	三、六四六	一、七六〇
同八年	九、五四一	九、九四七	一二、八一九	七、三九五	四、二〇八	二、二五〇

	五十瓩以上	六十瓩以上	七十瓩以上	八十瓩以上	九十瓩以上	一百瓩以上	計
那覇市	一	—	一	一	—	—	三
首里市	三	四	六	二	一	四	四三
島尻郡	六三七	四五〇	三〇九	一九四	一六九	三三〇	一五、六〇〇
中頭郡	四三三	一六四	一六二	一〇二	六三	七	一七、二四一
國頭郡	五六	二六	八	七	六	五	八、一六九
宮古郡	六	三	六	四	一	一	三、八四一
八重山郡	一	一	—	一	—	—	九二七
計	一、一五六	七〇四	三七四	二五五	一六〇	二七四	四七、九〇四
昭和八年期	九四三	五六〇	三八	一九〇	二三七	三三〇	四六、二二三
同七年期	一、一七六	七〇四	三七四	二五五	一六〇	二七四	四七、九〇四

製糖

昭和九年期

	分蜜糖			含蜜糖					
				黑糖			白糖		
	數量	價格	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
	斤	円	斤	円	斤	円	斤	円	斤	円
那覇市	—	—	四六、四九五	三、八九一	—	—	一四、九〇〇	一、三七一	一三、一九一、四〇〇	一、四四六、一六〇
首里市	—	—	八四〇、〇六二	七一、六三五	—	—	一三九、二〇二	一〇、五三〇	四三、五一五、六六四	三、七四九、九一五
島尻郡	一四、〇九〇、四〇〇	一、五一六、一六四	四〇、一〇五、七三七	三、四三〇、二六〇	一、五九三、六〇〇	一三七、二〇七	四、二三三、二六九	三四八、九六三	一〇、五四六、八八八	九四三、三四五
中頭郡	—	—	一〇、五四六、八八八	九四三、三四五	—	—	六〇四、一八六	五四、一〇二	六、八八五、七九九	六六、七九八
國頭郡	—	—	六、八八五、七九九	六六、七九八	—	—	—	—	大五、八五七	六六、七九八
宮古郡	九、五六一、九〇〇	九八九、六五六	六、八八五、七九九	六六、七九八	—	—	—	—	大五、八五七	六六、七九八
八重山郡	—	—	大五、八五七	六六、七九八	—	—	—	—	大五、八五七	六六、七九八
計	三五、八四三、七〇〇	三、九二一、九八〇	一〇二、七六八、四九二	八、八七〇、二三〇	三、九七〇、九七一	一四、九〇〇	一、三三七	一〇、五三〇	一三七、二〇七	三四八、九六三
昭和八年期	三六、四三〇、七〇〇	三、六八三、四八八	八三、六六一、三八一	七、三五七、二九二	五、四三一、五四一	一三九、二〇二	一、五九三、六〇〇	三、七四九、九一五	四〇、一〇五、七三七	九四三、三四五
同七年期	三九、四四五、〇〇〇	三、九二一、三五三	九八、五三一、九三〇	七、七六四、二三六	八、四五一、八七六	一三九、二〇二	一、五九三、六〇〇	四、二三三、二六九	三、四三〇、二六〇	九四三、三四五

	輸計			合計		
	數量	價額		數量	價額	
那覇市	六一、三九五斤	五、三二八円		六一、三九五斤	五、三二八円	
首里市	九六九、二六四	八二、一五五		九六九、二六四	八二、一五五	
島尻郡	四七、七〇四、九三三	四、〇九八、八八〇		六〇、九四〇、三三三	五、五四五、〇四〇	
中頭郡	四一、六九九、三三七	三、五六七、四六七		五五、七六九、七三七	五、〇八三、六三一	
國頭郡	一〇、五四六、八八八	九四三、五四五		一〇、五四六、八八八	九四三、五四五	
宮古郡	六、八八五、七九九	六〇四、一八六		一六、四四七、六八九	一、五七三、八四二	
八重山郡	七五、八五七	六六、七九八		七五、八五七	六六、七九八	
計	一〇八、六九七貫六五	九、五六八、二五九		一四五、六四一、二五五	一二、五四八、二九六	
昭和九年期	八九、〇九三、八三三	七、八六四、八〇八		一三五、五一三、五三三	一一、五四八、二九六	
同八年期	一〇六、九六七、八〇六	八、四二五、六八七		一四六、四五二、八〇六	一三、四六七、〇三九	

漆器

本縣は本邦土と離れ遠隔の地に位し交通の便惡しく爲めに本縣漆器は他地方とまつたく關係なく琉球獨自の鄉土的藝術として三百年以來發達し今日に及べり。

其の製作法他府縣漆器と全く趣を異にし他に到底見られざる幾多の美点特色を具備し、就中最も優れたるは梯梧と稱する木材を使用し之を完全に塗り得らるる下地塗方法と眞紅の朱塗色と推錦と稱する浮出彫刻模樣の四点にして此の特質は海外輸移出品に最も適合し他府縣の追從を得られぬものなり、斯くの如く優良漆器なるに關はらず比較的發展し得ざりしは其の原因多々あるも要するに工藝品として圖案其の意匠は時代の進歩に相應せず且つ遠隔の地なる爲めなり、然るに近年政府の助成により素地の改善を計ると共に工業指導所の新設に依り意匠及技術の改善指導に努力せる結果大いに販路を擴大し諸大都市に進出したるのみならず最近に到りては海外輸出の端緒を得るに至れり。

昭和十年

漆器

	製造場數	職工數	製品價額		
			飲食用器物家具及裝飾品	其ノ他	計
那覇市	九八	一五七	二一、六四五円	二〇、八九五円	一九三、九一四円
首里市	三	二七	六一、三七四円	三五〇	七四五

島尻郡	七	一二	一六、三二八	四、一三〇	七〇	一〇、三二八
中頭郡	九	一二	七四〇	七〇五	六三〇	二、〇六五
國頭郡	七	八	四一五	一、七七〇	三五〇	二、三二五
宮古郡	七	八	三〇〇	一、五〇〇	一五〇	一、九五〇
八重山郡	三	二六	八〇〇	四、〇五〇	三〇〇	五、一五〇
計	四三	三三	一二〇、三九八	七五、七四四	三三、七五〇	二六、八八七
昭和九年	一四二	二九	二三、六五二	六八、五三三	二一、〇四三	二二、二二七
同八年	一四三	二四七	二三、九五四	七五、〇四一	一八、七〇〇	二六、六九五

陶器

本縣の陶器は琉球燒陶器と泡盛容器として泡盛と共に發達せる南蠻燒あり、各々異なる特色を有す。從來移出は泡盛容器を主として花瓶置物の如き裝飾陶器に限られ縣内用も壺類丼の如き粗陶器のみなりしが工業指導所設置以來種々指導奬勵をなしたる結果日用陶器も可なり精巧なるものを產し縣外に移出を見るに至れり。

陶器

昭和十年

	製造場數	職工數	窯數	製品 飲食用品	家具及裝飾品	其ノ他	計
昭和十年	二七	一八	一九	二三、六八三	二七、九三〇	八〇、一八八	一二〇、八〇二
同九年	二四	一〇五	二一	二一、四八四	二六、二七八	七〇、一八〇	一〇七、九四三
同八年	二三	七七	一五	二一、三八二	二三、五三三	三三、四五〇	六六、二五四
同七年	二五	七六	一四	二三、四六五	二五、二〇〇	一九、三三〇	六六、九九五
同六年	一七	五五	一三	二三、〇五八	四〇、四九〇	二、二五二	五五、八〇〇

酒類

本縣の泡盛酒は四百年の古き歷史を有し獨特の芳香風味と酒精度四十五の高率を示すとに因り夙に琉球泡盛の名聲を博し殊に古酒と稱せらるゝものは百年以上も經過せしものありて最も珍重せらる、而して價格低廉にして酒精の度强きにより縣内に需要せらるゝのみならず縣外にも盛に輸移出せられ逐年增加の形勢にあり、斯業の盛衰は縣經濟上重大なる問題なるを以て常に酒造組合を指導奬勵して釀造設備の改善並に釀造方法の合理化を促し生產費を低減し品質を改善すると共に大いに販路の宣傳開拓に努めつゝあり。

酒類	製造戸數	職工數	醸造高	
			數量	價格
泡盛				
其ノ他				
昭和九年	九〇	二三五	三、九四五石	二、八五三、五四二円
同十年	一一	四五	二、七九七	一七五、四一四
同計			七、三三三	二一、〇三四
酒類計	九二	二七五	四三、〇六四	三一、三七、九九〇
盛他酒	九〇	二五九	三四、七一二	二、七九五、二三九
昭和九年	八九	二三一	三、七四五	二、五七五、九三五
同十年	九〇	二六〇	二四、七一一	一、九五九、五〇二
同計	八三	二四七	二五、五五五	一、六五三、四六八

織物

本縣の織物工業は古き歴史を有し古來琉球國貢納布として各地方別に其の種類を定め一般婦女子に賦課して製織せしめたり、其の製織に係るものは琉球絣、同縞、宮古上布、八重山上布、久米島紬、芭蕉布等にして固有の特色と確實なる販路を有し優秀なる特色あるに拘らず從來檢査取締が不充分のため品質の統一を欠ぎ木綿織の如きは本縣特産の泥藍を使用せず却つて粗惡なる化學染料を使用し粗製濫造の弊甚だしく信用を失墜せしめ昭和五年政府の助成を以て指導所設置せられ六ヶ所に其染色工場を設けて指導奬勵をなすと共に昭和九年度に於ては振興費を以て移出織物檢査所を設立し檢査取締を爲したる結果漸次昔日の聲價を挽回しつゝあり。尚ほ近來首里紬首里上布等の本縣地方色を加味せる新興織物も亦縣外市場に紹介せられて好評を博しつゝあり。

織物

	機業場數	職工數	製品				
			昭和九年		同十年		
			數量	價格	數量	價格	
綿織物							
縞絣			六七、五〇三反	一〇三、一二三円	六六、〇五九反	九八、九一〇円	七三、九三七反
木綿			五九、六三七	一五五、七三三	九八、七〇四	一六〇、八八五	五九、六三三
其ノ他綿織物							
絹織物							
壁久米島紬	三、五六七	三、九〇五	四、七九六	三五、七五六	二、八四八	九八、九一〇	一、二八
其ノ他絹織物			四、三三三	二三、五一五	六、九九一	七〇、八〇六	六、一七〇
麻織物							
宮古上布							
八重山上布							
芭蕉布	四九八	五一〇	一〇、二三三	二六七、〇六四	一三、六六五	二七六、八〇一	一〇、六三二
其ノ他麻織物			四七、三七二	一四、二九九	四八、九九三	一〇二、四四三	四七、八三〇
計	四九八	五一〇	一〇、二三三	二六七、〇六四	一三、六六五	二七六、八〇一	一〇、六三二
計	四九八	五一〇	一〇、二三三	二六七、〇六四	一三、六六五	二七六、八〇一	一〇、六三二

昭和十年

合計	三、三五九	四、一九九	四八、三三	四七、八二〇
計	七、三四四	八、六一四	八五、八一六	八九、二四九

二、副業

本縣は氣候風土良く各種作物の成育に好適するを以て之等の餘剩勞力並に天惠を利用し茶、帽子、疊表、山藍、藨用植物、苧麻、竹細工、棕梠製品、養鯉等の如き副業品の生産增殖を圖らしめむが爲苗圃の設置、副業用種苗の共同購入並に栽培、又は機具類設備や副業共同施設をなさむとする團体に對し奬勵費の交付をなすと共に傳習會を開催し、副業品の販路開拓に資せむが爲見本品の配付試賣をなすの外即賣會の開催等をなし以て副業の普及徹底を期しつゝあり。

副業の主なるものは左の如し

茶　本縣に於ける茶の消費は年々二十余万貫に達し年々百万圓内外の輸移入あり、縣産僅に五千八百余貫一万三千余圓に過ぎざるを以て增産の指導奬勵に努めつゝあり。

疊表　古來琉球表として有名なりしも久しく之が研究改良に意を注がざりし爲漸次聲價を失墜せるに依り生産加工法の改善を圖り聲價挽回に努め移出の增加を促進すると共に縣内需要の增大を圖りつゝあり。

帽子　本縣の帽子は阿且葉及紙撚を原料とする所謂模造パナマ帽子の二種と、他に椰子の葉を用

ふるものあり、以前は阿且葉草履のみの製造なりしに明治三十三年頃卷煙草入や手提鞄等を製造せるものより端を發し明治三十六年頃岡山縣人が漂白法を研究し帽子を製造せるより漸次製帽事業が勃興するに至れり、其の後大正三年頃紙撚にセルロイドを塗布し帽子原料の製法を初めてより今日に至り縣下到る所に普及せり。

茶畑及製茶

| | 茶畑 | | 製茶 | | | |

帽子

	製造戸數	職工數	アダンバ製		紙製		烏帽子		其ノ他		計	
			數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
昭和十年	六、七九六	一、四五〇	四三、五六五打	六五〇、三三二円	六六、八九五打	六六、二九二円	四六六、一五一枚	四七四、六一〇	二七、一〇五円	一〇二、九〇八	一四、八六六円	一、六三三
同九年	五、九七二	一、五五九	四五、四五五	六四八、八〇三	六六、二九二	四七四、一九五	四九四、一九五	一〇四、六八	二六、一五四	一〇二、九〇八	一三、三六七	一、九三九
同八年	六、四六九	一、九五〇	三、五五五	六三五、五一四	六七、八五八	四一七	四七四、六一〇	一〇四、六八	二四、七三九	一〇二、九〇八	一三、〇二二	一、六三三
同七年	六、〇七四	二、〇六八	四二、一六五	二七、八七二	六三五、九〇〇	八六、〇九四	八二六、七六二	七九二	三三五	六二、八八〇	三、〇二二	二七二
同六年	六、三三六		二、三七八		二七、八七二				三七二			

二二、商業

本縣の商業としては縣外へ物産の移出を奬勵し且つ之が販路を改善する爲め東京、大阪、兩市に縣營の物産販賣斡旋所を設置し其他沖繩縣物産輸出協會の設置に係る大連斡旋所に依り常に市況を

調査せしめ商取引の紹介斡旋又は物産の聲價宣傳並に販路擴張等に常らしめ、尙商業發展の爲め縣外各地の共進會、博覽會、見本市、物産陳列會等へ出品を督勵し出品物の運送費の一部を補助し博覽會の如きは縣費を以て賣店を開設する等專ら他府縣市場へ本縣物産進出の機運醸成に努めつゝあり。

那覇商工會議所

昭和九年十月二十七日に設立せられ現在那覇市内通堂町二丁目一番地に事務所を設け商工業の進歩發達を圖る目的の爲めに鋭意力を注ぎつゝあり。

工場

昭和十年末

	染色工場	機械及器具工場	化學工場	飲食物工場	雜工場	特別工場	計
那覇市	一	六	二	六	二	一	四二
首里市	三	一	一	二	四	一	一七
島尻郡	三	一	一	四	一	一	三五
中頭郡	三	一	一	三	一	一	一九
國頭郡	一	一	一	一	一	一	五
宮古郡	一	一	一	一	一	一	三
八重山郡	一	一	一	一	一	一	七
同昭和八年	四	七	四	三	二九	三	八〇
同昭和九年	三	六	四	三	三	三	七八
同昭和十年	三	八	三	三	三	三	八〇

二三、金融

本縣に於ける金融機關としては大正九年以來我國財界の變動に伴ひ本縣も其の影響を蒙り經濟界の

昭和十年末

會社	那覇市	首里市	島尻郡	中頭郡	國頭郡	宮古郡	八重山郡	計	昭和九年	同八年
工業 株式合名	四	三	三	一	一	二	七	六九	七	八
工業 合資合名	五		一							
工業 合計										
商業 株式合名	一		二		一	一	一	二	二	七
商業 合資合名	四							一	一	二
商業 合計										
交通運輸業 株式合名	二	二				三	三	二六	三	一六
交通運輸業 合資合名	二	一				二	二	八	八	六
交通運輸業 合計										
計	四	三	三	一	一	二	七	六九	七	八
	五		一							
	一		二							
	四	二	一	一	九	九	六	一二	一三	一九
	一									
	一									

打擊は一層深刻を加へ遂に大正十四年九月沖縄產業銀行、沖縄銀行、那覇商業銀行の三銀行の合併と成り新に設立されたる本縣唯一の本店銀行の沖縄興業銀行一、と他府縣に本店を有する支店銀行の日本勸業銀行那覇支店、第百四十七銀行沖縄支店の二銀行、無盡業三、信用組合八三、公益質屋一四、營利質屋八五とあり。

取扱たる營業狀態は左の如し。

銀行

昭和十一年末

	金額	前年ニ比シ 增	前年ニ比シ 減
預金 預拂年末現在高	二一、九〇四、八三円	二、九四八、〇四八円	
貸付金 貸付年末現在高	一二三、二一〇、三六七	三、一二九、五〇七	
割引手形 割引決濟年末現在高	二、九〇七、一四五		三〇五、三四四
貸付金 回收年末現在高	一〇、八六九、三三三	一、一〇一、六九六	
貸付金 回收年末現在高	一一、一八五、二二八	七四一、四三〇	
貸付金 回收年末現在高	九、〇一九、九二八		三一五、九〇四
貸付金 回收年末現在高	一〇、六二六、五六七	八六三、〇〇八	
貸付金 回收年末現在高	一〇、七〇五、二四九	九三六、六一七	
貸付金 回收年末現在高	一七〇、三九二		六、六八二

無盡

	社數	資本金 總額	資本金 拂込額	積立金	給付金契約高 給付濟額	給付金契約高 給付未濟高	掛金契約 計	掛金契約 受入濟高	掛金契約 受入未濟高	掛金契約 計
昭和十年	三三	三三〇、〇〇〇円	九三、〇〇〇円	九、三三一円	一、四九〇、一〇〇円	三、六三七、九〇〇円	一、三五〇、二四七、一〇〇円	二、九二一、三三〇、七四七円	三、八二八、〇六四、〇六三円	
同九年	三三	三三〇、〇〇〇	一四六、〇九六	一三、九八二	一、九三三、四四〇	三、九二一、八〇〇	四、一〇五、一〇〇	一、九四九、六〇九	二、三九二、二四〇	四、一八八、八四九
同八年	三三	三三〇、〇〇〇	一四三、〇〇〇	七九、九〇八	一、〇〇五、五〇〇	三、三八八、五〇〇	三、三七四、〇〇〇	一、五八一、九七七	一、八五〇、七八三	四、三三一、六九五
同七年	三三	三三〇、〇〇〇	一四五、〇〇〇	一四、〇〇七	九七四、八〇〇	一、八〇八、〇〇〇	二、八〇二、八〇〇	一、四四一、三八八	一、四三六、〇九三	二、八七七、三八一
同六年	三二	二八〇、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	四、一三三	一、三九〇、一〇〇	一、七三四、〇〇〇	三、一〇四、一〇〇	一、六五三、一二一	一、五六三、五五三	三、二一六、六六三

公設質屋

	質店數	貸出 口數	貸出 金額	受戻 口數	受戻 金額	流質 口數	流質 金額	年度末現在 口數	年度末現在 金額
昭和十年度	一三	四五、八八三	一四〇、二八七円	四四、二七八	一三四、七四三円	一、二一六	三、七三円	三三、五一四	一〇九、一二八円
同九年度	一三	五三、二六四	一四九、九四三	五〇、四四八	一六四、九七〇	二、三六〇	八、一二三	三四、〇五二	一一〇、九二六

私營質屋

	質店數	貸出 口數	貸出 金額	受戻 口數	受戻 金額	流質 口數	流質 金額	年末現在 口數	年末現在 金額
同八年度	一三	五一、六六二	一六七、五二二	四八、三八七	一六四、一〇一	二、一四三	七、六五六	三三、五九五	一三四、〇六五円
同七年度	一三	五四、〇九六	一七一、七八五	五二、一七九	一六九、八二八	一、五七六	三、八八八	三三、四六三	一三八、三〇一
同六年度	一三	五七、四八三	一九〇、六九二	五一、一七六	一六六、三九七	五三〇	一、五一六	二九、八八八	一三〇、八一七
昭和十年	八五	六三、〇五三	一〇三、〇四五円	四九、三三一	一三〇、七〇九円	三、二八八	一〇、一九二円	二二九、一四七	二二六、〇五二円
同九年	九四	九七、八一三	一四九、〇三八	七八、六一七	一二三、四三三	四、八〇六	三、一一三	一〇九、六一四	二五三、九〇八
同八年	九六	七八、八六三	一三九、四九六	六一、一七四	九六、八二四	三、一一三	九、四八六	九五、二四	二〇、四五四
同七年	一一	七三、四四八	一二七、三三八	八一、八六〇	一〇七、四二九	二、八、七四四	二〇、〇三二	八〇、四五四	一九九、九五三
同六年	一九	七九、七一三	一四八、三三八	六六、六一〇	九八、〇九〇	二〇、三四四	二〇、〇三二	九九、六五三	一九九、九五六

二四、産業組合

本縣に於ける産業組合は明治三十四年に機業の原料購買織物の販賣を目的とせる沖繩購買販賣組合を設立し越へて明治三十七年には一、信用販賣購買利用組合の設立を見てより年と共に增加し續々設立せられ現在八六組合と産業組合事業系統機關として聯合會設立さる昭和十一年に於ける營業狀況を見るに左の如し。

産業組合數

昭和十一年末

	那覇市	首里市	島尻郡	中頭郡	國頭郡	宮古郡	八重山郡	計
信用購買組合	一							一
信用販売購買組合								
信用販売利用組合								
信用販売購買利用組合			三	二	一			六
販売購買組合			四					四
販売利用組合								
計	一		三	二	一			六

其ノ一　産業組合ノ狀況

昭昭十一年末

總組合數	八六	調査組合數	七四	組合員數	二六、〇二二
出資金總額	金額	販売購買利用高	金額	出資金拂込濟總額	金額
準備金及諸積立金	六八一、七四〇円		一、一二六、七九九円	準備金及諸積立金	一九二、八〇〇円
運轉資金借入金	四五八、五八五		九二〇、四六一	運轉資金借入金	一五七、三九五
貯金	三六二、四一七		三五、四九五	貯金	一〇三、六一八
計				計	三八八、八五三
貸出金	五三、〇七九	預有價證券	金額	貸出金	一八四、七一〇
貸出金	九八、五三三	現有價證券	二〇七、八一七	貸出金	八三、五七六
計	一、四六八、八三二	計	四、八八〇	計	三二、一〇四円
預有價證券	二、二九八、八四四	現有價證券	五三、〇九七	預有價證券	一、九二二
現有價證券	金額	計	二五四、七四四	現有價證券	一〇、四〇三
計	金額			計	四、八四二
貸出金	一、四六八、八三二			貸出金	一七、一六五

其ノ二　消府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ノ狀況

昭和十一年末

所屬組合及聯合會數	八三
金額	

二五、交通及運輸

交通機關の完備は文化の發展と共に産業の發達を促進せしむる所以にして本縣が他縣に比し常に進

歩の程度低きは實に交通機關の不備に基因するもの多き故常に深甚の注意を拂ひつゝあり。

昭和十年末國道一線延長一、八四四米、縣道五一線延長六二六、五六六米、市道二〇六、一〇一米町村道四、七九四、五四六米なり。

鐵道軌道の敷設未だ乏しく樞要地点の連絡は殆んど自動車便に俟つのみなり。

道路

	國道		縣道		市道		町村道		計	
	線數	延長	線數	延長	線數	延長	線數	延長	線數	延長
道路	一	一、八四四米	五一	六六、五六六米	—	二〇六、一〇一米	—	四、七九四、五四六米	—	五、六二九、〇七七米

昭和十年末

乘合自動車

	營業者數	車數
乘合自動車	二	一〇五

昭和十一年末

諸車

	昭和十一年	同十年	同九年
	三月末日		

	乘積	荷積	計
自動車	二〇八	一、一〇六	三、二一四
馬車	一五	九、四三三	九、四四八
荷車	八	二、〇二四	二、〇三二
人力車	一五八	四、〇二〇	四、一七八
自轉車	七	九、〇八六	九、〇九三
通常動車用	九七	三、三九八	三、四九五
計	一九、六四九	六、九〇三	二六、一〇二

軌道

	乘客數	運賃 乘客	運賃 貨物
沖繩軌道株式會社	九、三四	一、二九円	七四、二八七円

航路

	乘客數	運賃 乘客	運賃 貨物
沖繩軌道株式會社	九、三四	一、二九円	七四、二八七円

	物
沖繩軌道株式會社	五、三九延

本縣は鹿兒島を距る西南二百六十九浬より五百五十二浬間に介在する六十有余の島嶼より成り、縣内各地の連絡は勿論他府縣との交通竝に交易は總て船舶の便に依らざるべからざる狀態に在るが故に船舶の完備如何は縣經濟の消長並に文化の啓發に影響する所極めて大なり、現在那覇、大

阪、那覇、鹿兒島、那覇、大連、先島、各離島線を以て海運の現狀なり。今主なる航路の現況を示せば左の如し。

航路線	會社名	寄港地	航海回數	船舶及噸數
那覇 鹿兒島	大阪商船株式會社	鹿兒島、名瀨、那覇	毎週二回以上 年百四回以上	首里丸 開城丸 一、八〇〇噸級 二、〇〇〇噸級
那覇 大阪	同	大阪、名瀨、神戸、那覇	毎月四回以上 年四十八回以上	波上丸 浮島丸 三、七〇〇噸級
那覇 先島	同	宮古、八重山、西表、多良間、興那國、南北大東島	宮古、八重山、西表、年四十回以上、多良間、興那國往航年六回以上、南北大東島往航年一回以上	湖北丸 湖南丸 二、六〇〇噸級
那覇 縣内各離島	沖繩近海汽船株式會社	イ那覇、名瀨、本部、伊江島、伊平屋島、ロ那覇、粟國島、渡名喜島、慶良間島、ハ那覇、久米島	各區間共月三回以上 年三十六回以上	高知丸 亀津丸 たから丸 三〇〇噸級 三〇〇噸級 八〇〇噸級

船舶（漁船ヲ除ク）

三月末

| | | |

鐵道

本縣の鐵道は那覇を起点とし東海岸に至る與那原線、西海岸に沿つて中頭郡北谷村字嘉手納に至る嘉手納線と島尻郡の中央部を貫通し本島南部の大邑糸満に至る糸満線の三大幹線あり、營業狀態は經濟界の好轉と時局匡救事業の施行に伴ひ數年來順調に赴きつゝありしが昭和九年度より漸次低下の傾向あり殊に最近に於ては自動車運輸事業の影響を受けてよりは漸次減收の傾向にあり。

鐵道旅客及貨物

昭和十年

	旅客 乘車	旅客 降車	貨物 發送	貨物 到着	旅客	貨物 手荷物	收入 計
嘉手納線	五五三、〇〇八人	五五三、〇〇八人	三九、〇六五瓩	三九、〇六五瓩	八二、四八九円	二九、二四八円	五九七円	一二、二三四円
與那原線	三二八、〇五八	三二八、〇五八	八、五五二	八、五五二	六二、八九四	四、八三三	四六二	六八、二〇九
糸満線	四五七、七六九	四五七、七六九	一八、五六七	一八、五六七	五九、九六七	一〇、四八六	一五七	七〇、六一〇
計	一、五六八、八五五	一、五六八、八五五	六六、一八四	六六、一八四	二〇五、五三〇	四四、五六七	一、三六	二、二、二五四

縣外輸移出入貨物

昭和十年

縣外輸	輸移出 數量	輸移出 價額	輸移入 數量	輸移入 價額
那覇港 農産物 米	九、二〇一石	二五、三、三三円	二七五、九四五石	七、一八九、七三七円
蔬菜	四七、三三〇才	二四五、三二六	三七、七二二才	五二、二九七
果實	一、三六五	一、二三二	八九、五六七	一三九、六七〇
其ノ他				
計				
工産物 砂糖	二七、九七二、九八〇斤	二、八六〇、三〇二	一、三三三、七〇〇	二七四、三六六
酒類	一八、八二石	一、八四四、八一六		四二三、四六〇
素麺			五、一八七、三〇〇斤	一、〇〇三、一〇九
織物	六二、三三反	二七二、八七五	一〇八、九三〇才	二、二三七、七九七
帽子	七三、六二五打	九七五、四三〇	一〇、三三打	七〇、四八〇
其ノ他		二五四、二七六		二、〇三二、二八四
計		一五、〇七、六一九		一五、〇三二、七六六

移出入貨物	數量		價額		數量		價額	
水産物	鰹節	八三、四〇〇斤	六〇、七二五円	鰹節	一	一八、〇四八、一八	二六、四五二、六八〇	一、三二二、六八〇
其他			四四、八七六	其他				
計			五〇五、天八九	計				
畜産物	牛	三、五六〇頭	二三、三五〇	牛				
其他			一六、五四三	其他				
計			天、八九五	計				
林産物			一、〇六〇、七〇三					
鑛産物			六八、四七一					
雜産品			七〇一、〇七五					
合計			二天、四五五、天八〇					

移出入貨物	數量		價額		數量		價額	
農産	米	一七、五九〇、〇六〇斤	一、七三九、七八五	米				
其他			二、七二〇	其他				
計			二、七二〇	計				
工産	砂糖			砂糖	一三俵	?	?	
織物			四八、七四九	織物			九二四、〇九三	
其他				其他				
計			一、七六、五四四	計			九二五、五四五	
水産物			二〇、二二〇	水産物			一、二六〇	
畜産物			六〇	畜産物				
林産物			三六、〇〇七	林産物			六三、〇一三	
鑛産物				鑛産物			二五、七四四	
合計			一、九七、四四一	合計			一、三二、六八〇	

二六、通信

本縣の通信機關は明治七年三月設置せらる、昭和十年末現在の郵便局六四、電信取扱局三九、電話取扱局一七、電話加入者九八一人にして漸次電話加設は町村役場に普及しつゝあり。

郵便

	昭和十年	同九年	同八年
局數	六四個	六一個	五九個
通常	八、四九〇、六四八	八、五二一、九九五	八、八五〇、八八九
小包	一〇、九三三、五二四	二、〇六五、一四二	一〇、八〇七、六〇六
配引	一〇九、三九九	一〇三、一八四	九六、一九二
配引	二四、〇七二	二〇四、三四二	一九二、五八八

電信及電話

	昭和十年度	同九年度	同八年度
取扱所數	三九個	三八個	二個
電信 發信 內國	三八六、四五二	三六三、四〇三	三三七、〇六六
電信 發信 內國	二四九、二四九	三五九、一六九	三二〇、二四五
電信 着信 內國	三九五、四四九	三五七、二七二	三一九、九九九
電話 加入者數	二三八	一六九	二三五
電話 通話度數	九八二	九〇九	八一五
電話 外國 通話度數	五、三一〇、九〇〇	五、九六七、五六八	三、四〇一、三七九

二七、財政

縣ノ豫算

昭和十一年の通常縣會に昭和十二年度の豫算として附議せられた縣歳出通常豫算は經常費一、三三六、七九六圓、臨時費五八三、五八六圓、合計一、九二〇、三八二圓にて昭和十一年度の當初豫算に比し五〇、一〇六圓の增加を示せり。尙總額に對し種類別に歩合を示せば教育費二割三分、土木費六分、勸業費一割二分、警察費一割四分となる尙歳入豫算を示せば左の如し。

昭和十二年度

歳入

種類	金額	種類	金額	種類	金額
地租附加税	八二、八四一円	特別營業地税	一五、九二六円	縣債	七四、八〇〇円
家屋附加税	二六一、〇〇〇	其ノ他諸税	一六、五〇〇	雜收入	一九四、六九九
雜種税	二三、六四二		五三二	其ノ他	六五八、四六二

歳出	金額	歳出	金額
所得税附加税	四七、九一四	寄附金	三一、三三四
臺業收益税附加税	四四、二二八	國庫補助並下渡金	三三、五〇七
警察費	三六〇、三八〇円	其ノ他	一、九一〇、二八三
土木費	一〇九、一三七	計	二三四、七二六円
教育費	四三四、四六三	計	二、九一〇、二八三

更に既往五ヶ年の縣財政(決算額)を見ると左の如し

歳入	歳出
昭和十年度	三、四七七、九六五円
同九年度	四、六六八、四七七
同八年度	五、四九〇、三四五
同七年度	五、一三九、七九八
同六年度	二、九八六、四六三

市町村費支出ノ狀況

昭和九年度市町村歳出決算を見るに其の總額五、〇一四、七八六圓で前年度より二六五、四六七圓の增となる尙總額に對し種類別に歩合を示せば教育費三割三分、役所及役場費一割〇分、土木費一割八分、衛生費二分、其の他三割六分となる。

尙昭和九年度支出決算を市町村別に示せば左の如し。

	教育費	役所及役場費	土木費	衛生費	勸業費	其ノ他	計
那覇市	二四、七〇九円	五七、六六三円	八、六一三円	二、三八〇円	三、八八円	五〇、一五一円	三四五、七〇四円
首里市	四〇、一六一	一三、七六四	三五二、三四二	九、四一六	六、〇七三	一、五六〇、三一七	六九、一五三
島尻郡	四二九、七三二	一五一、七二一	二四、七〇〇	一四、三〇八	一、二二五	一、一八三、三六六	九八二、〇〇〇
中頭郡	四〇八、七七七	一二二、二七五	一七六、六九〇	二〇、九八一	二〇、三二五	四三、八一一	五六九、五九
國頭郡	三二、三〇六	一〇〇、六〇九	八九、三五	一六、九九一	二、一四五	二三七、〇六〇	三〇四、三三八
宮古郡	一七、四九九	五二、五一一	七、六六一	三、九八七	一〇、四五三	八七、三〇九	一、五六〇、三七七
八重山郡	九一、一二六	三三、八〇二					
計	一、六七七、二八〇	五三一、三四五	九一九、五八五	七一、一七	三三、九一四	一、六五、三四四	五、〇一四、七八六
昭和八年度	一、六〇九、五九一	四九五、〇八五	三〇四、七六六	六六、九三〇	三九、三七七	二、二三三、五六八	五、〇八、三七七
同七年度	一、五四〇、八五〇	四九四、五五四	一、三三、一二六	六九、五八二	二七、六九六	一、五六三、五九〇	五、〇一八、三七七

租税負担ノ状況

縣民が一ヶ年に納むる租税の總額を昭和十年度の決算に就き調べ見るに國税四、八九八、三〇七圓縣税七八四、七一〇圓市町村税一、四四四、八三〇圓、合計七、一二七、八四七圓となる。

尚租税負担一戸當及一人當りを郡市別に見ると左の如し。

	縣税 一戸當	縣税 一人當	縣税 一戸當	縣税 一人當	市町村税 一戸當	市町村税 一人當
	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢
那覇市	一七・四五	三・九六	一三・一九	六・三二	三・〇三	一・〇四
首里市	一九・五七	四・三一	六・三二	二・三二	一・三八	一・〇四
島尻郡	一八・九一	三・九三	五・六八	二・三三	一・一八	一・一六
中頭郡	〇・八三	〇・一七	五・七五	二・四四	一・二〇	一・一〇
國頭郡	四・三七	〇・八八	四・九七	二・二一	一・〇一	一・〇九
宮古郡	五・九六	一・〇三	五・六二	二・二二	一・〇九	一・〇五
八重山郡	一・〇七	二・二八	五・二三	二・二四	一・〇〇	一・〇二
計	四〇・二四	八・二七	六・四五	二・四四	一・三三	一・〇八
昭和九年度	三・六七	七・一九	六・一七	一・〇八	一・三二	一・〇八
同八年度	三・六二	七・四八	五・五三	二・〇二	一・〇四	二・〇七

縣債

	勧業費	土木費 災害	社會事業費	其ノ他	計
	円	円	円	円	円
昭和十年度	一、九八四、〇七九	五三、六〇七	一六八、二〇〇	九一八、〇〇一	三、二二三、八〇七
同九年度	二、九六七、四〇九	一〇一、四四六	二三九、三七〇	九九九、九七一	三、四三四、三七六
同八年度	二、二三五、五一一	三〇、三四四	一八五、七〇〇	一、〇七〇、六八三	三、四〇五、二七〇
同七年度	二、八二〇、二六五	八六、〇〇〇	二六三、八〇一	一、一三七、四五五	三、八九〇、八〇八
同六年度	二、二〇四、八九〇	二九、八七三	二〇四、六九一	一、一九九、四〇九	三、五〇七、九七七

市町村債

	教育費	勧業費	土木費 災害	土木費 普通	社會事業費	其ノ他	計
	円	円	円	円	円	円	円
那覇市	三二、五五八	—	—	四、三二一	一九、二四九	八〇七、三二八	一、二四二、四六六
首里市	三九、六〇八	—	—	五、七〇〇	一一、〇九九	三二、四四八	八六、一四二
島尻郡	四一、九三四	—	六六	五、一五八	一六、三三三	—	六三、三二四
中頭郡	四四、五一九	—	—	一、八五一	三、〇〇〇	—	七八、一七〇
國頭郡	一〇八、一三八	—	二、八三九	一、四六三	五一、六〇六	—	二五〇、二七四
宮古郡	一七六、二一三	—	三八、八一八	二、四五三	一〇、七九〇	—	六五、七〇六
八重山郡	九九、六九六	—	一〇、八五〇	九、六〇〇	二七、八〇〇	—	二七〇、〇三六
計	七三一、六五六	—	七〇、一九三	六二、三五六	一六八、四四六	八三九、七六六	一、八七二、七七七

昭和九年度	七五九、六〇八	一	六五、三六三	七八八、三四五	一七五、五九〇	一〇八、五五二
同八年度	六七八、五一九	三九、〇〇〇	六七、五四四	七九一、〇三五	一六九、三四七	一〇九、七九二

二八、警察

時運の進展に伴ひ社會事象益々複雜を加ふるに當り一般警察の更張普及を要するもの多く又一面警察の社會化に努め民衆と警察との親和協力を圖る等各般警察の圓滑進展を期し齎々之が改善に努めつゝあるも社會の複雜化及一般不景氣に伴ひ犯罪件數及檢擧件數人員年々增加せり。

所數及電話設置數

昭和十一年末

所	數	警察電話設置數
警察部	一	三三
警察署	九	一四
補充派出所	三	一一
巡査部長派出所	五	二〇
水上巡査派出所	二	一
巡査部長派出所	一	六
巡査駐在所	二	二四
巡査派出所	三	九
請願巡査派出所		二四
警察電話交換所		

犯罪發生並檢擧件數

昭和十年

	發生	檢擧
刑法犯	六、八九二	六、八一八
海軍法犯	—	—
警察犯處罰法令違反	四五九	四五九
府縣令違反	二、二五二	二、二五二
其ノ他法令違反	二、二五二	二、二五二
計	二二、二七六	二二、〇四五
昭和九年	一三、三七六	一三、四八三
同八年	八、九七五	八、八三六

被害届出件數

	盜難	盜窃	詐欺其ノ他	計	被害額
昭和十年	三九四	二、二八四	一、一六七	三、四五五	一三、六五六
同九年	二二	二、三五九	一、〇七八	三、四九九	一七、五二二
同八年	一、九一九	一、九一九	五七三	三、四九六	二〇、五七六

	火災					
昭和十年	六三	一四	二	六	六七	四七
同九年	八九	一六	四	一九	二五	六三
	失火	放火	不審火	計	住家	非住家	被害見積額
							八、四三九円
							一五、三二五

| 災變死 | 自殺被殺不慮計 | | |

種痘成績

昭和十年

	善感人員		不善感人員		檢診未了人員		計	
	第一期	第二期	第一期	第二期	第一期	第二期	第一期	第二期
一回	八、九九四	八、〇四四	一、一四三	三、三五二	八七二	一、〇五九	一二、〇〇七	一三、三四四
二回	一、九九九	一、九三三	三〇七	九〇八	三六	二三	二、五三三	二、九五五
計	一〇、九五五	九、九六六	一、四四九	四、一五九	一、〇八七	一、一七三	一五、五五九	一五、五七七

病院

昭和十年末

	病院				
	公立	私立	傳染病院	隔離病舍	
病院數	三	二	二	一	四
病床數	三〇	三七	三	三	六五

醫師其ノ他

昭和十年末

醫科醫	三五	藥種商	五四
藥劑師	三	製藥者	二

獸醫		賣藥製造人	二七
鍼灸按摩術	四	賣藥部外品製造人	六五

上水道

本縣の地質は珊瑚礁より成り水質は石灰分多く衛生を阻害し併せて工業の進展を阻止する爲め上水道の敷設は歴代理事者の腐心するところなるも漸く昭和六年事業着手の運びとなり、昭和九年三月を以て諸般の工を竣へ那覇市に始めて通水を見るに至れり。

	昭和十一年末現在
敷設箇所數	三、六〇四
給水戸數	四、〇七八
給水總量	一、〇六八、七二〇 立方米

三〇、健康保險

健康保險法は從來工場法、鑛業法等の適用工場事業場にのみ施行せられ居りしも昭和十年一月法の改正に依り常時五人以上の勞働者を使用する工場事業場にも擴張實施せらる、昭和十一年三月末日現在に於ける工場數一三八、被保險者數一、一二五名なり、工場事業場の大半は小規模にして常時五〇

名以上の勞働者を使用する工場僅に八、九箇所に過ぎず、之等工場の業態を觀るに最も多きは雜工場にして機械器具工場、飲食物工場、染織工場、化學工場等の順位を示せり、健康保險事業は被保險者に對する醫療給付若くは現給金付をなすに止まらず保健宣傳講演會、活動寫眞會等を開催し積極的に被保險者の健康保持增進を圖りつゝありて事業狀況は左の如し。

工場事業場數並被保險者數

昭和十一年三月末

工場	工場事業・數	被保險者數
雜工場	五三	六六六
機械器具工場	二三	一六〇
飲食物工場	一六	七九〇
化學工場	一〇	三〇
特別工場	四	三
染織工場	一五	一〇四
石炭山	九	二五〇
計	一六	二、一三三

療養給付狀況

昭和十一年三月末

	療養給付件數	療養給付日數	傷病手當金支給日數
業務上	六六三	四、五三〇	二、三〇三
業務外	四、二三八	四九、四三〇	一〇、六七〇
計	四、九〇一	五五、九六〇	一四、〇二二

三一、海外渡航者

本縣は土地極めて狹少にして加ふるに天然の資源亦豐富ならざるを以て移殖民の奬勵指導を圖るは人口過剩、財政窮迫にある本縣に於ては各種產業の改善施設と相俟つて最も重要なるものにして經濟の振興、文化の向上、民族の發展等幾多國策に寄與する所尠からず、縣民の海外へ進出せるは明治三十二年布哇へ二十七名始めて渡布せしより爾來一般に普及し、南、北米各國、南洋諸島に新天地を開拓しつゝある同胞は四萬人を算し年々辛苦勤勞に依り鄕里に送る金額は三百萬圓の巨額に達し縣經濟に貢獻するところ甚大なり。而して移殖民は忍苦健鬪克く業務に精勵し常に質素の美風を重んじ蓄積の精神に富む等幾多の長所を有するも地理的關係より文化の程度後れ教養乏かりし爲め誤解を受け大正八年ブラジル家族移民を禁止せられたるに依り、當局に於ては大正十三年十一月海外協會を設立し國庫及縣の助成と縣外篤志家の寄附に依り開平會館を建設し、渡航者を一週間館內に宿泊せしめ渡航先

の風習、就業の一般を知得せしむると共に服裝、言語、動作等の訓練及社會的の道義心と協調精神の涵養に努めつゝあり。

海外渡航人員並送金額

昭和十年

	年末現在人員 男	女	計	年内送金額		年末現在人員 男	女	計	年内送金額
北米合衆國	三、一七	二九二	八一九	七三、一七三円	比律賓群島	四、七六四	一、三一七	六、二九一	三四九、九九九円
米領布哇	六、三五九	四、三五〇	一〇、九二九	八六七、三一八	加奈陀	二三八	一二四	三三二	一〇、四六三
秘露	四、五五三	二、四三〇	七、〇〇三	六四九、四六〇	佛領ニユーカレドニヤ	五四	三	五九	六、五一九
亜爾然丁	一、八三一	六三〇	二、四六一	一七三、七六〇	蘭領セレベス	七六	七	八六	一三、三三一
新嘉坡	九七三	九八	一、〇七〇	九三、八三三	玖瑪	一〇〇	二七	一二七	一三、三一一
墨西哥	二三五	九七	三三二	四一、九七〇	其他	三〇四	五七	三六一	三六、〇六八
伯剌亞爾	三、三四六	三、四四六	八、九九二	一八五、八六六	計	二三、七三四	一三、六〇六	三六、八四〇	二、三二四、四六六

三二、電氣事業

株式會社	沖縄電氣	株式會社	名護電燈	株式會社	宮古電燈	株式會社	八重山電氣

原動力	發電所出力	汽力	内燃力	内燃力	内燃力	内燃力
電燈需要狀況 常時	時	八〇〇	七六	六〇	五〇
定	定	一、三〇〇	一、二三五		一、四九九
定	計	一、五〇〇	三二		三〇
需要家付	需要家付	八〇〇	一、一三五	一、三四八	一、一四九
取付K	取付K	五五〇	一、九四九	一、八四九	三、二三五
需要家付	需要家付	四五五	三一	六〇	三〇
取付W	取付W	八〇〇	一三七		
從量燈	從量燈	三六六	二三四		
一年間供給KWH	一年間供給KWH	二〇〇、三八二	四二五		
需要家付實數	需要家付實數	四、三八八	一、三三二	一、五四八	一、四九九
取付燈數	取付燈數	一五、六六七	二、三七四	一、八四九	二、二三五
		三四、三二六			

三三、縣下の言論界

縣内に於て發行する新聞雜誌は二六（有保證二四無保證二）あり、尚此の外に大阪朝日、大阪毎日等の大新聞社が通信所を設け沖縄、鹿兒島版を發行し縣民を指導啓發しつゝあり。

今其の内譯を見るに日刊六、月三回以上八、其の他一二にて新聞名稱及所在地は左の如し。

新聞紙一覽表　　昭和十一年末日現在

題號	發行時期	保證金ノ有無	發行所
琉球新報	日刊	有	那覇市東町四ノ二
沖縄朝日新聞	〃	〃	同　市西本町四ノ二〇
沖縄日報	〃	〃	同　市西本町三ノ三
沖縄毎日新聞	〃	〃	同　市西本町二ノ二一
日刊沖縄新聞	〃	〃	同　市久米町一ノ三
沖縄毎夕新聞	〃	〃	同　市旭町一三
宮古民友新聞	月一〇回	〃	宮古郡平良町字下里一
宮古時事新報	月一〇回	〃	同　郡平良町字下里六二六
宮古報知新聞	月一五回一日ヨリ隔日	〃	同　郡平良町字西里五四二
宮古朝日新聞	隔日　偶數日	〃	同　郡平良町字西里二八八
先島朝日新聞	月一〇回　三ノ倍數日	〃	八重山郡石垣町字登野城一六二
石垣產業組合報	月一回　十五日	〃	同　郡石垣町字登野城二
海南時報	月一〇回　二、五、八、一一、一四、一七、二〇、二三、二六、二九	〃	同　郡石垣町字大川一七七

西南之護	月一回　十五日	有	那覇市松下町
曉鐘	月一回　十日	無	同　市西本町四ノ一二
沖縄海外協會報	月一回　二十日	有	同　市若狭町
南海警友	隔月一回　日不定	〃	同　市美榮橋町
沖縄教育	月一回　十日	〃	同　市旭町
八重山郡養蠶業組合報	月一回　一日	〃	八重山郡石垣町
那覇尋高新聞	月一回　十五日	〃	那覇市松山町
更正之友	年八回　不定	有	同　市美榮橋町
みやこ時報	月一〇回　三、六、九、一二、一五、一八、二一、二四、二七、三〇	〃	宮古郡平良町
沖縄縣農會報	年二回　六ヶ月ニ一回	〃	那覇市旭町
北山時報	月三回　一、二、三	〃	同　市辻町三ノ一、一三五
護持	月一回　二十五日	無	中頭郡宜野灣村字普天間六五五
沖縄殖產時報	月一回　日不定	有	島尻郡眞和志村字古波蔵三、〇五五

名勝舊蹟

那覇市

波上宮

若狭町西海岸の丘上にあり、古より沖縄八社（沖宮、識名宮、普天間宮、末吉宮、八幡宮、天久宮、金武宮）の一に數へられ、波上權現と稱せられたるも其の建立の年代詳ならず。

本宮は伊弉冊命、相殿は事解男命、速玉男尊を奉祀し、明治二十三年官幣小社に列せられ規模を一新せり。古來本宮の寶物として、朝鮮鐘外二、三の珍器を藏す、殊に朝鮮鐘は支那宋前、後周の「顯德三年大歲丙辰正月二十五日」の銘ありて九百八十年前の古寶物たるのみならず、世界に現存する朝鮮鐘の總數四十六個中、時代の古きことは實に第六位を占め、明治四十一年五月國寶に指定せられたり。

土地亦景勝に倚り古來納凉、觀月の場所として知られ内外文人墨客の吟詠に上るもの少からず。

護國寺

若狭町に在り、波上宮と隣接す。眞言宗の古刹にして往時より尙家の祈願所たり。建立の年代は詳ならざるも五百三十餘年前入滅せし僧頼重の開基なれば略ぼ其の年代を推知することを得。

本堂内の地藏菩薩は元薩州川内郡大平寺の本尊なりしを國主尙圓の靈夢に入り本堂に勸請せられたりと云ふ。寺内には明治七年台灣征伐の動機となりし琉球藩遭難民碑記及び今を距る九十年前即ち弘化三年沖繩に渡來し九年間も滯留せし醫學博士にして且つ言語學者なりし宣教師ベッテルハイムの記念碑あり。

崇元寺

崇元寺町の東南端に在り、臨濟宗の古刹にして、琉球國主歷代の家廟なり。其の開基の年代には異說あるも少くとも尙圓王以前にして、約四百年の星霜を閱せるは疑を容れざる處なり建築は和漢折衷の手法に成り且つ石壁の構造は甚だ巧緻を極め近年斯道大家の注目を惹きつゝあり。寺内には始祖舜天以下歷代國主の靈位を祀り昔時は支那冊封使渡來毎に國主親ら先國主の祭祀を行ふ莊嚴なる儀式ありたり。

門前には「嘉靖六年丁亥七月二十五日」（四百餘年前）に建てられし下馬碑ありて、賢愚前は何人と雖も此處を騎馬又は乘物にて通行することを禁じたるものなり。

孔子廟

久米町に在り、泉崎橋と相對す。建物は總て支那風にして今を距る二百六十餘年前の創立なり、廟内の正面には孔聖の坐像を安置し、左右には四賢（顏子、曾子、思子、孟子）の立像を配せり。往時は總て支那の制に倣ひ、春秋二丁（一月、八月上丁の日）の釋典の禮には國主の代理として

司法官（家老）を遣はし紫金大夫以下若秀才に至る約六十名許にて莊嚴に行はれたるものなり。現在は財團法人崇聖會を設立し、春秋の祭祀を行ひ道義の向上を圖りつゝあり。城内には支那冊封使の撰に係る儒學碑記、至聖廟記等あり。

三重城

那覇港右岸に在り、往時屋良座森城の南砲台に對し、之を北砲台と稱し倭寇防禦の爲め築造せるものなり。

奥武山公園

那覇港灣内に横たはる小島の突端にして天然の勝地を利用し、明治三十三年時の東宮殿下の御慶事奉祝記念の爲め開園せり。

ペリー上陸の地

泊台之瀨病院の側に在り。嘉永六年四月十九日アメリカ合衆國水師提督ペリーが船艦四隻兵員五百六十餘人を率ひ、舳艫相啣みて遙々日本々土を來訪せし途次吾が琉球訪問の爲め上陸せる處なり。

首里市

首里城

琉球歷代の王城にして、首里市の高阜に聳立し、周圍九町、面積一萬八千八百餘坪、石垣の厚さ

二丈餘、高さ五丈餘ありて中央に正殿あり、大小の殿閣之に續き城門亦十一ヶ所あり。史の傳ふる處に據れば上代天孫子初めて此國を支配し城都を首里に定めたりといふも其の年代詳ならず。今を距る七百餘年前、爲朝の子舜天その後規模を擴張しその後尙眞王に至り明朝の制を模して大いに殿閣の美觀を添へその子尙清王の時代には亦倭寇の防禦に城郭を擴張せり。三百餘年前即ち慶長の役後は和漢兩樣の建築樣式を用ひ、明治十二年廢藩置縣に至る迄歷代琉球國王の居城たりし所にして諸公衙亦その內に在りたり。置縣後は館本分遺隊を置き南海の雄鎭と稱せられたるも日清戰役後台灣が吾が領土となりたるを以て分遣隊も撤廢せられたり。爾來歲月の推移と共に建物及門樓の腐朽崩壞甚だしきものありたるも近年識者の間にその保存價値を認められ、正殿は已に沖縣神社の拜殿として古社寺保存法により特別保護を受くることゝなれり。

大正十年には畏くも　今上陛下が皇太子として御渡歐の途次御台臨を辱うしその記念碑あり。

靈　御　殿

首里市金城町の古木鬱蒼たる森の中に在り。尙侯爵家歷代の墳墓にして俗に(タマオドン)と稱し四百三十五年前即ち文龜元年尙眞王が父尙圓王の遺骨を改葬する爲め築造せしものにして、壯大幽玄なる琉球式の古墳三基あり。一基は靈柩を安置し、二基は洗骨後の靈骨を奉安する所なり。外廓には「大明弘治十四年九月大吉日建立」の銘ある所謂「たまうどんのひのもん」(墓碑)あり。

沖　繩　神　社

首里城內に在り。大正十二年三月の創立に係り、國祖舜天王、尙圓王、尙敬王、尙泰侯を主神とし、源爲朝公を配祀せり。拜殿は舊王城の正殿にして俗に唐破風と呼ばれ大正十四年四月古社寺保存法により特別保護建造物に指定せらる。大正十五年五月縣社に昇格せり。

觀　音　堂

首里市山川町に在り。千手觀音菩薩を本尊とし、元和四年尙豐王の創建なり。土地高爽、眺望絕佳四時衆庶の參拜絕えず。

圓　覺　寺

首里市當藏町に在りて、天王寺、天界寺と共に沖繩二大寺の一に數へられ沖繩に於ける禪宗の本山なり。歷代尙氏の菩堤寺にして今を距を四百四十年四前即ち明應元年、尙眞王のとき僧芥隱の開基せしものなり。

建物の主なるものは山門、佛殿、龍淵殿、照堂等にして、佛殿には釋迦、文珠、普賢の三體を安置し、龍淵書には圓覺王以下古代國主の神主を祀れり。

近年其の壁畫及建築手法が斯道專門家に依りて研究され最も價値ある古刹として矚目せらる。

尙　侯　爵　邸

首里市大中町に在り、往時は中城御殿と稱し世子の居邸にして所謂王世子殿たりし所なり。

寛永年間即ち今を距る二百數十年前尙豐王時代の創建に係り、最初は今の縣立第一中學校の地にありたるも安政四年現在の所に移築せり。建築も本殿は總て昔の佛を存し、敷地三千四百五十坪建物七百坪あり。就中庭園及大廣間の構造は數奇を凝せり。

大正十年畏くも　今上陛下が皇太子殿下として御渡歐の途次御台臨の榮を辱うし、次いで大正十四年には、秩父宮殿下　同十五年には高松宮殿下の御台臨をも辱うせるは同家の榮譽之に過ぐるものなし。

首里孔子廟

首里の文廟は馬執宏(豐平親方)の書きし「首里新建聖廟碑」に詳記しある如く、嘉慶六年(我が享和元年(紀元二一、四六一)に尙溫王が國學や鄕學を創設されしとき建設の議起り國學の南に隣接して地を選びしとも、その翌年不幸溫王薨去されし爲め延期となり、三十余年を經て尙育王時代天保七年(紀元二一、四九六)に至り再び建設の議起り、遂に翌八年三月工を起し九月竣工せり。而して又啓聖祠を國學彝倫堂の內に設け、至聖先師孔子神位を廟中正面に奉置し四配を奉じたるなど久米の聖廟と同一なり、唯久米の聖像と異なるは、こゝにては木主を奉じあるのみなり。祭禮亦同樣なり。明治三十年浦添邸に移し昭和十年更に首里城內に地を卜して移築せるものなり。

守禮門

尙淸王時代の創建にして初め待賢門と稱せられたるも、後「首里」の扁額を揭げ尙賢王時代に現

在の「守禮の邦」の扁額に改めたり。

歡會門

王城の正門にして、左右に石獅子像を安置し上に歡會門の扁額を揭げ、尙眞王の創建なりといふ

島尻郡

識名園

島尻郡眞和志村字識名(與那原線、一日橋より約七町)に在り、尙家の別莊にして首里城の南に當るを以て往時は崎山の東苑(尙家の別莊)に對し南苑と稱せられたり。

創設の年代は詳ならざるも寛政十二年沖繩に渡來せし冊封使趙文楷の撰文中、「中山王新闢南苑」の句あるを以て約百三十餘年前と推知せらる、園內には池あり、泉あり、築山あり、飛瀑あり、山水の勝を合せ四季の眺望最も佳し、勸耕台に登れば南郊一眸の下に俯瞰せらる往時は國王百姓の田植を觀奬され又育德泉には天然記念物として特別保護になれる珍奇なる水藻(チスヂノリ)生茂せり。

眞玉橋

那覇灣の東端國場川に架設されたる三聯の大石橋にして崇元寺の石門と同一實匠になり三つの小矼連結して一個の大矼をなし、更に兩端に各一つの小矼あり。

橋は往昔中山城下より南山へ通ずる唯一の道路上に在り、四百年前尙眞王時代木橋二基を創架し南を世持を、北を世寄橋と稱したり、是より二百年後尙貞王時代即ち寶永四年(紀元二、三六七)七ヶ月の日子と石工九千人三十五ヶ間切夫役八萬三千數百人を使用して堅牢なる石矼に改築せるが文化六年(紀元二、四六九)尙灝王時代北の世寄橋は大雨の爲め破潰せられたるに依り、一時木を渡して往來に便し尙育王時代即ち天保七年工を起して重修し、世濟橋と名付け更に一大橋を築くに至れり。

之に要せし石工一萬余人夫役七萬八千人といふ、橋名は北を世濟橋、中を世寄橋、南を世持橋といふ兩端の小矼は無名にして合して眞玉橋と稱せり。

南山城址

島尻郡高嶺村字大里西方丘上(糸滿線兼城驛より凡六町)に在り、往昔南山王の居城たりし所にして現在は南山神社あり。

白銀堂

島尻郡糸滿町北端(糸滿驛より凡六町)の岩窟に在り、往昔美殿なるものゝ傳說と關聯し人口に膾す。

炎爾來町民の崇拜所となれり。

尙氏發祥の地

伊平屋は國頭郡今歸仁村の北方十五六浬(運天港より二十二浬)那覇港より五十一浬の洋上に在り

伊平屋(後島周圍八里)伊是名(前島周圍四里)の二島と、野甫(周圍一里)具志川、屋奈葉等の小島を以て一村を形成し、人口千四百九十七昔は北山王の所轄なりしも嘗縣後は島尻郡に編入せられたり。地質は二大島は古生層(他は珊瑚礁)に屬し高嶺相連り景勝の地たり、前伊平屋即ち伊是名島は第一尙氏、第二尙氏二王統の發祥地にして字諸見には尙圓王の生誕せる遺跡御膳所あり、伊是名城の麓には尙圓王の父里主尙稷の靈御殿あり、其の他史蹟傳說に富む。

久高島

島尻郡知念岬の東方三浬の海中に浮べる珊瑚礁の扁平なる小島にして周圍一里人口六百余あり、生業は主として半農(女)半漁(男)なり、史の傳ふる所に依れば沖繩人の祖先たるアマミキヨの初めて降臨し麥粟を生ぜし所なりと云ひ傳ふ、本島は現在も特殊の地割制度行はれ、社會經濟史家の注目する所なり。

波平平松

島尻郡摩文仁村波平に在り、那覇より約四里朝夕二回バスの便あり、平松は字前の井戸の上方にありて樹幹直徑四尺、高さ六尺枝幅の直徑十五間の傘松にして彼の名高き宜郡灣の我如古平松以上の美觀を呈す。古老の言に依れば樹齡百五十年南部島尻に於ては昔より組踊手水の縁の出所波平城と關聯して吟詠に上れるもの多し。

久米五枝の松

島尻郡具志川村字西銘に在り、具志川小學校より約十町、五枝の中二本は白蟻の爲め枯死し三本は現在繁茂せり、枝は屈曲して地を這ひ被覆面積三十坪以上あり。

中頭郡

普天間宮

中頭郡宜野灣村字普天間(嘉手納線大山驛より凡一里)の鐘乳洞窟内に鎖座し伊弉冊命、速玉男命事解男命を祀る開基の年代は三百余年前ものせし琉球神道記中にも「其の濫觴を知らず」とありて不明なり。

昔は毎年(舊暦九月)國主の參詣あり現在も一般人民の篤信厚く殊に航海安全の靈驗ありと云ひ傳ふ、附近街道に沿うて普天間樋泉と云ふ靈泉あり。

中城城址

中頭郡中城村字泊(與那原驛より自動車にて伊舍堂に下車し凡十町)海拔五百尺の松林中に在り、今を距る四百七十余年前尙泰久王殷肱の臣中城按司護佐丸盛春の居城たりし所なり。

浦添城址

中頭郡浦添村の中央丘上(嘉手納線城間驛より凡一里)に在り、今を距る七百四十九年前即ち文治三年源爲朝の子舜天の居城たりし處にして隱長の役のとき薩軍に燒かれ爾來廢墟となれり、附近に浦添ヨウドレ(墓)あり、英祖(向つて左)尙寧(向つて右)の二王を祀る。

殘波岬

中頭郡讀谷山村字字座(嘉手納驛より約二里半)岬原の海中に突出せる東西四百余間、高さ數丈の斷岸絶壁にして雄大なる景色を有し夏季此の地に杖を曳く者多し。

宜野灣街道松並木

本並木は本縣最古最良なる林相を有する優雅なる琉球松並木にして普天間宮前より浦添村境に至る延長實に五千八百七十二米樹齡約百十年を經たるものにして舊藩時代藝溫の遺志を繼承して普天間宮參詣道路として特に意を用ひ周到なる指揮監督の下に植栽せしめたるものにして直ちに日光の松並木を聯想せしむるに足る。亦防風林としても沿道の耕地二百余町歩其の恩惠を蒙りつゝあり。

勝連城址

中頭郡勝連村字南風原と字西原の中間なる丘上に位し、海を隔てゝ遙かに中城城と相對峙し中城灣の海望双眸に集り實に勝景の地なり。今を距る五百年前茂知附按司の居城たりしが北谷間切屋良村の微賤より起りし英傑阿麻和利の爲めに城を奪はれたり。尙泰久王ひそかに其の非凡なるに慮を抱き愛姫百十踏揚按司を之に配して懷柔の策を講じたるも遂に、中山に謀叛するに至り、長祿二年(紀元二、一一八)鬼大城をして之を征伐せしめたり。今は敗戰の壘壁僅に存して古の俤を留むるのみなり。

國頭郡

運天港

國頭郡今歸仁村字運天に在り。永萬元年源爲朝の上陸せし所と云ひ傳ふ。港內水深く縣下屈指の良港たり。慶長の役には薩摩の水軍此所に上陸し又近代我が邦の開港前には英佛米等の外國船屢々渡來せり、附近に百按司墓及爲朝の隱れしと云ふ洞窟あり、近年沖繩史蹟保存會が此の形勝の地を卜して故東鄕元帥の手に成る「爲朝上陸之碑」を建立せり。

萬座毛

國頭郡恩納村の西海岸名護灣頭に突出せる原野にして面積約三町歩全面芝生を以て覆はれ、左右に名護及殘波岬を控へ遠く伊江島、瀨底島を望み、風光明媚なり、往昔國主此地に巡幸し（萬人を座せしむべき勝地）と歡賞せられしに依り此の名ありと云ひ傳ふ。近くに歌人恩納ナベの碑あり。

恩納岳

海拔一千三百尺、翠髻滴るが如く悠然として柔和なる女性的の山なり。

恩納村役場に保存せらるゝ淸朝有數の書家王文治の手になる「數峯天遠」の文字は能く之を形容して余りありと云ふ可し。

屋嘉地島ヒルギ林

島の東方小學校のちかくに在り、海中にマングローブ（紅樹）生育し、滿潮の時は樹間小船を遣るべく亦一奇觀たるを失はず。

宮古郡

通池

宮古郡伊良部村字地和田下地に在り、周圍各百三十間の二箇所の池にして往昔富豪の宅址にして口碑の傳ふる所に依れば其の富豪海神の使者（ユナイナマ）と稱する魚を捕へ俎上にて切りしに海神怒りて海嘯を起し其の土地を陷落せしめたる跡なりと云ふ。

比屋地御嶽

伊良部島の東端に在り、往昔「アカラトモガネ」と稱する神「ヤマト」より渡來し島民に儀禮及農耕の方法を授け敎導せる古跡なりと云ひ傳ふ。

漲水神社

漲水皇頭なる漲水御嶽に在り、本島の開祖古意角、姑依玉の三神を祀る。

獨逸皇帝記念碑

漲水皇頭小屋毛に獨逸皇帝ウイルヘルム第一世の建設せる記念碑にして、明治六年七月獨船エルイベルトソン號が下地村宮國沉海にて坐礁破壞せるとき在番役板良敷、頭平良島民を指揮して之を救ひ、慰撫歡待して那覇に送り、歸國せしめたるに依り明治九年三月獨帝軍艦を派遣し、謝

主に恩を謝して金時計一個を贈呈し、更に宮古に至り石碑を建て幅長の許可を得て台石の下に板良敷、平良の姓名を連刻し、銅壺に入れて埋めたりと云ふ、而して在番官へは金時計、望遠鏡、各一個島役人六人には金時計一個と銀時計四個望遠鏡一個を分與したり、碑石の上部には獨文下部及裏面には漢文を刻めり。

宮古神社

宮古郡平良町字西里に在り、町役場より凡一町自動車の便あり、宮古島開基の祖與那覇勇頭豐見親及仲宗根豐見親を祀り、境内に宮古上布の創始者稻石刀自、大野山林の創經者下地親雲上惠根甘諸傳來の祖砂川親雲上旌屋の記念碑あり。

西銘城址

城邊村字長間の西方平良町東仲宗根添の境にあり、平良より約二里半自動車の便あり。西銘城主飛鳥翁を祀る口碑に依れば翁の勇は猛虎を凌ぎ、敏捷なることは恰も飛鳥の樣なりしを以て此の名ありと云ふ。

平地の中央なる丘上雜木深き處に茅葺の小屋あり、昔の城は長さ一町三十間、幅四十六間西南に門あり、附近一帶を眼下に俯瞰す。

八重山郡

桃林寺

八重山郡石垣町石垣に在り、臨濟宗妙心寺派に屬し、觀世音菩薩を本尊とす、今を距る三百二十九年前即ち慶長十六年薩藩の使臣本島に來り島民の神佛を崇信すること無きを見て中山王に稟し同十九年延鑑翁に命じ、本寺を創建せしめたりと云ふ。本郡唯一の古刹たり。

於茂登岳

石垣島の中央北岸に倚り、大濱、宮良の背にありて、本島の分水嶺となる、海拔一千六百八十呎實に縣下第一の高峯なり、其の支脈西走してバンナア岳となり北走して野底岳となる、霧島火山脈最南端の死火山に屬するものにて花崗岩、綠岩等其の主峯をなすものとす。

萬年青は此處の原產なりと云ひ傳ふ。

小濱島

四個の西北十浬、竹富にあり、西表島の東岸と帶水を挾むに過ぎず。マラリヤ地帶と稱せらるるも發病を見ずと云ふ。

小濱附近の島嶼中最も高く北部に偏して大嶽と稱する三百二十九呎の草山ありてその南麓に聚落をなせり、島を謳歌せる小濱節は沖繩本島にても廣く人々に膾炙す。

縣内各市町村ノ町字名

（×印ハ役所役場所在地）

那覇市

西新町　西本町　辻町　通堂町　×上泺町　東町　旭町　上泉町　下泉町　壺屋町　久茂地町　美榮橋町　松下町　久米町　天妃町　若狭町　松山町　前島町　高橋町　儀元寺町　牧志町　住吉町　垣花町　山下町

首里市

眞和志町　×當蔵町　桃原町　山川町　池端町　大中町　儀保町　寒川町　金城町　赤田町　崎山町　鳥堀町　久場川町　平良町　汀良町　赤平町　石嶺町　末吉町　大名町

島尻郡

糸満町（×糸満）

小禄村　小禄　安次嶺　鏡水　×當間　高宮城　具志　宇榮原　大嶺　豐見城村　翁長　座波名　豐見城　志茂田　×喜久嶺　高良　地籠　眞嘉部　保榮茂　良長　高入端　兼城村　座波　波平　武富　照屋　×賀數　阿波根　潮平　兼城　高嶺村　×大里　國吉　與座　眞榮里

眞壁村　宇江城、新垣、×眞壁、小波藏、糸洲、名城、伊敷、眞榮平
喜屋武村　山里、東里、福地、×喜屋武
摩文仁村　小渡、摩文仁、伊原、波平、×米須
具志頭村　波名城、仲座、×具志頭、與座、湊川、新城、安里
東風平村　友寄、世名城、×東風平、富盛、志多伯、宜壽次
玉城村　×富里、志堅原、屋嘉部、仲榮眞、當山、垣花、百名、前川、玉城、奥武、富名腰、糸數、仲村渠
知念村　×久手堅、志喜屋、知念、山里、安座眞、久高、知名
佐敷村　新里、屋比久、小谷、手登根、仲伊保、富祖崎、津波古、×佐敷
大里村　古堅、稲嶺、仲間、嶺井、高平、上與那原、板良敷、×大里、大城、與那原
南風原村　新川、宮城、與那覇、兼城、神里、喜屋武、本部、照屋、山川、×宮平、津嘉山
眞和志村　安謝、眞嘉比、謝名、×與儀、古波藏、國場、仲井間、上間、天之、安里、松川
渡嘉敷村　前、阿波連、×渡嘉敷
座間味村　×座間味、阿佐、阿嘉、阿眞、慶留間
仲里村　山城、×比嘉、島尻、眞謝、儀間、宇江城、比屋定、阿嘉、宇根、謝名堂
具志川村　兼城、仲村渠、具志川、嘉手苅、×大田、西銘、仲地、上江洲、山里、鳥島
粟國村　×粟國

渡名喜村　×渡名喜
伊平屋村　島尻、×諸見、仲田、勢理客、野甫、田名、伊是名、我喜屋

中頭郡

浦添村　小灣、勢理客、仲西、牧港、宮城、安波茶、澤岻、屋富祖、伊祖、西原、內間、×仲間
宜野灣村　前田、城間
伊佐、大山、宇地泊、眞志喜、野嵩、大謝名、神山、普天間、新城、安仁屋、我如古、嘉數、×宜野灣、喜友名
北谷村　屋良、野里、玉代勢、砂邊、平安山、×濱川、伊禮、嘉手納、野國、北谷、桑江、傳道
讀谷山村　大灣、儀間、比謝、上地、古堅、渡具知、伊良皆、波平、宇座、渡慶次、高志保、瀨名波、×喜名、長濱、楚邊、座喜味
越來村　×胡屋、照屋、仲宗根、安慶田、上地、宇久田、大工廻、山內、諸見里、越來
美里村　山城、楚南、×西原、泡瀨、與儀、大里、松本、登川、宮里、池原、桃原、古謝、知花高原、嘉手苅、伊波、東恩納、石川、比屋根
具志川村　喜屋武、大田、榮野比、江洲、田場、具志川、字堅、宮里、川崎、仲嶺、×安慶名、上江洲、高江洲、兼ヶ段、天願
與那城村　饒邊、×屋慶名、伊計、與那城、西原、安勢理、宮城、平安座、上原
勝連村　內間、×平安名、比嘉、南風原、津堅、平敷屋、濱

中城村　奧間、當間、津覇、仲順、安谷屋、伊舍堂、島袋、大城、久場、瑞慶覽、安里、×泊、新垣、伊集、比嘉、萩道、和仁屋、熟田、屋宜、添石、喜舍場、渡口、和宇慶
西原村　吳屋、與那城、我謝、×翁長、嘉手苅、安室、內間、小橋川、津花波、桃原、小那覇、幸地、小波津、棚原、桝保久

國頭郡

名護町　山入端、安和、數久田、喜瀨、許田、宮里、宇茂佐、幸喜、世富慶、屋部、×名護
恩納村　山田、仲泊、眞榮田、前兼久、谷茶、瀨良垣、名嘉眞、富着、安富祖、×恩納
金武村　屋嘉、漢那、伊藝、古知屋、宜野座、物慶、×金武
久志村　×瀨嵩、邊野古、久志、汀間、安部、嘉陽、大浦、天仁屋
東村　×川田、有銘、慶佐次、宮城、嵩江、平良
國頭村　邊野喜、佐手、宇嘉、伊地、宇良、濱、謝敷、奧間、比地、×邊土名、安波
安田、與那、奧、邊戸、楚州
大宜味村　津波、謝名城、田港、渡野喜屋、喜如嘉、根路銘、×大宜味、田嘉里、塩屋、饒波
羽地村　川上、振慶名、奧我、我部祖河、稻嶺、仲尾、屋我、濟井出、我部、親川、古我地、眞喜屋、饒平名、×仲尾次、伊差川、田井等、源河
今歸仁村　×仲宗根、勢理客、玉城、今泊、謝名、湧川、與那嶺、諸志、上運天、下運天、仲尾次、古宇利、崎山、平敷、兼次、天底
本部村　謝花、具志堅、×渡久地、濱元、健堅、浦崎、備瀨、並里、伊豆味、瀨底、崎本部、伊野波

邊名地

伊江村　東江上、×東江前、西江前、西江上、川平

宮古郡

平良町　松原、下里、×西里、久貝、大神、東仲宗根、東仲宗根添、西仲宗根、西原、島尻、前里
荷川取、池間、狩俣、大浦

下地村　宮國、野原、新里、×上地、嘉手苅、來間、川滿、與那覇、洲鎌

城邊村　下里添、×福里、砂川、友利、保良、新城、長間、西里添、比嘉

伊良部村　伊良部、長濱、佐和田、×國仲、仲地、前里添、池間添

多良間村　×塩川、仲筋、水納

八重山郡

石垣町　×登野城、大川、石垣、新川、名蔵、川平、浮海、崎枝

大濱村　×大濱、眞栄里、平得、宮良、白保、盛山、桃里、伊野田、伊原間、平久保

竹富村　×竹富、黒島、新城、古見、南風見、小濱、鳩間、上原、西表、崎山、波照間、高那、
與那國村　仲間、×與那國

歴代長官

任命年月日			在職年數
明治 三、三、二七	縣令心得	木梨精一郎	〇、一
三、四、四	縣令	鍋島直彬	二、二
一四、五、一八	同	上杉茂憲	二、〇
一六、四、三	同	岩村通俊	〇、八
一六、一二、二	同	西村捨三	二、五
一九、四、二七	知事	大迫貞清	一、一
二〇、四、一四	同	福原實	一、六
二二、九、一八	同	丸岡莞爾	三、二
二五、七、二〇	同	奈良原繁	二五、一〇
四一、四、六	同	日比重明	五、三
大正 二、六、一	同	高橋琢也	一、一
三、六、九	同	大味久五郎	一、二
五、四、二八	同	小田切磐太郎	〇、一
五、五、四	同	鈴木邦義	三、〇

八、四、一八	同	川越壯介	二、二	
一〇、五、二七	同	和田潤	二、六	
一三、一〇、二五	同	岩元禧	〇、八	
一三、六、二四	同	亀井光政	二、四	
一五、九、二八	同	今宿次雄	〇、八	
昭和二、五、七	同	飯尾藤次郎	一、八	
三、三、二六	同	細川長平	〇、七	
四、七、五	同	守屋磨瑳夫	一、二	
五、八、二六	同	井野次郎	四、二	
一〇、六、二八	同	藏重久	現在	

諸官衙學校其他

名稱	所在地	電話番號
沖繩縣廳	那覇市美榮橋町	六五〇 六五一 六五二 六五三
那覇警察署	同	一五四
首里警察署	首里市大中町	一二

嘉手納警察署	中頭郡北谷村	九
名護警察署	國頭郡名護町	一四
渡久地警察署	國頭郡本部村	
糸滿警察署	島尻郡糸滿町	
與那原警察署	島尻郡大里村	
宮古島警察署	宮古郡平良町	
八重山島警察署	八重山郡石垣町	
縣立沖繩病院	那覇市松下町	三三
縣立若狹病院	那覇市若狹町	四〇
師範學校	首里市當蔵町	九三 一四六
縣立第一中學校	首里市眞和志町	五〇九
同 第二中學校	島尻郡眞和志村	一四
同 第三中學校	國頭郡名護町	一五
同 宮古中學校	宮古郡平良町	四二六
同 農林學校	中頭郡北谷村	三
女子師範學校		五
縣立第一高等女學校	島尻郡眞和志村	一 三〇二

縣立第二高等女學校	那覇市久米町	五三三	
同 第三高等女學校	國頭郡名護町	一三	
同 水産學校	那覇市住吉町	三二九	甲
同 工業學校	首里市當藏町	一七	
沖繩縣學校衞生婦養成所	島尻郡眞和志村	三〇三	
縣立女子工藝學校	首里市桃原町		
那覇市立商業學校	那覇市若狹町	三二七	
私立開南中學校	島尻郡眞和志村		
私立家政高等女學校	那覇市美榮橋町		
私立昭和女學校	那覇市崇元寺町		
縣立圖書館	那覇市美榮橋町		
縣農會	那覇市旭町	五一二	
首里市農會	首里市當藏町	四三九	
島尻郡農會	那覇市旭町	一一	
中頭郡農會	中頭郡宜野灣村	一二二	
國頭郡農會	國頭郡名護町		
宮古郡農會	宮古郡平良町	一	

八重山郡農會	八重山郡石垣町	一九	
縣水産會	那覇市東町	二六六	
宮古支廳	宮古郡平良町	一	
八重山支廳	八重山郡石垣町	一九	
那覇市役所	那覇市上之藏町	一、三二六、八〇	
首里市役所	首里市當藏町	一一	
國立糧業試驗場沖繩試育所	島尻郡眞和志村	四八二	
縣農事試驗場	同	五二六	
同 園藝部	島尻郡小祿村	二六七	
縣農事試驗場普天間試驗地	中頭郡宜野灣村		
縣農事試驗場西原試驗地	中頭郡西原村		
同 宮古苗圃	宮古郡平良町	二七	
同 國頭支場	國頭郡名護町	五四八	
縣工業指導所	島尻郡眞和志村		
縣移出織物檢査所	那覇市住吉町	五四三	
縣水産試驗場			

縣畜業試驗場	島尻郡小祿村	二四〇
縣畜業取締所	那覇市美榮橋町	
縣獸疫血清製造所	島尻郡眞和志村	五四一
縣種畜場	中頭郡宜野灣村	
縣種畜場・宮古分場	宮古郡平良町	
縣物產檢査所	那覇市西本町	三三〇
縣度量衡檢査所	那覇市美榮橋町	
中央氣象臺沖繩支臺	島尻郡小祿村	五〇四　五四六
鐵道管理所	那覇市下泉町	四一一
那覇港務所	那覇市西新町	三四四
臨時築港事務所	那覇市通堂町	五一七
那覇地方裁判所	那覇市松山町	二三九
那覇區裁判所	宮古郡平良町	六一
平良區裁判所	那覇市松下町	一五二
沖繩聯隊區司令部	那覇市松山町	九〇
那覇憲兵分隊		

沖繩刑務所	島尻郡眞和志村	一四九
那覇稅務署	那覇市通堂町	一四一
國頭稅務署	國頭郡名護町	七
宮古稅務署	宮古郡平良町	五九
八重山稅務署	八重山郡石垣町	一五
那覇稅關支署	那覇市西新町	三七四
鹿兒島地方專賣局那覇出張所	那覇市美榮橋町	一六四
熊本營林局沖繩營林署	那覇市美榮橋町	四二三
那覇郵便局	那覇市天妃町	三七五
那覇無線電信局	島尻郡眞和志村	二八〇
代用感化院球陽學園	那覇市松下町	三二四
免囚保護沖繩自營會	那覇市西新町	七〇
遞信省經理局那覇飛行場	島尻郡小祿村	六五四
商工會議所	那覇市通堂町	六九三

職業紹介所		六五七
波之上宮	那覇市上蔵町	一三五
沖縄縣海外協會	那覇市若狭町	四〇三
マラリヤ防遏所	同	一九
宮古郡マラリヤ防遏所	八重山郡石垣町	一
國立宮古療養所	宮古郡平良町	一一二
	宮古郡平良町	

○メートル法と尺貫法の換算表

度				量			
ミリメートル	千分ノ一メートル	三、三厘	〇、二七毛	ミリリットル	千分ノ一リットル	〇、〇五四勺	
センチメートル	百分ノ一メートル	三、三分	二、六六七分	デシリットル	十分ノ一リットル	五、四三五勺	
デシメートル	十分ノ一メートル	三、三〇〇〇寸	二六六、六六七匁	リットル	容サノ基本單位	五、四三五合	
メートル	長サノ基本單位	三、三〇〇〇尺	二六六、六六七貫	ヘクトリットル	百リットル	五、四三五斗	
キロメートル	千メートル	九、一〇町	五、三三三里	キロリットル	千リットル	五、四三五石	

衡				面積			
ミリグラム	千分ノ一グラム	〇、二七毛		平方デシメートル	百分ノ一平方メートル	〇、三〇三五勺	
グラム	千分ノ一キログラム	二、六六七分		平方メートル	百分ノ一アール	三、〇三五舞	
キログラム	重サノ基本單位	二六六、六六七匁		アール	百平方メートル	一、〇三五歩	
トン	千キログラム	二六六、六六七貫		ヘクタール	百アール	一、三五町歩	
カラット	二百ミリグラム	五、三三三毫		平方キロメートル	萬アール	一〇〇町八反三畝一〇歩	

度						量					
尺	間	町	里	鯨尺		勺	合	升	斗	石	
寸ノ十倍	丈ノ十分ノ一	尺	間	町	尺	百分ノ一	十分ノ一	六四八二立方分七	十	百	升
一デシメートル 三、〇三〇三	一、八一八メートル	六	十	六	一尺二寸五分	一ミリリットル 一八、〇三	一デシリットル 一八、〇三九	一、八〇三九一リットル	一八、〇三九一リットル	一八〇、三九一リットル	升
衡						面積					
匁	分	匁	貫	斤		合	歩（坪）	畝	段	町	
百分ノ一匁	十分ノ一匁	千分ノ一貫	千匁	百六十匁		十分ノ一歩	三六平方尺	三十歩	十畝	十段	
三七、五ミリグラム	三七五、〇ミリグラム	三、七五〇グラム	三、七五〇キログラム	六〇〇グラム		〇、三三〇五八平方米	三、三〇五八平方米	九九、一七四平方米	九、九一七三六アール	九九、一七三六アール	

◎電報及郵便料金摘要

和文

通常電報料

同一内市區町村内	十五字以内	三〇錢
地相互間	五字以内を増す毎に	五錢

歐文

同一内市區町村内	五語以内	三〇錢
地相互間	一語を増す毎に	三錢

特別電報料

- 至急電報料　官報は普通料金の二倍、私報同三倍
- 返信料前納電報料　返信を受けんとする者は其に要する返信の電報料を前納することを得
- 照校電報料　通常料金の四分の一を増す
- 受信報知料　電報に付金三錢に依るものは原信の種別に依る最低普通料金、郵便に依るものは一通
- 自尾再送電報料　迫尾再送共一回毎に新に差出したるものとして料金を計算す
- 同文電報料　原信を除き一通毎に和文、歐文共金五錢、同文電報は十通を超ゆるを得ず

指定略符號

- 至親返信料前納　親展　ウナ　ニカ　ナツ
- 急電返信照校　ナウ　ムナ　ムニ
- 電報受信報知　ツニ　ツツ　チラ
- 郵便受信報知　追尾　再送　同文　同文連名　ナチ　ムヨ　ヨイ

電信取扱時間

- 自三月一日至十月末日　自午前六時至午後八時
- 自十一月一日至二月末日　自午前七時至午後八時
- 〇〇無集配三等局は時間常に一時間宛遅し
- 電報配達事務を取扱はざる三等局に有りては休日及休暇日は正午迄（但十二月廿九、卅、卅一日除）

小包郵便料金

	五百瓦迄	一瓩迄	二瓩迄	三瓩迄	四瓩迄	五瓩迄	六瓩迄	同一市内六瓩迄
普通書留	五〇錢	三四錢	三三錢	四五錢	五六錢	六八錢	八二錢	三六錢

振替貯金拂込料金

	一圓迄	五圓迄	十圓迄	五拾圓迄	百圓迄	五百圓迄	千圓迄	千圓以上超過千圓毎ニ
	二錢	四錢	六錢	八錢	一〇錢	一五錢	二〇錢	五錢

郵便爲替料金

		マデ一円	マデ五円	マデ十円	マデ十五円	マデ二十円	マデ五十円	マデ百円	マデ百五〇円	マデ二百円	マデ二百五〇円	マデ三百円	マデ三百五〇円	マデ四百円	マデ四百五〇円	マデ五百円
通常爲替	錢	三	五	七	一〇	一三	一六	二〇	二三	二六	二九	三二	三五	三八	四一	四五
電信爲替	錢	—	—	—	—	二五	三五	四五	五五	六五	七五	八五	九五	一〇五	一一五	一二五
小爲替	錢	—	—	—	—	—	—	—	一〇	一五	二〇	二五	三〇	三五	四〇	四五

爲替貯金取扱時間

自四月一日至七月二十日	自七月廿一日至八月末日	自九月一日至十月末日
至自午前八時午後四時	至自午前八時正午	自午前八時至午後四時

自十一月一日至三月末日 自午前九時至午後四時

○但七月廿一日より八月末日迄は正午限、十二月廿九、卅、卅一日は土曜、日曜共平日通り日曜、祭日は休み土曜は三時まで

内國電報料金早見表

字數	普通料金	照校（ムニ）	至急（ウナ）	至急照校（ウナムニ）
	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢
15	0.30	0.37	0.90	0.97
20	0.35	0.43	1.05	1.13
25	0.40	0.50	1.20	1.30
30	0.45	0.56	1.35	1.46
35	0.50	0.62	1.50	1.62
40	0.55	0.63	1.65	1.78
45	0.60	0.75	1.80	1.95
50	0.65	0.81	1.95	2.11
55	0.70	0.87	2.10	2.27
60	0.75	0.93	2.25	2.43
65	0.80	1.00	2.40	2.60
70	0.85	1.06	2.55	2.76
75	0.90	1.12	2.70	2.92
80	0.95	1.18	2.85	3.08
85	1.00	1.25	3.00	3.25
90	1.05	1.31	3.15	3.41
95	1.10	1.37	3.30	3.57
100	1.15	1.43	3.45	3.73
105	1.20	1.50	3.60	3.90
110	1.25	1.56	3.75	4.06
115	1.30	1.62	3.90	4.22
120	1.35	1.63	4.05	4.38
125	1.40	1.75	4.20	4.55
130	1.45	1.81	4.35	4.71
135	1.50	1.87	4.50	4.87
140	1.55	1.93	4.65	5.03
145	1.60	2.00	4.80	5.20
150	1.65	2.06	4.95	5.36
155	1.70	2.12	5.51	5.52
160	1.75	2.18	5.25	5.98
165	1.80	2.25	5.40	5.85
170	1.85	2.31	5.55	6.01
175	1.90	2.37	5.70	6.17
180	1.95	2.43	5.85	6.33
185	2.00	2.50	6.00	6.50
190	2.05	2.56	6.15	6.66
195	2.10	2.62	6.30	6.82
200	2.15	2.68	6.45	6.98

縣廳ノ組織一覽

沖繩縣廳
知事 久慶 重藏
職員 五六七人

- 知事官房
  - 主事（兼）事務官 鈴木雄市
  - 職員 一七人
  - 秘書課
    - 職員 課長（兼）屬 神谷乘仁
    - 職員 課長 屬 仲宗根秀俊 四人
  - 文書課
    - 職員 課長 屬 仲宗根秀俊 二人
- 總務部
  - 部長 書記官 清水谷徹
  - 職員 七八人
  - 人事課
    - 職員 課長（兼）書記官 清水谷徹 四人
  - 庶務課
    - 職員 課長 事務官 三谷重忠 三〇人
  - 地方課
    - 職員 課長 事務官 鈴木雄市 八人
  - 統計課
    - 職員 課長 屬 大宜見達 一人
  - 會計課
    - 職員 課長（兼）屬 神谷乘仁 一〇人
  - 振興計畫課
    - 職員 課長（兼）事務官 三谷重忠 四人
- 學務部
  - 部長 書記官 佐藤幸一
  - 職員 三二人
  - 學務課
    - 職員 課長 視學官 平野薫 一三人
  - 社寺兵事課
    - 職員 課長（兼）事務官 鈴木雄市 四人
  - 社會課
    - 職員 課長 事務取扱 社會教育主事 諸見里朝清 一三人
- 經濟部
  - 部長 書記官 森下重格
  - 職員 三四六人
  - 經濟課
    - 職員 課長（兼）事務取扱 書記官 森下重格 一九人
  - 更生課
    - 職員 課長 事務官 四十萬頃太郎 一二三人
  - 農務課
    - 職員 課長 屬 糸數昌保 一七人
  - 商工課
    - 職員 課長 地方技師 佐藤律五郎 三九人
  - 水產課
    - 職員 課長 地方技師 中忠義 七九人
  - 林務課
    - 職員 課長 地方技師 上條林郎 三二六四人
  - 土木課
    - 職員 課長
  - 耕地課
    - 職員 課長
- 警察部
  - 部長 書記官 西井一孝
  - 職員 九八人
  - 書記室
    - 職員 主任 警部補 喜久里數文
  - 特別高等課
    - 職員 課長 警視 平城國義 一人
  - 警務課
    - 職員 課長 警視 北栗造 一〇人
  - 保安課
    - 職員 課長 警部 護得久朝昌 四人
  - 刑事課
    - 職員 課長 警部 仲村榮信 一六人
  - 衛生課
    - 職員 課長 衛生技師 佐藤金重 七人
  - 健康保險課
    - 職員 課長 屬 有持良雄 二九人
  - 警察練習所
    - 職員 所長（兼）警視 北栗造 一三人

附記

一、職員ノ數ヘ方ハ總テ實際ニ勤務スル方ヲ掲ゲテ居ル隨ッテ一人デ二以上ノ職名ヲ有シ又ハ二以上ノ課ニ勤務スル者ノ如キハ悉ク主トシテ勤務スル方ニノミ記載セリ。

二、職員ハ三月末日現在ナリ。

縣議員選舉人名簿

選舉區 議員定數 馬場官 高水谷 上大人 麻谷

選舉區	議員定數	議員	議員定數	議員
選挙区	議員定数	議員	議員定数	議員

發車時刻表

嘉手納線

〔リ上〕 行納手嘉リヨ覇那

嘉手納	野嘉	平野	桑平	北桑	大北	牧大	城牧	内城	安内	與安	古與	那古
納	國	山	江	谷	山	喜	名	港	間	間	儀	覇

駅名	前後	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午
嘉手納	前	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
野國		七	八	九	九	八	七	七	八	九	九	八	七	七	八	九	九	八	七	七	八	九	九	八	七
平山		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
桑江		五	五	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二
平谷		四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
北山		三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
大喜		二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
牧名		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
城港	後	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
内間		七	八	九	九	八	七	七	八	九	九	八	七	七	八	九	九	八	七	七	八	九	九	八	七
安間		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
與儀		五	五	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二
那覇		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
那覇ヨリ運賃																									

〔リ下〕 行覇那リヨ納手嘉

那覇	與儀	間間	港間	名港	喜名	山喜	谷山	江谷	山國	野山	桑野	平桑	嘉手

駅名	前後	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午
那覇	前	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
覇儀		六	七	七	八	九	九	八	七	七	八	九	九	八	七	七	八	九	九	八	七	七	八	九	九
儀里		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
里間		七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六
間港		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
港名		二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三
名喜		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
喜山	後	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
山谷		七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六
谷江		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
江山		二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三
山國		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
國納		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
納手		七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六
手安		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
安志		二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三
志謝		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
謝波	後	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
波覇		七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六
覇儀		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
儀里		二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三
里間		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
間港		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
港名		七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六
名喜		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
喜山		二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三
山谷		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
谷江	後	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
江山		七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六
山國		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
國納		二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三
納手		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
手安		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
安志		七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六
志謝		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
謝波		二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三
波覇		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
那覇ヨリ運賃																									

與那原線

〔リ上〕 行覇那リヨ原那與

與那原	大原	宮里	南風	一日	國玉	價波	古覇	那覇

駅名	前後	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午
那覇	前	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
覇古		七	七	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
價玉		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
波日		五	五	五	五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
覇風		三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
藏宮		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
橋南	後	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
場一		七	七	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
橋國		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
藏價		五	五	五	五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
覇古		三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
那覇ヨリ運賃																									

〔リ下〕 行原那與リヨ覇那

原那與	原里	里間	間港	港名	名喜	喜山	山谷	谷江	江山	山國	國納	納手	手嘉

駅名	前後	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午
原那	前	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
與覇		六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
大古		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
宮價		五	五	五	五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
南波		三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一覇		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
國那	後	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
價覇		七	七	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
玉古		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
波價		五	五	五	五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
日玉		三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
風日		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
南風	後	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
宮那		七	七	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
大與		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
原那		五	五	五	五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
里原		三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
間里		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
港間	後	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
名港		七	七	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
喜名		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
山喜		四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
谷山		二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
江谷		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
山江	後	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
國山		七	七	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
納國		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
手納		二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三
嘉手		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
那覇ヨリ運賃																									

嘉手納線

〔リ下〕 行覇那リヨ納手嘉

那覇	與儀	間間	港間	名港	喜名	山喜	谷山	江谷	山國	野山	桑野	平桑	嘉手

駅名	前後	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午
那覇	前	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
覇儀		七	七	七	七	七	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
儀里		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
里間		七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六
間港		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
港名		二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三
名喜		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
喜山	後	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
山谷		七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六
谷江		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
江山		二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三
山國		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
國納	後	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
納手		七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六
手安		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
安志		二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三
志謝		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
謝波	後	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
波覇		七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六
覇儀		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
儀里		二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三
里間		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
間港		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
港名		七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六
名喜		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
喜山		二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三
山谷		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
谷江	後	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
江山		七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六
山國		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
國納		二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三	二	二	三	四	四	三
納手		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
手安		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
安志		七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六	七	七	六	五	五	六
志謝		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
謝波		二	二	三	四	四	三	二

滿線

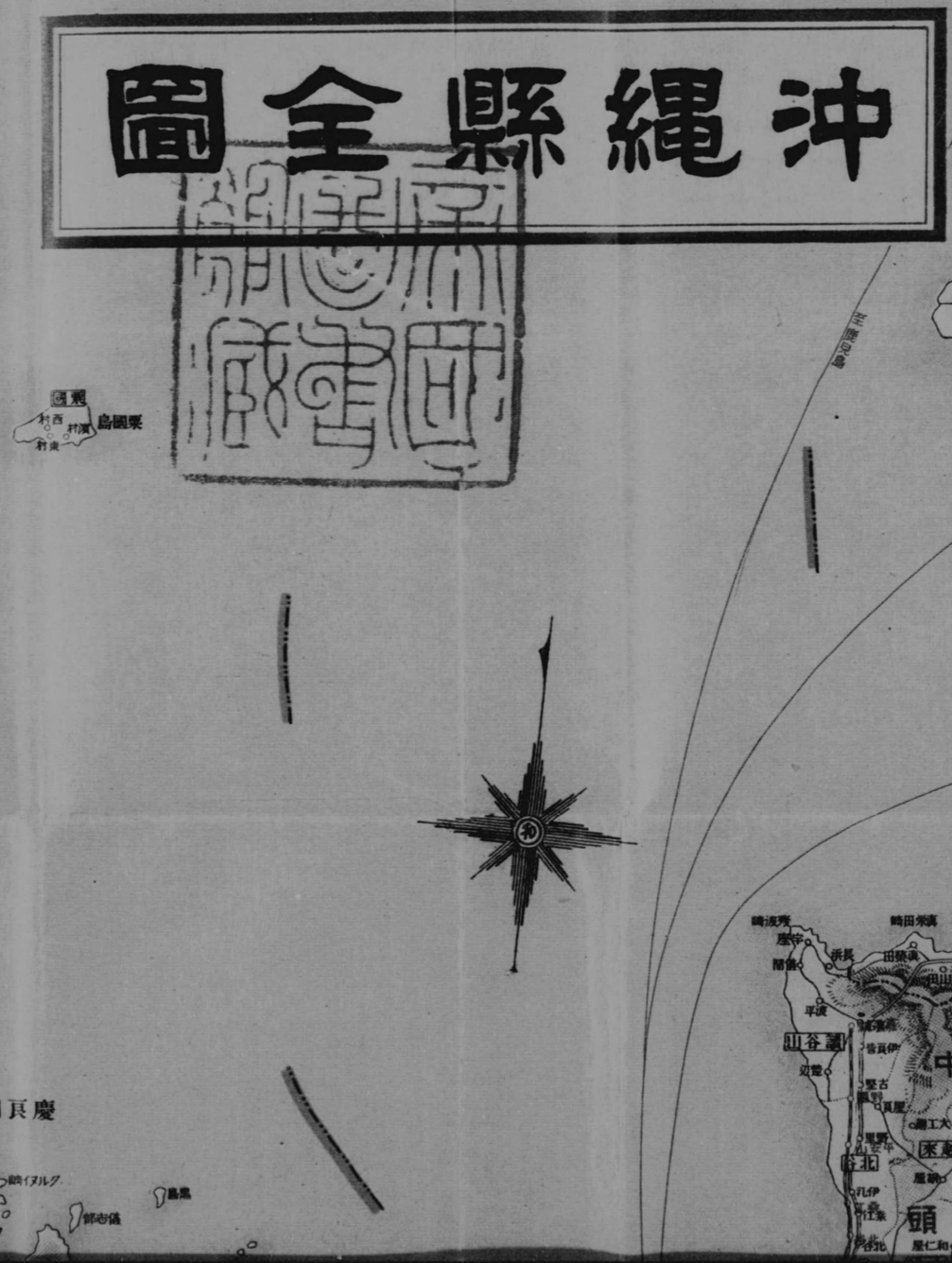
〔上り〕

糸滿ヨリ那覇行

糸滿	那覇	波之嘉	古波蔵	眞壁	國場	津嘉山	山川	喜屋武	稲嶺	屋嘉原	東風平	世名嶺	高嶺城	兼城	糸滿	駅名	
七、三四	七、三〇	七、二五	七、二一	七、一六	七、一二	七、〇七	六、〇二	六、五五	六、五一	六、四四	六、三八	六、三三	六、二九			午前	一〇
八、二五	八、二三	八、一八	八、一一	八、〇五	八、〇〇	八、〇六	七、一七	七、五三	七、五〇	七、四五	七、四〇	七、三六	七、三三				
九、四九	九、四五	九、三九	九、三六	九、三一	九、二七	九、二三	九、一六	九、一〇	九、〇六	八、五九	八、五三	八、四八	八、四四				
一〇、三七	一〇、三三	一〇、三〇	一〇、二七	一〇、二四	一〇、二一	一〇、一六	一〇、一三	一〇、〇八	一〇、〇五	一〇、〇〇	九、五五	九、五一	九、四八				
一一、五二	一一、四八	一一、四四	一一、四一	一一、三八	一一、三三	一一、二七	一一、二二	一一、一六	一一、一一	一一、〇六	一〇、〇〇	一〇、五五	一〇、五一				
一二、九	一二、五	一二、〇	一一、五六	一一、五二	一一、四七	一一、四二	一一、三六	一一、三一	一一、二六	一一、二一	一一、一六	一一、一一	一一、〇七			午後	一〇
一、三七	一、三三	一、二八	一、二四	一、二〇	一、一五	一、一〇	一、〇五	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇				
一、五四	一、五〇	一、四五	一、四一	一、三六	一、三二	一、二七	一、二二	一、一七	一、一二	一、〇七	一、〇二	一、〇〇	一、〇〇				
二、一九	二、一五	二、一〇	二、〇五	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇				
二、四四	二、四〇	二、三五	二、三一	二、二六	二、二二	二、一七	二、一二	二、〇七	二、〇二	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇				

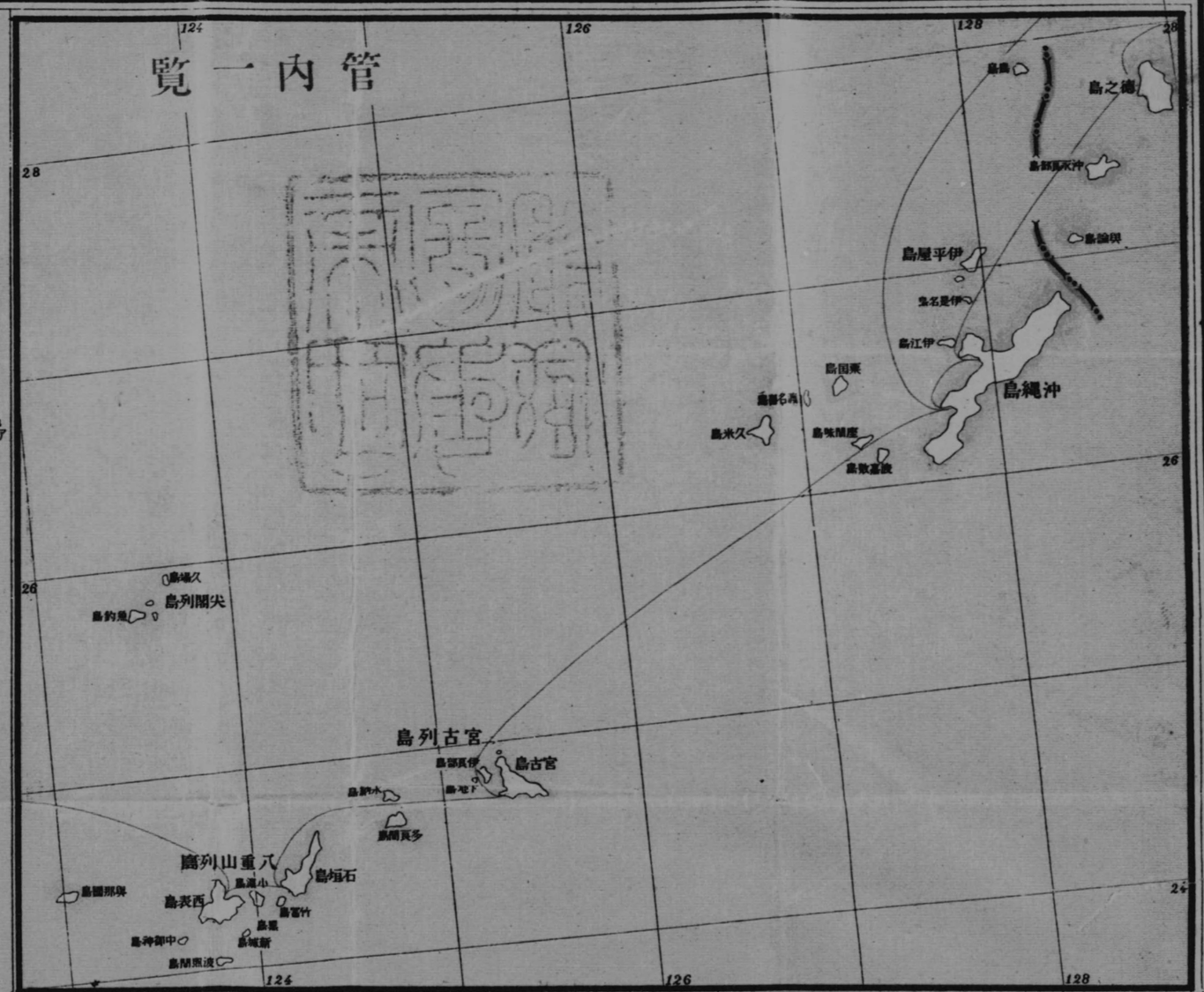
沖縄縣全圖

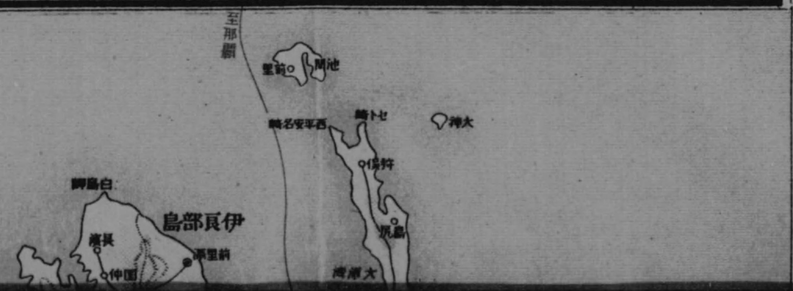
島久米
川志具
仲里
島武具
島喜名渡
喜名渡

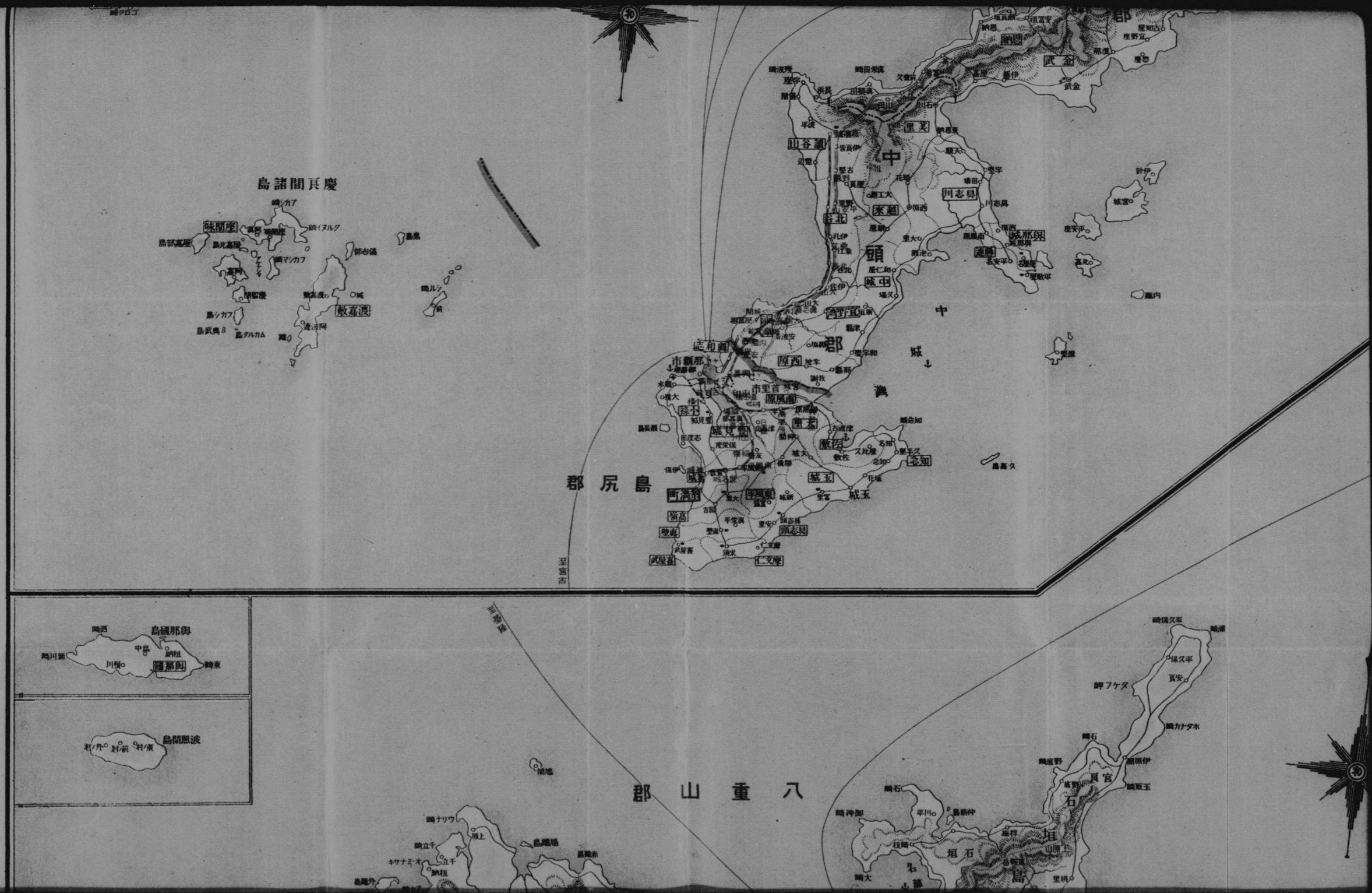

島國栗
伊江島
伊江
伊平屋列島
伊平屋
島尾平伊
名護
名護灣
頭地
久志
頭
郡
武金
中
頭
川志具
慶良間諸島
座間味
島黒

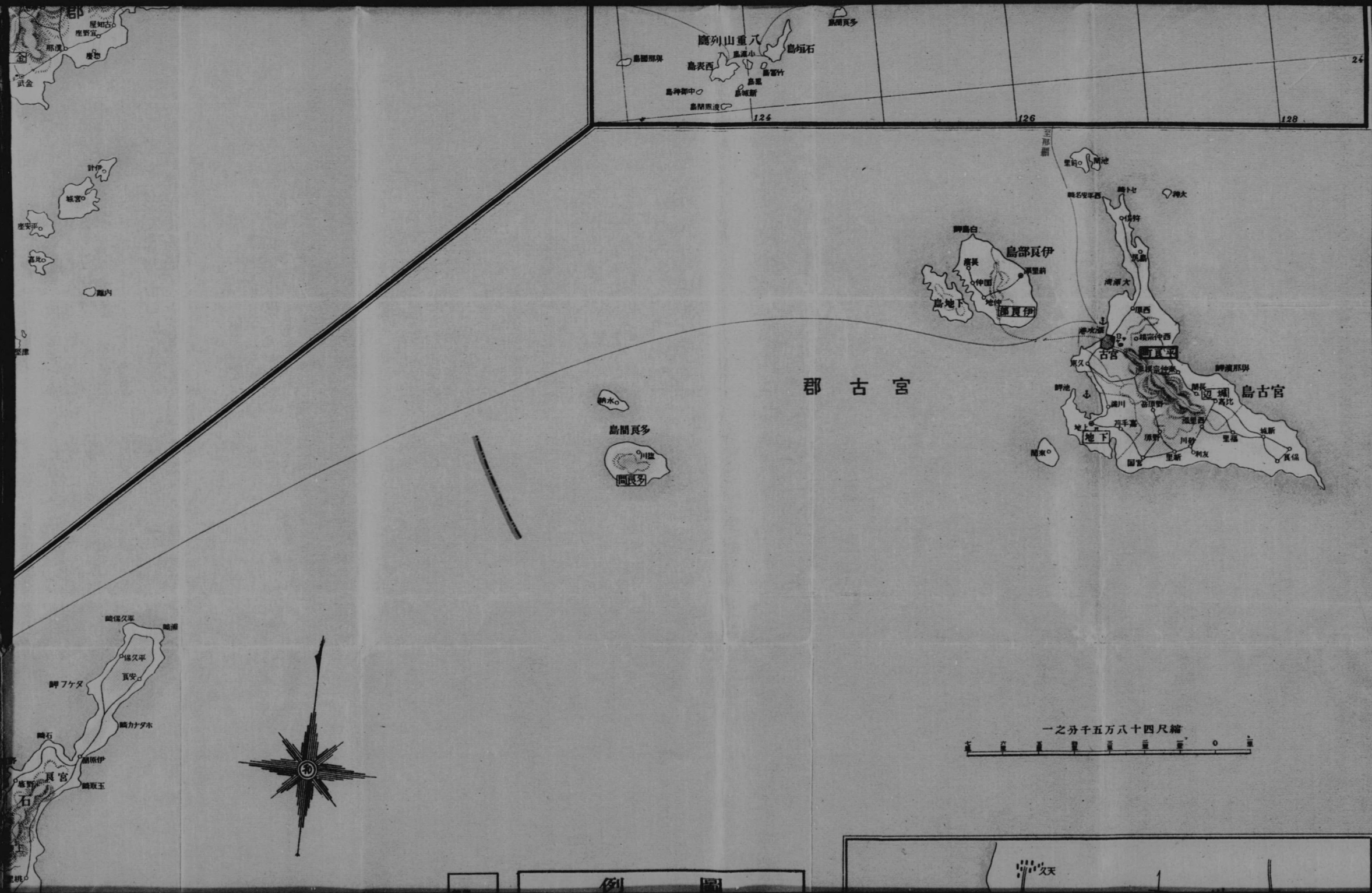
管内一覽

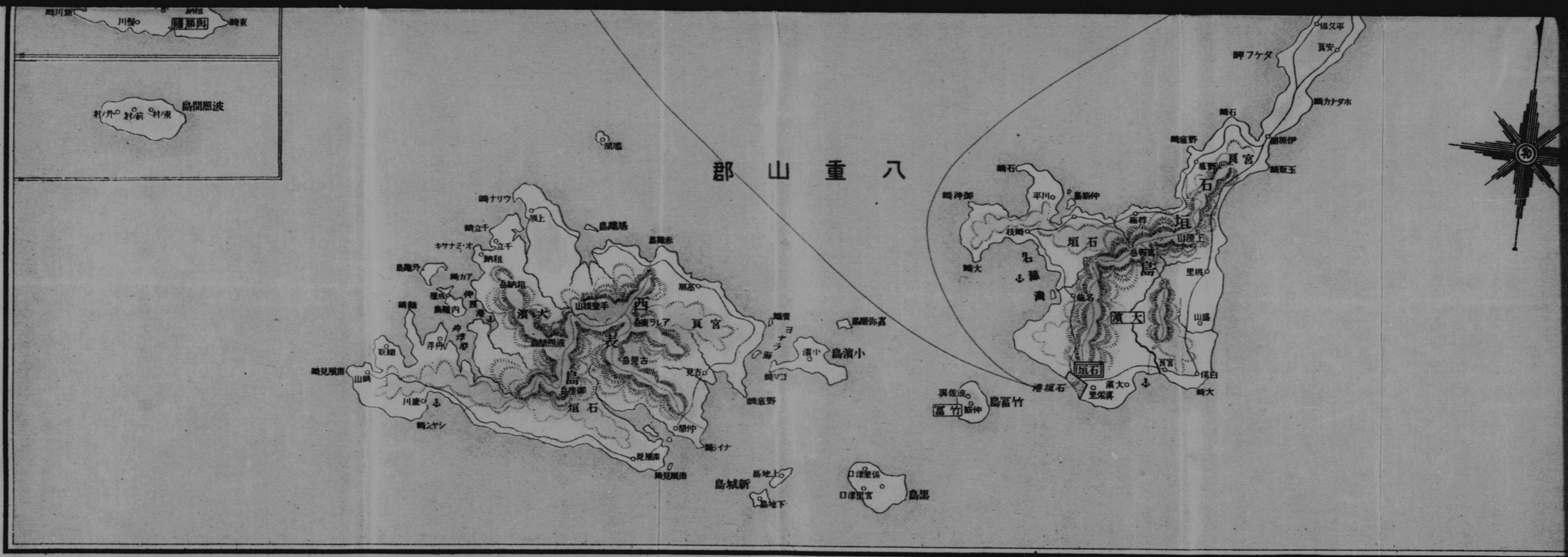
島列屋平伊
屋平伊
島尾平伊
島名是伊
島ハナヤ
名是伊
田仲
見舘
多理勢
島川志具
串野
油縞
屋喜我
名田
崎名田
崎砂
崎戸辺
崎ザウ
戸辺
臺
客野辺
牛佐
敷謝
洲楚
頭國
地伊
名土辺
部與
崎帆
地比
城名謝
岳鹿那與
岳イカダ
岳イ
田宇
カダア
波安
次尾仲
名謝
客理勢
天運
港天運
出井濱
部我
屋
島武與
複稲
河瀬
屋喜真
次尾仲
川湊伊
佐茂宇
里宮
名護
護名
部屋
味宜伊
味宜大
或
東
島城宮
屋喜野濱
渡津
港田
眞平
田川
城宮
港眞平
次佐度
崎ンナキ
崎フシント
崎古辺
地羽
山ハウ
結有
頭
志久
屋仁天
崎屋仁天
崎ンバ
部安
崎ブア
港浦大
崎古野辺
名護町
田久敷
岳石
田許
岳久
古野辺
岳久
郡
屋知古
座野宜
那覆
慶地
計伊
城宮

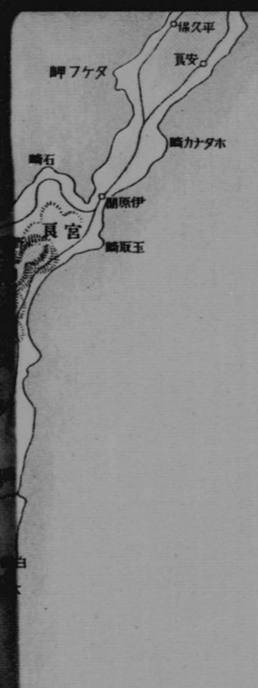

124
126
128
28
26
24
島之德
島屋平伊
島名是伊
島江伊
島沖縄
島田乘
島米久
島久米
島敷富
島久場
島釣魚
島列閑尖
島列古宮
島古宮
島部眞伊
島列山重八
島垣石
島表西
島那與
島神御中
島閑黑淡
島城新
島富竹
島眞多

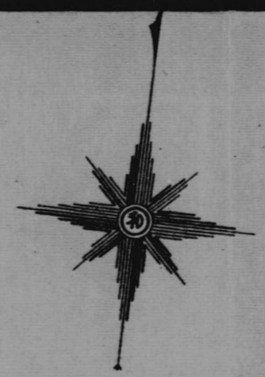

至那覇
聖納
閑地
名安平西
トセ
火神
幹
島部眞伊
白島
落眞
仲間
聖納
島
大瀬湾


慶良間諸島
渡嘉敷
中頭郡
中城湾
島尻郡
八重山郡
與那國島
波照間島
石垣島
至宮古

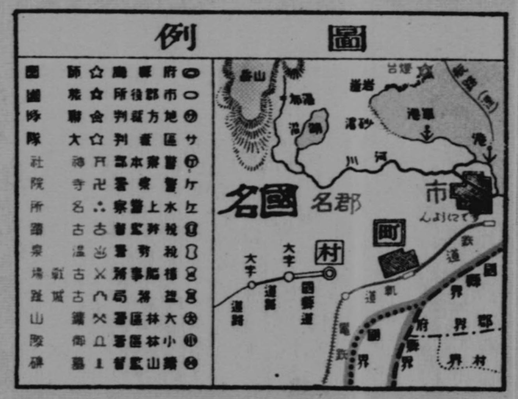

八重山列島
石垣島
島表西
島竹富
島黒
島小浜
島新城
島中御神
島鳩間
島波照間
島鳩間多
島那覇與
124
126
128
24
郡古宮
伊良部島
島地下
伊良部
平良
古宮
島古宮
辺城
地下
島鳩間多
川満
鳩間
納水
武金
那覇
屋知古
座野宜
慶
計伊
城宮
座安平
嘉光
離内
至那覇
皇嶽
閘池
鶴名安平西
大神
信狩
沖島
湾瀬大
港水瀬
横宗仲西
横宗仲東
與那覇
長福
高比
城新
長福
長保
利友
里新
国富
川満
宮原野
瀬里西
万千嘉
原野
川満
地上
閘東
閘池
白島御
嘉長
仲国
地仲
平良
宮古
島宮古
巫久保崎
崎浦
平久保
真安
ケタフ崎
崎カナダホ
崎石
崎原伊
崎取玉
宮良
基野
石
上
桃
縮尺四十八万五千分之一
天久

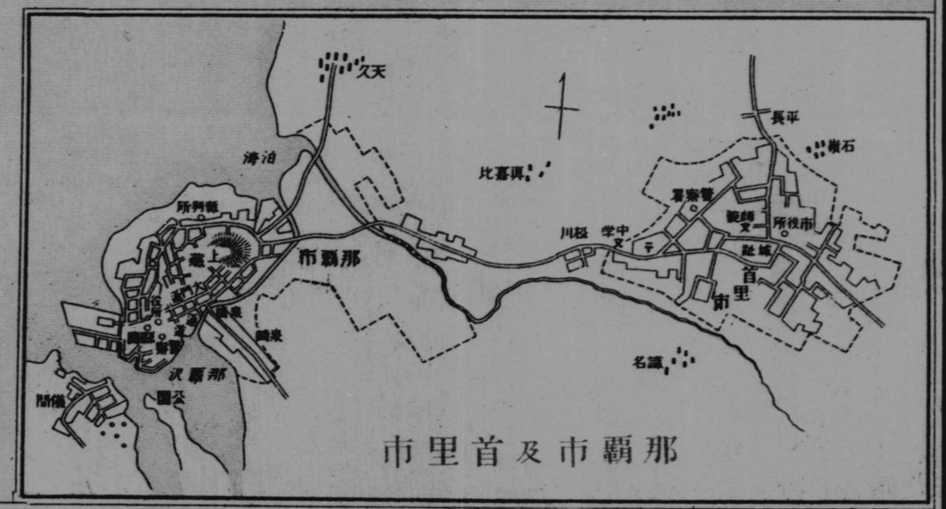

八重山郡
與那國
波照間島
新城島
黒島
竹富島
小濱島
西表
大濱
石垣
宮良
石垣島
石垣港
大濱
宮良
石垣
石垣島





大阪市西區新町通三丁目二十番地
著作印刷兼發行所 和樂路屋
日下伊兵衛





沖繩縣全圖

縣內鐵道時間表及粁程

昭和十二年四月二十七日印刷
昭和十二年四月三十日發行

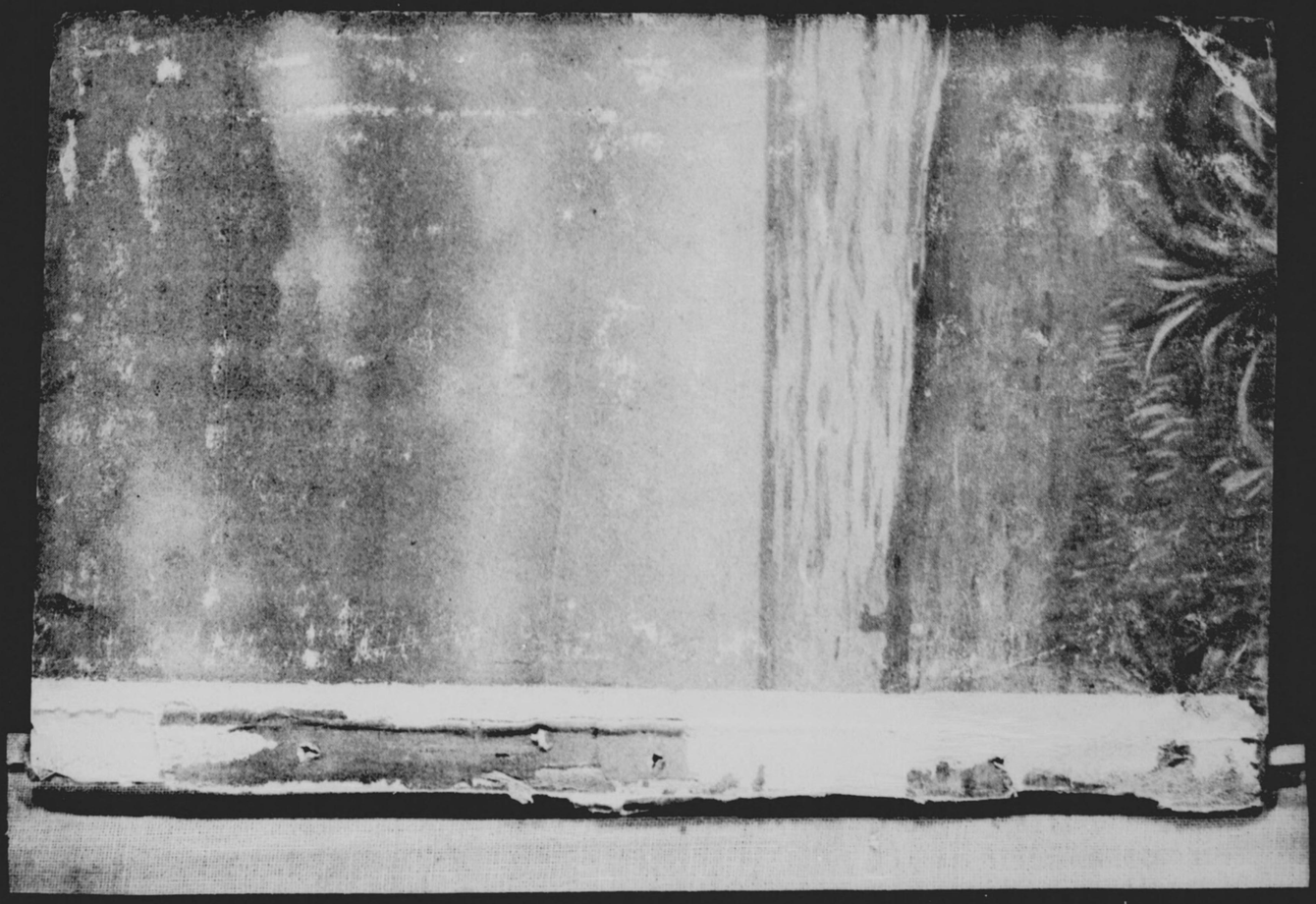
沖繩縣總務部統計課

印刷所　那覇市通堂町二ノ一
向春商會印刷部

印刷人　那覇市通堂町二ノ一
嘉味田朝茂

正誤表

頁	行	欄	誤	正
目次	三行目		四百午前人民より中	行旅病人及行旅死亡人四百年前人民中より
本文	五行目		那覇秋速	那覇秒速
	七行目		驛務	驛務
	九行目		一・四一	六・四一
	十行目		沖繩神社	沖繩神社
	十一行目		青教學校	青年學校
	十二行目		風土格適し	風土に適し
	十四行目		四六二五九	四六一五九
	十五行目		同十年	同八年
一〇	三行目		一三六	三六
一〇	四行目		現給金付	現金給付
一〇	五行目		その後規模	その規模
一〇	十行目		四百四十年四	四百四十四年
一〇	十一行目		龍洲艦	龍洲艦
一〇	十二行目		世字	世子
一〇	十四行目		南を世持を	南を世持備
一〇	十五行目		炎爾來す	炎爾來す
一〇	十六行目		今臨仁村字運天	今臨仁村字下運天
一〇	十七行目		三神	二神
九	二行目死亡			
九	十行目		大豆	
四	二行目		同九年作付別段	
四	二行目		山林割合	
三	二行目		同八年	
一	二行目			
一	三行目			



544